

平成20年度

岩手県農業研究センター 年報

平成22年2月



## 目 次

### I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数	I-1
2 会議、委員会、部会等の運営	I-2
(1) 農業試験研究推進会議等の開催	I-2
ア 新規試験研究課題の評価と選定	I-2
イ 試験研究成果の評価と採択	I-4
ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価	I-6
エ その他	I-7
オ 外部評価委員	I-8
(2) 企画運営会議、全体会議の概要	I-9
(3) 委員会等の運営	I-13
ア ほ場管理委員会	I-13
イ 図書管理委員会	I-13
ウ 研究報告等編集委員会	I-13
エ 参観デー等企画運営委員会	I-13
オ 特許審査委員会	I-14
カ 備品導入検討委員会	I-14
キ 環境管理委員会	I-15
ク 職員衛生委員会	I-15
ケ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会	I-15
(4) その他会議	I-15
ア 全国農業関係試験研究場所長会議	I-15
イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議	I-15
ウ 全国農業関係試験研究主務課長・場長会議	I-16
エ 全国畜産関係試験研究場所長会議	I-16
オ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議	I-16
カ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議	I-16
キ 岩手県農作物病虫害・雑草防除基準編集所内検討会議	I-16
ク 東北農業試験研究推進会議	I-16
ケ 東北地域研究・普及連絡会議	I-18
コ 県内における開催学会	I-18
サ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長会議	I-18

### II 試験研究の推進

1 研究活動の概要	II-1
2 トピックス	II-2
(1) 組織改編	II-2
(2) 大豆小畦立て播種栽培技術の開発及び普及(平成20年度 実績顕著者表彰)	II-3

(3) 特定課題調査検討チームによる部門横断的な課題解決への取り組み	II-4
<b>3 研究室の動き</b>	<b>II-5</b>
(1) プロジェクト推進室	II-5
(2) 企画管理部	II-6
(3) 技術部	II-7
(4) 環境部	II-10
(5) 病虫害防除部	II-11
(6) 畜産研究所	II-12
(7) 県北農業研究所	II-14
<b>4 平成20年度試験研究課題</b>	<b>II-15</b>
(1) 細目課題分類	II-15
(2) 試験研究課題一覧	II-16
(3) 要望課題の措置	II-27
<b>5 共同研究等の推進</b>	<b>II-33</b>
(1) 国庫委託研究事業	II-33
(2) 農研機構プロジェクト(交付金プロジェクト)研究	II-33
(3) 農林水産省プロジェクト研究委託事業	II-33
(4) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	II-34
(5) 重点地域研究開発推進プログラム(地域ニーズ即応型)	II-35
(6) その他独法等からの委託	II-35
(7) 民間委託試験	II-35
(8) 新夢県土いわて戦略的研究推進事業	II-35
(9) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究	II-36
(10) 大学との共同研究	II-36
(11) 他の公設試との共同研究	II-36
(12) AFR(岩手農林研究協議会)研究会	II-36
(13) その他共同研究	II-37
(14) その他産学官連携	II-38
<b>6 現地試験の実施</b>	<b>II-39</b>
<b>III 試験研究の成果</b>	
<b>1 試験研究成果</b>	<b>III-1</b>
(1) 平成20年度成果数	III-1
(2) 外部評価結果(集計)	III-1
(3) 平成20年度成果名及び外部評価結果一覧	III-2
<b>2 追跡評価</b>	<b>III-7</b>
(1) 評価視点	III-7
(2) 追跡評価の調査方法	III-7
(3) 追跡評価結果	III-8

3	東北農業試験研究成果	Ⅲ-12
(1)	研究成果数	Ⅲ-12
(2)	研究成果名	Ⅲ-12

#### IV 試験研究成果の発表

1	試験成績書等刊行物	IV- 1
2	研究レポート	IV- 2
3	岩手県農業研究センター研究報告	IV- 3
4	学会等研究報告	IV- 5
5	雑誌等掲載	IV-12
6	新聞等掲載	IV-16
7	テレビ・ラジオ放送	IV-20
8	指導資料等掲載	IV-21
9	図書資料収集・提供	IV-23
10	ホームページ	IV-23

#### V 指導・啓発活動

1	技術伝達研修等の実施	V- 1
2	現地指導・研修会等への講師派遣	V- 3
3	視察者、見学者の受け入れ状況	V-14
4	春季一般公開及び参観デー	V-14
5	現地ふれあい農業研究センター	V-14
6	一日子供農業研究員	V-14
7	加工体験	V-14
8	農業科学博物館・農業ふれあい公園	V-15
9	研修生の受け入れ	V-16
(1)	海外研修員	V-16
(2)	短期研修生	V-16
(3)	体験学習の受け入れ	V-16
	ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの	V-16
	イ インターンシップ等に対応したもの	V-17
10	協議会、委員会等委員	V-18

#### VI 職員研修

1	大学院派遣	VI- 1
2	海外派遣・研修	VI- 1
3	国内研修への派遣	VI- 1
(1)	依頼研究員	VI- 1
(2)	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修	VI- 1
(3)	農業中核研究員養成研修	VI- 1

(4) 農林水産研究高度化人材育成セミナー	VI- 2
(5) その他	VI- 2
<b>4 所内セミナー等</b>	<b>VI- 3</b>

**VII 試験研究以外の業務概要**

<b>1 作物の原々種の採種</b>	<b>VII- 1</b>
(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産	VII- 1
(2) その他原々種種子の生産	VII- 1
<b>2 作物の原種の採種</b>	<b>VII- 1</b>
(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産	VII- 1
(2) その他原種種子の生産	VII- 2
<b>3 種苗等の配布</b>	<b>VII- 3</b>
(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布	VII- 3
(2) その他種苗の配布	VII- 4
<b>4 県有種雄牛の精液の供給</b>	<b>VII- 5</b>
(1) 黒毛和種	VII- 5
(2) 日本短角種	VII- 5
<b>5 種豚、種鶏等の配布</b>	<b>VII- 6</b>
(1) 銘柄鶏の配布	VII- 6
<b>6 寄託放牧</b>	<b>VII- 6</b>
(1) 牛	VII- 6
(2) 馬	VII- 6

**VIII 人事、予算、財産**

<b>1 岩手県農業研究センター予算</b>	<b>VIII- 1</b>
<b>2 建物、用地の面積及び飼養家畜数</b>	<b>VIII- 2</b>
(1) 建物・用地の面積	VIII- 2
(2) 飼育家畜頭数	VIII- 2
<b>3 種苗登録、特許等</b>	<b>VIII- 3</b>
(1) 種苗登録	VIII- 3
(2) 特許、実用新案	VIII- 4
(3) 一般に公開しているプログラム等	VIII- 4
<b>4 表彰</b>	<b>VIII- 5</b>
<b>5 職員名簿</b>	<b>VIII- 8</b>

<b>沿革</b>	<b>VIII-10</b>
-----------	----------------

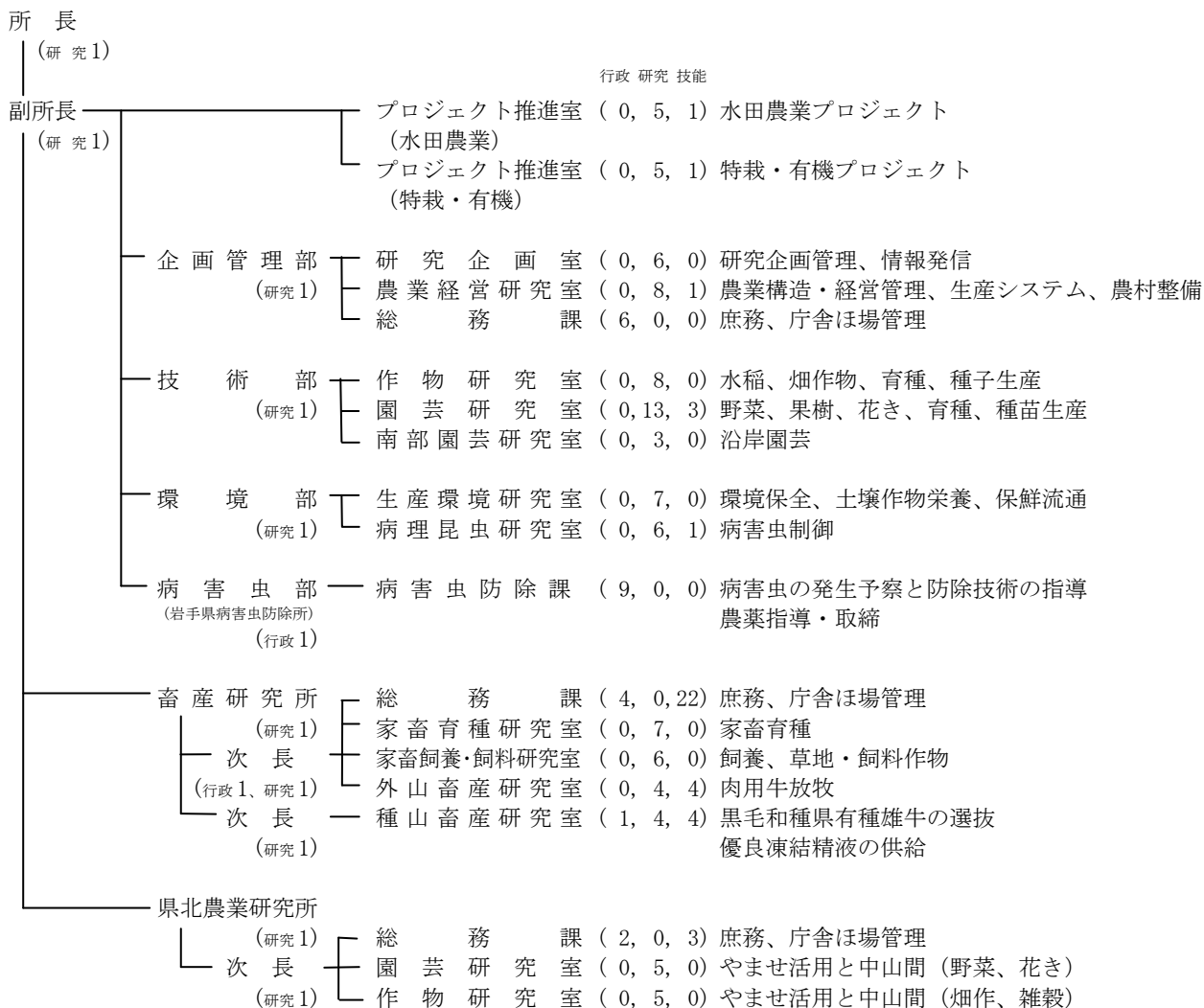
# I 農業研究センターの概要





# 1 岩手県農業研究センター 組織機構・職員数

(平成 20 年 4 月 1 日現在の実配置数)



	本部		畜産研究所			県北農業研究所 (軽米町)	合計
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (盛岡市玉山区)	種山畜産研究室 (住田町)		
行政	16		5		1	2	24
研究	63	3	15	4	5	12	102
技能	7		22	4	4	3	40
合計	86	3	42	8	10	17	166

## 2 会議、委員会、部会等の運営

### (1) 農業試験研究推進会議等の開催

#### ア 新規試験研究課題の評価と選定

##### (ア) 第1回内部検討会議

###### a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産部会*1	園芸部会	畜産部会	総合部会*2	県北振興*3
開催日		20. 8. 4(月)	20. 8. 5(火)	20. 8. 6(水)	20. 8. 5(火)	20. 8. 7(木)
参集範囲	(財)生物工学研究センター	○	○	—	—	—
	農業普及技術課	○	○	○	○	○
	農村計画課	—	—	—	○	—
	農村建設課	○	—	—	—	—
	農産園芸課	○	○	—	○	○
	畜産課	—	—	○	—	—
	久慈地方振興局農政部	—	—	—	—	○
	二戸地方振興局農政部	—	—	—	—	○
	中央家畜保健衛生所	—	—	○	—	—
	農業大学校	○	○	—	○	○
	中央農業改良普及センター	○	○	○	○	○
	八幡平農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	○
農業研究センター	○	○	○	○	○	

\* 1 : プロジェクト推進室(水田農業)に関する試験研究課題については、農産部会で協議 (以下同様)。

\* 2 : プロジェクト推進室(特裁・有機)に関する試験研究課題については、総合部会で協議 (以下同様)。

\* 3 : 「県北振興」は、県北振興連携プロジェクトの略記。ほうれんそう・雑穀に関する試験研究課題について協議 (以下同様)。

###### b 協議事項

- (a) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について
- (b) 平成 21 年度試験研究を要望された課題とその措置(案)について
- (c) その他

##### (イ) 第1回内部調整会議

###### a 開催日 20.8.25 (月)

###### b 協議事項

- (a) 平成 21 年度実施要望課題の措置について
- (b) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について
- (c) その他

###### c 参集範囲

農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長

(ウ) 第1回外部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産部会・園芸部会	畜産部会	総合部会	県北振興*1	
開催日		20. 9. 16(火)	20. 9. 18(木)	20. 9. 16(火)	20. 9. 24(火)	20. 9. 30(火)
参集範囲	外部評価委員	○	—	—	—	—
	生産者等	—	—	—	○*2	○*3
	東北農政局岩手農政事務所	○	—	—	—	—
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	—	—	○	○
	岩手県農業共済組合連合会	○	—	—	—	—
	岩手県農産物改良種苗センター	○	—	—	○	—
	岩手県植物防疫協会	○	—	—	—	—
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	—	—	—	—
	岩手県農業公社	○	—	—	—	—
	岩手県農業機械協会	○	—	○	—	—
	新岩手農業協同組合	—	—	—	○	○
	花巻農業協同組合	—	—	—	○	—
	(地独)工業技術センター	—	—	—	—	—
	花巻市	—	—	—	○	—
	二戸市	—	—	—	○	—
	軽米町	—	—	—	○	—
	県南広域振興局花巻総合支局農林部	—	—	—	○	—
	二戸地方振興局農政部	—	—	—	○	—
	流通課	—	—	—	—	○
	農業普及技術課	—	—	—	○	—
	農産園芸課	—	—	—	—	○
	中央農業改良普及センター	—	—	—	○	○
	八幡平農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	二戸農業改良普及センター	○	○	○	○	○
	農業研究センター	○	○	○	○	○

\* 1 : 県北振興連携プロジェクトの試験研究会議名は、「試験研究課題検討会」。(9/24 は雑穀関係、9/30 はハウレンソウ関係について検討)

\* 2 : 「生産者等」は、雑穀販売・流通関係業者。

\* 3 : 「生産者等」は、ほうれんそう生産者

b 説明事項

- (a) 岩手県農業研究センターの概要について
- (b) 平成 20 年度の主な試験研究の取組みについて
- (c) 外部評価について

c 協議事項

- (a) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について
- (b) その他

(エ) 第1回総合調整会議

a 開催日 20.10.27 (月)

b 協議事項

- (a) 平成 21 年度実施要望課題の措置について
- (b) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について
- (c) その他

c 参集範囲

農業普及技術課総括課長、中央農業改良普及センター所長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長

## イ 試験研究成果の評価と採択

### (ア) 第2回内部検討会議

#### a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産部会	園芸部会	畜産部会	総合部会	県北振興
開催日		20.12. 8(月)	[果樹・花き] 20.12. 9(火) [野菜] 20.12.10(水)	20.12.12(金)	20.12.10(水)	20.12.11(木)
参集範囲	(財)生物工学研究センター	○	○	—	—	—
	農業振興課	○	—	—	—	—
	農業普及技術課	○	○	○	○	○
	農村計画課	○	—	—	—	—
	農村建設課	—	—	—	○	—
	農産園芸課	○	—	—	○	○
	畜産課	—	—	○	—	—
	生物工学研究所	○	○	—	—	—
	盛岡地方振興局農政部	—	—	○	—	—
	久慈地方振興局農政部	—	—	○	—	—
	二戸地方振興局農政部	—	—	○	—	—
	中央家畜保健衛生所	—	—	○	—	—
	農業大学校	○	○	○	○	○
	中央農業改良普及センター	○	○	○	○	○
	盛岡農業改良普及センター	—	—	—	○	—
	八幡平農業改良普及センター	○	—	—	—	○
	一関農業改良普及センター	○	—	—	○	—
	久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	二戸農業改良普及センター	○	—	—	○	○
農業研究センター	○	○	○	○	○	

#### b 協議事項

- (a) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について (農産部会のみ協議)
- (b) 平成 20 年度試験研究成果(案)について
- (c) 病虫害防除技術情報について (農産部会・園芸部会で協議)
- (d) その他

### (イ) 第2回内部調整会議

#### a 開催日時 20.12.17 (水)

#### b 協議事項

- (a) 平成 21 年度新規試験研究課題(案)について
- (b) 平成 20 年度試験研究成果(案)について
- (c) その他

#### c 参集範囲

農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長

(ウ) 第2回外部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産部会	園芸部会	畜産部会	総合部会	県北振興*1
開催日		21. 1. 7(水)	[果樹・花き] 21. 1. 6(火) [野菜] 21. 1. 8(木)	21. 1. 9(金)	21. 1. 8(木)	21. 1.14(水)
参集範囲	外部評価委員	○	○	○	○	—
	東北農政局岩手農政事務所	○	○	—	—	—
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	—	—	○
	岩手県農業共済組合連合会	○	○	○	—	—
	岩手県土地改良事業団体連合会	○	—	—	○	—
	岩手県農産物改良種苗センター	○	○	—	—	○
	岩手県植物防疫協会	○	○	—	—	—
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	○	—	—	—
	岩手県農業公社	○	—	○	—	—
	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター	—	—	○	—	—
	岩手県農業機械協会	○	—	—	—	—
	新岩手農業協同組合	—	—	—	—	○
	花巻農業協同組合	—	—	—	—	○
	流通課	—	—	—	—	—
	農業普及技術課	—	—	—	—	○
	農産園芸課	—	—	—	—	○
	盛岡地方振興局農政部	—	—	—	—	○
	県南広域振興局農林部	—	—	—	—	○
	久慈地方振興局農政部	—	—	—	—	○
	中央農業改良普及センター	—	—	—	—	○
	八幡平農業改良普及センター	—	—	—	—	○
久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	○	
二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	○	
農業研究センター	○	○	○	○	○	

\*1：県北振興連携プロジェクトの試験研究会議名は、「試験研究成果検討会」。

b 協議事項

- (a) 平成21年度新規試験研究課題(案)について（農産部会のみ）
- (b) 平成20年度試験研究成果(案)について
- (c) その他

(エ) 総合調整会議

a 開催日時 21.1.26（月）

b 協議事項

- (a) 平成21年度新規試験研究課題(案)について（農産部会のみ）
- (b) 平成20年度試験研究成果(案)について
- (c) その他

c 参集範囲

農業普及技術課総括課長、中央農業改良普及センター所長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長

ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価

(ア) 第3回内部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等	プロジェクト 推進室	企画管理 部	技術部 (作物)	技術部 (園芸)	環境部	畜産 研究所	県北農業 研究所
開催日	21.3.3 (火)	21.3.3 (火)	21.2.26 (木)	21.2.27 (金)	21.3.2 (月)	21.2.25 (水)	21.3.4 (水)
参集範囲	(財)生物工学研究センター	—	—	—	○	○	—
	農林水産企画室	—	—	—	—	—	—
	団体指導課	—	—	—	—	—	—
	流通課	—	—	—	—	—	—
	農業振興課	—	—	—	—	—	—
	農業普及技術課	—	—	—	—	—	○
	農村計画課	○	○	—	—	—	—
	農村建設課	—	—	—	—	—	—
	農産園芸課	○	—	○	○	—	○
	畜産課	—	—	—	—	—	○
	生物工学研究所	—	—	—	—	—	—
	盛岡地方振興局農政部	—	—	—	—	—	○
	県南広域振興局農林部	—	—	—	—	—	○
	久慈地方振興局農政部	—	—	—	—	—	—
	二戸地方振興局農政部	—	—	—	—	—	○
	中央家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○
	県北家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○
	県南家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○
	農業大学校	—	○	○	○	—	○
	中央農業改良普及センター	○	○	—	○	○	○
	盛岡農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—
	八幡平農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○
	奥州農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○
	一関農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—
	宮古農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○
	久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○
	二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○
	農業研究センター	○	○	○	○	○	○

b 協議事項

- (a) 平成21年度試験研究課題の試験設計について  
(b) その他

(イ) 内部調整会議

a 開催日時 21.3.19 (木)

b 協議事項

- (a) 年度評価について  
(b) 事後評価について  
(c) 追跡評価について

c 参集範囲

農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長

## エ その他

### (ア) 岩手県農業技術開発会議〔第1回〕

- a 開催日時 20.5.14 (水)
- b 報告事項
  - (a) 農業技術開発基本構想について
  - (b) 農業研究センター組織再編について
- c 協議事項
  - (a) 平成20年度の技術開発に係る計画等について
  - (b) 技術開発に係る意見・要望等について
- d 参集範囲  
農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究所次長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長、同各研究所次長、農業大学校長、中央農業改良普及センター所長

### (イ) 岩手県農業技術開発会議〔第2回〕

- a 開催日時 21.2.13 (金)
- b 報告事項
  - (a) 農業研究センターにおける技術開発について
  - (b) 財団法人岩手生物工学研究センターにおける技術開発について
- c 協議事項
  - (a) 岩手県農業技術開発基本構想の進行管理に係る意見交換
  - (b) その他
- c 参集範囲  
農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究所次長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長、同各研究所長、同各研究所次長、農業大学校長、中央農業改良普及センター所長

## オ 外部評価委員

所属部会	氏名	役職名
農産	小野 正一	農事組合法人アグリパーク舞川 専務理事・岩手県農業農村指導士
	高橋 静男	(有)夢農業たかはし 代表取締役・岩手県農業農村指導士
	千葉 丈	全農岩手県本部営農対策部 次長兼営農技術課長
	星野 次汪	岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 教授
	持田 秀之	(独)東北農研東北水田輪作研究チーム チーム長
園芸 (果樹)	紺野 啓	岩手県果樹協会 会長
	菅原 榮一	岩手県農業農村指導士
	副島 淳一	(独)果樹研究所リンゴ研究チーム チーム長
	高梨 祐明	(独)東北農業研究センター省農薬リンゴ研究チーム チーム長
園芸 (花き)	稲本 勝彦	(独)東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 主任研究員
	及川 辰幸	(有)及川フラググリーン 社長
	日影 孝志	八幡平市花き研究開発センター 所長
園芸 (野菜)	小川 清弘	全農岩手県本部園芸部 部長
	門田 育生	(独)東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 上席研究員
	武藏 康	岩手県農業農村指導士
	森下 昌三	(独)東北農業研究センター夏秋どりイチゴ研究チーム チーム長
畜産	及川 欣一	岩手県農業農村指導士
	小田 伸一	岩手大学農学部動物科学課程 准教授
	菊池 清	全農岩手県本部畜産酪農部 次長
	佐藤 剛	(独)家畜改良センター岩手牧場 次長
	澤口 松男	岩手県農業農村指導士
	須山 哲男	(独)東北農業研究センター 研究管理監
	山影 典良	(社)岩手県畜産協会経営支援部 部長
総合	鶴川 洋樹	(独)東北農業研究センター 東北地域活性化チーム チーム長
	小島 幸喜	有機農産物アドバイザー・岩手県有機農業連絡会 会長
	河合 成直	岩手大学農学部応用生物化学課程 教授
	広田 純一	岩手大学農学部共生環境課程 教授

内 訳 別	人 数	部 会 別	人 数	主 な 分 野
学識経験者	14名	農産部会	5名	水稻、畑作、生産工学など
農業者	8名	園芸部会	11名	果樹、花き、野菜など
農業関係団体職員	4名	畜産部会	7名	畜産全般
専門部会長が特に必要と認めるもの	1名	総合部会	4名	経営、生産環境など共通
合 計	27名	合 計	27名	

※ 県北振興連携プロジェクトでは、外部評価委員に代わり、成果ユーザーとして、ほうれんそう生産者6名、雑穀販売・流通業者2名から意見を伺った。



(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
20. 04. 08 (火)	特別会議室	(第 1 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究推進に係る県北・沿岸振興部会の設置(試行)について 2 連絡事項 (1) 試験研究推進に係る諸規定について (2) 平成 20 年度試験研究課題の最終調整結果について (3) 外部評価委員の候補者推薦について(任期:20~21 年度) (4) 研究報告第 9 号の投稿状況について (5) 災害発生時における職員配備体制及び非常召集連絡系統図について (6) 農業研究センター要覧の改訂について (7) 4 月、5 月の行事予定及び年間スケジュールについて
20. 04. 15 (火)	大会議室	(全体会議) 平成 20 年度 業務推進方針等について (1) 農業普及技術課 業務推進方針及び農業技術開発基本構想について (2) 農業研究センター ア センター運営方針について イ プロジェクト推進室、各部・研究所の業務推進方針について (ア) 企画管理部 (イ) 技術部 (ウ) 環境部 (エ) 病虫害防除部 (オ) 畜産研究所 (カ) 県北農業研究所 (キ) プロジェクト推進室
20. 04. 25 (金)	特別会議室	(第 2 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究推進に係る県北・沿岸部会設置 (試行) について (2) 外部評価委員候補者の決定について (3) タイムリーな成果の提案について 2 連絡事項 (1) 農業技術開発会議について (2) 「研究員等育成プログラム」について (3) 県庁関係各課との業務打ち合わせについて (4) 「第 51 回東北農業試験研究発表会」における発表課題の募集について (5) 新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業の一次審査採択状況について (6) 5 月、6 月の行事予定について
20. 05. 26 (月)	特別会議室	(第 3 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) タイムリーな成果の提案について (2) 提案型プロジェクトチーム (仮称) の設置について (3) 平成 20 年度応募・設定した競争的研究資金事業由来課題の取り扱いについて 2 連絡事項 (1) 競争的研究資金事業等に係る応募提案・委託課題検討方法の見直しについて (2) 主要課題・組織運営課題の進行管理について (3) センター所長表彰について (4) マスコミへの情報発信について (5) 農業農村指導士との懇談会の開催について (6) 岩手県農業研究センター参観デーの開催について (7) 非常連絡訓練の結果について

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
		(8) 要望課題の集約方法について (9) 外部評価委員の決定について (10) 北東北3県人事交流に係る研修生の受入れについて (11) 研究員等育成研修計画の作成依頼について (12) 6月、7月の行事予定について
20.06.30 (月)	特別会議室	(第4回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成20年度第1回岩手県農業研究センター所長表彰の審査について (2) 試験研究成果書の様式改正(担当研究員の項目追加)について 2 連絡事項等 (1) 平成20年度 試験研究推進会議 第1回内部検討会議の日程について (2) 平成21年度 新規試験研究課題設定に係る考え方等について (3) センター業務方針の重要課題の第一四半期の取り組みについて (4) 「特定調査プロ」チーム員及び進捗状況等について (5) 図書管理委員会での検討事項について (6) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (7) 7月、8月の行事予定について
20.07.30 (水)	特別会議室	(第5回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 業績顕著者表彰について (2) 新規課題(委託・競争型関連)の提案について 2 連絡事項等 (1) 内部検討会議に提案予定の平成21年度新規試験研究課題(案)について (2) 現地ふれあい農業研究センターの実施申込み状況について (3) 県議会農林水産委員会県内調査について (4) 地域連携農業高校実践教育事業について (5) プロジェクト研究課題等の進行管理のあり方について (6) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (特定調査チームの進捗状況、会議等復命、各部等の取り組みなど) (7) 8月、9月の行事予定について
20.08.25 (月)	特別会議室	(第6回企画運営会議) 1 協議事項 なし 2 連絡事項等 (1) 平成21年度向け競争的研究資金事業関連情報について (2) 外部評価委員事前説明会及び外部検討会議について (3) 現地ふれあい農業研究センターの開催について (4) 岩手県議会農林水産委員会の県内調査対応について (5) 平成20年度東北地域農業関係試験研究場所長会議について (6) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (特定調査チームの進捗状況、会議等復命、各部等の取り組みなど) (7) 9月、10月の行事予定について
20.10.03 (金)	特別会議室	(第7回企画運営会議) 1 協議事項 (1) タイムリーな成果の提案について (2) 平成21年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について (3) 特定課題調査検討チームの検討経過及び今後対応等について 2 連絡事項等 (1) センター内におけるUSBメモリ等記録媒体の管理の徹底について (2) 東北農業研究センターと岩手県農業研究センターとの業務連携会議について (3) 過年度「研究成果」の有効性確認について (4) 平成20年度第2回岩手県農業研究センター所長表彰について (5) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
		(特定調査チームの進捗状況、会議等復命、各部等の取り組みなど) (6) 農林水産大臣の登録を受けていない農薬を試験研究に用いた際の収穫物等に関する試験終了後の取り扱いについて (7) 平成 21 年度 農業研究センター費の予算要求について (8) 10 月、11 月の行事予定について
20. 10. 27 (月)	特別会議室	(第 8 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) タイムリーな成果の提案について (2) 平成 21 年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について (3) 平成 20 年度第 2 回岩手県農業研究センター所長表彰について 2 連絡事項等 (1) 平成 20 年度試験研究成果のとりまとめ日程について (2) 過年度「研究成果」の有効性確認結果について (3) 特定課題調査検討チームについて (4) 「らぼ・れたあ」未提出分原稿提出について (5) 備品導入検討委員会の結果報告について (6) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (7) 11 月、12 月の行事予定について
20. 12. 01 (月)	特別会議室	(第 9 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) タイムリーな成果の提案について 2 報告事項 (1) タイムリーな成果の公表について (2) 県北振興連携プロジェクトについて (3) 特定課題調査検討チームについて 3 連絡事項 (1) 試験研究推進会議について (2) 平成 20 年度予定試験研究成果について (3) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (4) 12 月、1 月の行事予定について
20. 12. 17 (水)	特別会議室	(第 10 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成 21 年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について 2 連絡事項等 (1) 年度末に向けた事務等について (2) 1 月、2 月の行事予定について
21. 01. 26 (月)	特別会議室	(第 11 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成 21 年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について (2) 平成 20 年度第 3 回岩手県農業研究センター所長職員表彰について 2 連絡事項等 (1) 職員意識調査の実施について (2) 追跡調査の実施について (3) 県農業技術開発会議の開催について (4) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (5) 2 月、3 月の行事予定について
21. 02. 23 (月)	特別会議室	(第 12 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成 21 年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について (2) 平成 21 年度業務方針の作成について 2 連絡事項等 (1) 第 3 回内部検討会議に係る試験研究課題について

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
		(2) 試験研究成果等に関する情報提供及び広報活動について (3) 平成21年度農業研究センター参観デー開催日等について (4) 平成20年度2月補正予算及び平成21年度当初予算について (5) 農業試験研究推進構想の目標値に対する進捗状況について (6) 外部評価委員の人事異動等に伴う変更について (7) 特定課題調査検討チームの検討状況 (8) 平成20年度農業研究センター年報の原稿作成について (9) 研究報告(第10号)の投稿募集について (10) 保健衛生教室アンケート結果について (11) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (12) 3月、4月の行事予定について
21.03.19 (木)	特別会議室	(第13回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成21年度競争的研究資金事業等応募提案・委託課題の提案について (2) タイムリーな成果の提案について (3) 平成21年度業務方針(案)について (4) 特定課題調査検討チーム検討結果について 2 連絡事項等 (1) 試験研究課題の最終調整について (2) 職員意識調査結果の概要について (3) 平成21年度農業研究センター全体会議の開催について (4) 平成21年度研究報告および平成20年度年報の進捗状況について (5) 所内規程で定められている副所長の業務について (6) 副所長、各部長・研究所長からの情報提供等 (7) 4月の行事予定について

### (3) 委員会等の運営

#### ア ほ場管理委員会

開催月日	活動事項	内 容
20.04.04	圃場管理委員会	○設置要綱改正と平成20年度体制の確認 ○ほ場利用計画と案内用試験ほ場図の作成について ○ほ場管理委託と作業計画 ○作業部会委員の選定と開催について
20.04.08	作業部会打ち合わせ	○作業部会「ほ場使用及びほ場作業調整」の年間計画 ○平成20年度の岩手県農業公社への作業委託内容 ○水路掃除 ○圃場利用計画、E地区水稻育苗ハウスの利用計画 ○圃場用水の利用計画 ○E地区水稻育苗ハウス周辺の揚水ポンプの稼働
20.04.10	水田関係 E地区水田等水路泥上げ、 圃場周辺のゴミ拾い	○E地区排水路、水稻育種研究室耐冷性検定圃場の泥上げ作業 ○E地区圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業
20.04.25	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について（調整） ○その他技術部に關わる圃場の管理について
20.05.27	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について（調整） ○その他技術部に關わる圃場の管理について
20.06.26	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について（調整） ○その他技術部に關わる圃場の管理について
20.07.31	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について（調整） ○その他技術部に關わる圃場の管理について
20.08.27	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について（調整） ○その他技術部に關わる圃場の管理について
20.09.16	水田関係圃場管理打合せ	○秋作業の計画と調整

#### イ 図書管理委員会

開催月日	場所	内 容
20.06.18	図書室	図書の現状、登録システムの更新、図書室の模様替えについて

#### ウ 研究報告等企画編集委員会

##### (ア) 委員会

開催月日	場所	内 容
20.06.30	特別会議室	(第4回企画運営会議終了後) 研究報告の位置付け、第9号の投稿状況および編集スケジュールについて
20.07.30	特別会議室	(第5回企画運営会議終了後) 第9号の進捗状況の確認および審査のあり方について
20.12.01	特別会議室	(第9回企画運営会議終了後) 第9号の事前審査をふまえた本審査（採否決定）について

##### (イ) 幹事会

開催月日	場所	内 容
20.06.06	1階小会議室	研究報告の位置付けおよび第9号の投稿状況について
21.03.17	2階小会議室	研究報告編集作業における本年度の総括と次年度以降の方針について

#### エ 参観デー等企画運営委員会

##### (ア) 委員会

開催月日	場所	内 容
20.06.30	特別会議室	【第4回企画運営会議】 (1) 第63回岩手県全国農業機械実演展示会における畜産試験研究成果展及び農事・営農相談コーナーの設置について (2) 岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画（案）について

(イ) 幹事会等  
(本部関係)

開催月日	場所	内 容
20.06.10	本部 1 階 小会議室	(1) 平成 20 年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について (2) 生物工学研究所参観デー及び中央農業改良普及センター参観デーとの同時開催について
20.08.06	本部 1 階 小会議室	(1) 平成 20 年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 開催計画について イ 人員配置、必要資材、許可車両について ウ 今後のスケジュール (予定) について (2) 生物工学研究所参観デーについて (3) その他

(畜産研究所関係)

開催月日	場所	内 容
20.06.10	セミナー室	平成 20 年度参観デー (1) 日程について (2) 開催期間中の人員について (3) 開催内容について
20.06.25	セミナー室	(1) 実施体制・今後のスケジュールについて (2) 体験コーナー内容について (3) 会場配置について
20.08.08	セミナー室	(1) 平成 20 年度参観デーに係る最終確認について (2) パネルおよび配布資材の準備進捗状況について (3) その他
20.08.19	セミナー室	(1) 実施体制確認 資材確認および会場配置確認

(県北農業研究所関係)

開催月日	場所	内 容
20.04.10	中会議室	(1) 平成 20 年度参観デー日程について (2) その他
20.07.01	応接室	(1) 平成 20 年度参観デー開催概要について (2) セミナー開催計画について
20.08.19	応接室	(1) 「平成 20 年度参観デーに係る職員への説明会」の事前打ち合わせ (2) 各班の準備進捗状況について (3) その他(併催行事の打合せ)
20.08.22	中会議室	(1) 平成 20 年度参観デーに係る職員への説明会 (2) 質疑応答
20.08.26	応接室	(1) 平成 20 年度参観デーに係る最終確認について (2) その他

オ 特許審査委員会

開催月日	場所	内 容
20.06.30	特別会議室	1 勤務発明の審査について (1) 勤務発明「イチゴ高設栽培装置の給液方法」 (2) 勤務発明「水田湛水直播機の作溝装置及び作溝同時播種法」
20.10.03	特別会議室	1 勤務発明の審査について (1) 勤務発明「りんどうの鮮度保持用包装及びりんどうの保存方法」 (2) 水稻品種「岩南 29 号」「岩手 85 号」 (3) ヒエ品種「ヒエ岩手 1 号」「ヒエ岩手 2 号」「ヒエ岩手 3 号」
21.03.13	特別会議室	1 勤務発明の審査について (1) りんどう品種「花鉢研 2」「A4PB No. 34-25」

カ 備品導入検討委員会

開催月日	場所	内 容
20.05.29	特別会議室	1 協議事項 (1) 平成 20 年度当初予算について (2) 購入に係る事務処理について

		(3) 研究用備品の現況確認及び更新計画の見直しについて
20.10.16	特別会議室	1 協議事項 (1) 平成20年度購入備品(1件) (2) 平成21年度予算要求に向けた研究用備品更新計画の策定
20.11.13	特別会議室	1 協議事項 (1) 平成20年度購入備品(2件) (2) 備品導入検討委員会設置要綱の改正について
21.02.10	持ち回り回議	1 協議事項 (1) 平成20年度購入備品(1件)

#### キ 環境管理委員会

開催月日	場所	内容
20.07.23	特別会議室	1 報告事項 (1) 平成19年度監視測定票・環境目的達成状況について (2) 平成20年度環境マネジメントシステム年間スケジュール 2 協議事項 (1) 環境目的、目標等の見直しについて (2) ISO14001規格改訂等に伴う要綱等の改正について

#### ク 職員衛生委員会

開催月日	場所	内容
20.11.12	応接室	1 議題 (1) 平成20年度定期健康診断受診・結果状況について (2) 公務災害及び労働災害の状況について

#### ケ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会

開催月日	場所	内容
20.06.04	特別会議室	1 協議 (1) 平成19年度管理運営報告について (2) 平成20年度事業計画について

### (4) その他会議

#### ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場所	内容
20.06.12 ～13	愛知県	参加者：所長 1 平成20年度第1回全国農業関係場所長会幹事会 2 全国農業関係試験研究場所長会議 (1) 平成20年度全国農業関係試験研究場所長会通常総会 (2) 平成20年度研究功労者表彰式 (3) 平成20年度全国農業関係試験研究場所長会現地検討会

#### イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場所	内容
20.09.11 ～12	岩手県	参加者：所長、副所長、企画管理部長、研究企画室長 1 情報交換 (1) 平成20年度主要研究課題・成果について (2) 試験研究体制の見直し状況と今後の連携について 2 協議 (1) 次年度以降の開催県、研究功労者表彰候補者、会報執筆等について (2) 平成20年度全国農業関係試験研究場所長会特別会計予算について (3) 平成20年度の会員及び会費等について (4) 農業研究センター内圃場調査 3 現地検討会 (1) 大豆小畦立て栽培現地実証補について(花巻市) (2) りんご現地適応性試験実証圃について(奥州市江刺区)

#### ウ 全国農業関係試験研究主務課長・場長会議

開催月日	場 所	内 容
		平成 20 年度は未開催

#### エ 全国畜産関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
20.06.17	東京都	1 通常総会 (1) 平成 19 年度事業報告及び収支決算について (2) 平成 20 年度事業計画及び収支予算について (3) 平成 20 年度会費の額及び徴収方法について (4) 役員選任に関する件 (5) その他 2 畜産研究功労賞表彰 3 研修会 「海外の家畜伝染病の発生動向と動物病原体のバイオセーフティー」 講師：動物衛生研究所 津田知幸 氏

#### オ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議

開催月日	場 所	内 容
20.08.18 ～19	宮城県	1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 (1) 試験研究を要する重要問題について (2) 国・独立行政法人に対する提案事項について (3) 各道県試験研究機関における最近の動きについて (4) 優秀畜産技術者表彰候補者の推薦について (5) 畜産研究功労者表彰候補者の推薦について (6) 次回開催地について (7) その他 4 現地視察 財団法人「蔵王酪農センター」(蔵王町)

#### カ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議

開催月日	場 所	内 容
		平成 20 年度は未開催

#### キ 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針所内検討会議

開催月日	場 所	内 容
20.10.23 ～24	2 階小会議室	(病害虫関係) 1 平成 21 年度県防除指針に対する要望事項への回答について 2 平成 21 年度県防除指針の主な採用農薬・削除農薬について
20.10.29	1 階小会議室	(雑草防除・成長調整剤関係) 1 平成 21 年度県防除指針に対する要望事項への回答について 2 平成 21 年度県防除指針の主な採用農薬・削除農薬について

#### ク 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
20.07.03 ～04	宮城県古川市 (宮城県古川農業試験場)	「基盤技術推進部会・土壌肥料研究会 (夏期)」 1 環境負荷低減を推進する試験研究の現状と課題
20.07.23 ～24	福島県郡山市 (磐梯熱海温泉 永楽館)	「野菜花き推進部会・野菜研究会 (夏期)」 1 主要野菜の減化学農薬、減化学肥料栽培のための技術開発の現状と課題
20.07.24 ～25	盛岡市 (東北農業研究センター)	「畜産推進部会・畜産研究会 (夏期)」 1 配合飼料高騰に対応した地域生産飼料の利用拡大方策
20.08.19 ～20	山形県鶴岡市 (山形大学農学部)	「基盤技術推進部会・作業技術研究会 (夏期)」 1 水田転換畑における土地利用型作物栽培の現状と今後の課題



開催月日	場 所	内 容
20.08.26 ～27	福島県郡山市他 (清陵山倶楽部)	「作物推進部会・畑作物研究会（夏期）」 1 加工業者が求める大豆品質について 2 各県の畑作物生育概況
20.08.26 ～27	宮城県仙台市他 (秋保温泉 岩沼屋)	「基盤技術推進部会・農業経営現地研究会（夏期）」 1 粗飼料自給率100%を目指した、稲発酵粗飼料（稲 WCS）への取り組みについて（コントラクターを中心とした現地事例調査を踏まえて）
20.08.28 ～29	宮城県松島町 (花ごころ湯 新富亭)	「基盤技術推進部会・病虫害研究会（夏期）」 1 化学合成農薬節減栽培の現状と今後の技術的問題
20.09.03	盛岡市 (東北農業研究センター)	「東北地域麦・なたね品種・系統検討会」 1 麦・なたねの有望品種・系統及び新配布系統の成績検討
20.09.04 ～05	秋田県秋田市 (秋田県農業試験場)	「東北地域水稻品種立毛検討会」 1 水稻育成系統等の試験実施状況の視察および立毛観察調査
20.09.11 ～12	秋田県横手市 (ウエルネス横手路)	「野菜花き推進部会・花き研究会（夏期）」 1 東北地域の花き生産が直面する諸問題への対応技術
20.09.19	岩手県八幡平市 (JA新しいわて安代中央支所)	「作物推進部会・そば研究会（夏期）」 1 品質面からみた東北のソバ生産振興上の諸問題と今後の取り組みについて
20.09.30	盛岡市 (東北農業研究センター)	「評価企画会議」 1 農業新技術 2009 候補の抽出 2 東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)実証技術候補の抽出 3 現場段階での重要な技術的課題の抽出 (1) 国の政策で対応すべき技術的課題候補の抽出 (2) (1)以外の技術的課題の抽出 4 重点検討事項の抽出 5 競争的研究資金獲得の取り組み 6 「研究成果情報」(冊子体)の見直しについて 7 その他
21.01.22 ～23	盛岡市 (岩手労働福祉会館)	「果樹推進部会」 1 重点検討事項の検討 (1) 温暖化に対応した果樹試験研究の推進方向 (2) 加工・業務用の国産くだもの生産・流通体制の方向性 2 現場段階での重要な技術的課題への取り組み「各県等から提案のあった現場段階での重要な技術的課題」の取り扱い 3 平成20年度の試験研究成果の検討・評価 4 その他
21.01.27	盛岡市 (東北農業研究センター)	「基盤技術推進部会」 1 主要研究成果の検討 2 重点検討事項「生産資材コスト高騰に対応する技術的課題」の検討 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組みの検討 4 専門調整区分へつなぐ重要研究問題の検討 5 地域情勢報告 6 その他
21.01.28	盛岡市 (東北農業研究センター)	「流通・加工推進部会」 1 主要研究成果の検討 2 重点検討事項「食品・作物研究における機能性研究への取り組みの現状と今後の展開方針」の検討 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組みの検討 4 農研機構に解決を要望する課題の検討 5 次年度重点検討事項候補課題の検討 6 その他
21.01.29 ～30	盛岡市 (サンセール盛岡)	「畜産推進部会」 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「東北地域の畜産分野における気候温暖化の現状と課題」 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 その他

開催月日	場 所	内 容
21. 01. 29 ～30	盛岡市 (東北農業研究センター)	「野菜・花き推進部会」 1 主要研究成果候補の検討 2 重点検討事項「東北の野菜花き施設園芸の現状と原油高騰対策」の検討 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組みの検討 4 その他
21. 01. 30	秋田県大仙市 (グラントバレス川端)	「作物推進部会」 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「大豆低コスト安定多収栽培技術の確立」の検討 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 分科会報告 5 その他
21. 02. 06	盛岡市 (東北農業研究センター)	「評価企画会議」 1 推進部会での検討の報告 2 現場段階での重要な技術的課題の抽出と検討 3 主要研究成果の評価および公表について 4 その他
21. 02. 06	盛岡市 (東北農業研究センター)	「本会議」 1 重点検討事項の検討 「東北地域における気候温暖化対応研究の推進について」 (1) 今後の温暖化研究の方向とあり方について (2) 東北地域における気候温暖化対応研究の推進について (3) 総合討論 2 研究成果情報(冊子体)の廃止について 3 イノベーションの促進と地域の農林水産業の振興について 4 その他

#### ケ 東北地域研究・普及連絡会議

開催月日	場 所	内 容
20. 10. 23	宮城県仙台市 (ホテル白萩)	1 「地域研究・普及連絡会議」における検討事項について 2 「国の施策で対応すべき技術的課題」候補等の選定について (1) 「国の施策で対応すべき技術的課題」候補の検討・選定 (2) 「競争的資金において優先的に取扱うことを希望する課題」の検討・選定 3 「農業新技術 2009」候補の選定等について (1) 「農業新技術 2009」候補の検討・選定 (2) 「農業新技術 2007」「農業新技術 2008」のフォローアップ調査の報告 4 「東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)」の選定について 5 今後の東北地域研究・普及連絡会議のあり方について 6 委託プロジェクト研究、研究成果実用化促進事業の21年度概算要求の説明について 7 その他

#### コ 県内における開催学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
20. 09. 25 ～26	岩手大学	平成20年度日本植物病理学会東北支部会

#### サ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長会議

開催月日	場 所	内 容
20. 11. 06	岩手県	参加者：企画管理部長、研究企画室長 1 北東北3県研究員の人事交流について 2 北東北3県研究課題の連携について

## II 試験研究の推進



## 1 研究活動の概要

県では、「岩手県農業・農村基本計画の目標達成に向けて平成 22 年度までの 5 年に重点的に取り組む施策」（平成 18 年 3 月）を踏まえ、地域の立地特性を生かしながら、意欲と能力のある担い手の確保・育成、安全・安心な農産物の安定的な生産・提供、活力ある農村社会の形成・農村の保全、環境に配慮した農業の振興を目指し、これらに貢献するため試験研究の指針として「岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けた平成 22 年度までに取り組む研究の方向について」（平成 19 年 3 月策定。以下「後期推進構想」という。）を策定している。以来、岩手県農業研究センターでは、この後期推進構想に基づき、①担い手の育成や産地拡大、地域の活性化に寄与する分野の研究開発、②安全・安心な食を求める消費者の視点に立った生産技術の研究開発、③地域資源の活用や豊かな農村環境にかかる研究開発の 3 つの基本方向に即して、時代を先取りした試験研究を着実に進めてきた。

平成 20 年度は、現場ニーズに基づく課題等を選定し、内部・外部の評価を経て、新規課題、継続課題、合計課題に取り組み、103 の成果をとりまとめた。

これらの試験研究の推進にあたっては、現場に密着したプロジェクト研究の推進とこれを支える基盤研究とが一体となって取り組むとともに、試験研究推進システム(PDCA サイクル)の円滑な運用や産学官との連携に努めるとともに、研究成果については、タイムリーな成果として公表（12 件）するなど、迅速な普及・定着化を図った。

## 2 トピックス

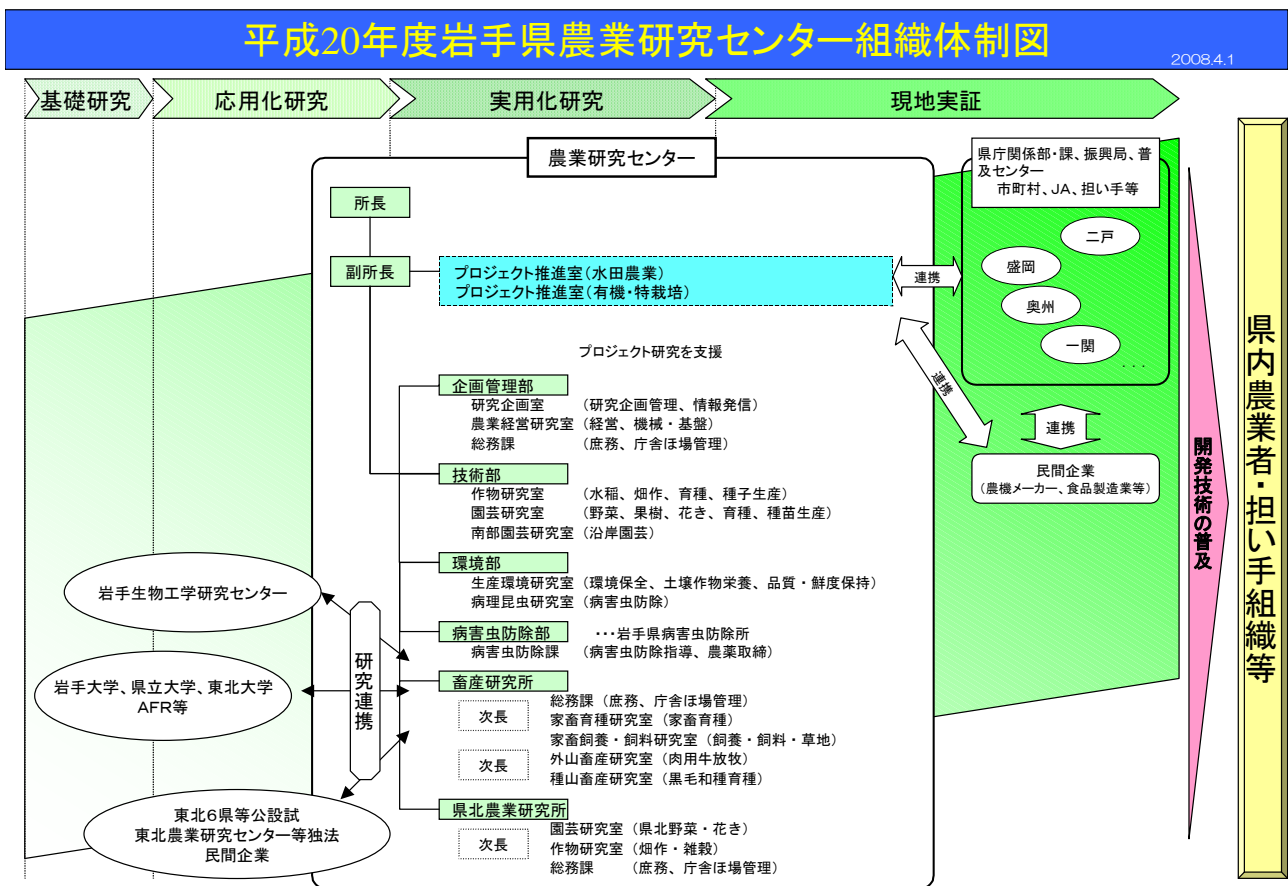
### (1) 組織再編

平成16年度から平成18年度に試験研究機関の独立行政法人化を検討し、平成19年4月に「独立行政法人化は行わない」となったが、引き続き内部改革を進めていくこととされ、これを受け、平成19年度、独立行政法人のメリットを活かした組織体制への検討を行ってきた。

平成20年4月、農業研究センターが、顧客ニーズに応えるとともに、産業としての農業への貢献を果たすため、より一層、効率的・効果的な技術開発を推進することができる組織体制への再編を行った。特に、県政課題解決に即応した重点課題への機動的対応を推進するため、プロジェクト推進による研究体制を整備した。

平成20年3月末：6部2研究所（4課1室22研究室）

→ 平成20年4月～：4部2研究所（4課1室14研究室）



## (2) 大豆小畦立て播種栽培技術の開発及び普及(平成 20 年度 事績顕著者表彰)

農業研究センタープロジェクト推進室および技術部作物研究室は、職務に関し有益な研究を行い優秀な成果をあげ、著しい功労があったとして、達増拓也岩手県知事より表彰を受けた。(平成 20 年 10 月 29 日、岩手県民会館)

### ア 被表彰者

プロジェクト推進担当	プロジェクト推進室長	及川一也
技術部	作物研究室長	佐々木力
プロジェクト推進担当	主任専門研究員	高橋昭喜
プロジェクト推進担当	主任専門研究員	渡邊麻由子
技術部	技能員	小黒澤清人
農林水産部農産園芸課	主査	井村裕一

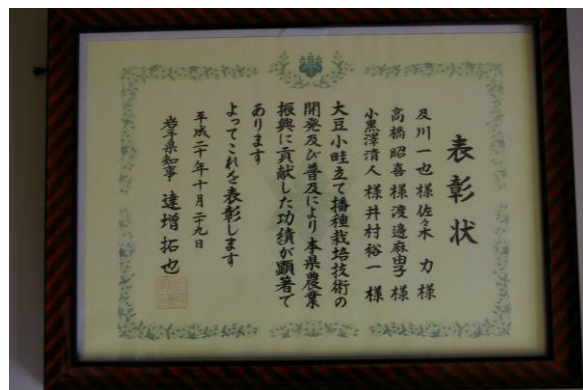
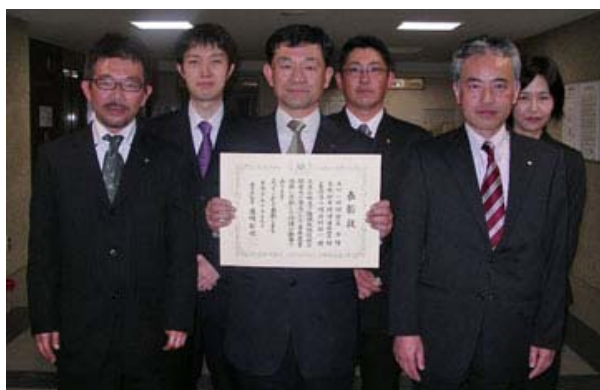
### イ 表彰事績

大豆小畦立て播種栽培技術の開発及び普及により、本県農業振興に貢献した。

大豆の湿害を回避し、安定収入をはかるため、低コストで簡便に導入できる「大豆小畦立て播種栽培技術」を生産者と共同で開発・普及することにより、開発期間の短縮と迅速な現地普及につなげ、水田大豆の生産振興に貢献した。

### ウ 説明

大豆は、食糧自給率の向上や地場の農商工連携を図る上で重要な品目だが、水はけの悪い水田では湿害に弱く、収量が低下するという大きな問題を抱えてきた。そこで、被表彰者らは、平成 17 年度から湿害を回避するための技術開発を進めてきた。本技術の開発にあたっては、生産者、普及、研究の三者が一体となり、実経営規模での現地実証に取り組む、という斬新な手法を取り入れたことで、研究開始から 3 年間という短期間で技術開発と生産現場への速やかな普及を実現した。これらの努力により、本年は、本県の水田大豆のうち、作付面積にして約 4 分の 1 (864ha) に本技術が導入されており、東北各県でも合計 1,345ha に普及導入されている。今後更に普及が進み、水田大豆の安定生産に向けてより一層の貢献が期待される。



写真：平成 20 年度事績顕著表彰 被表彰者及び表彰状

### (3) 特定課題調査検討チームによる部門横断的な課題解決への取り組み

農業研究センターでは、今日の多岐にわたる行政課題あるいは今後重要と見込まれる事項について、的確に対応するために、部門を越えて特定課題調査検討チームを編成しており、平成 20 年度は 8 チームを編成した。

「地球温暖化対策」、「飼料米」、「トマト大規模経営体育成」、「水稻生産コスト低減」、「いちご生産振興」については、調査結果を取りまとめ、行政へ提案した。また、当センターの研究の方向性を整理するため「水稻品種開発ビジョン」、「花き研究ビジョン」の策定を行った。

「ほうれんそう産地改革」では、取りまとめた結果に基づき、県北振興連携プロジェクトとして、県北農業研究所が中心となり農家、JA、市町村、普及センター、振興局と連携しながら、課題解決に取り組んでいるところである。

チーム名	検討期間	検討項目	今後の対応
地球温暖化対策	H20.6 ～11	地球温暖化予測の情報収集・整理、温暖化対策、対応技術・対策技術開発	既存技術・成果等の見直し及び体系化、温暖化適応及び防止技術開発
飼料米	H20.6 ～11	飼料米を巡る情勢、飼料米の生産動向、飼料米研究開発動向	県庁飼料用米生産拡大対策チームへの情報提供、既存課題での飼料米生産技術開発
トマトの大規模経営体育成	H20.6 ～11	生産動向と生産費の状況、トマト経営 SWOT 分析、大規模モデル経営試算等	関係機関への情報提供、研究課題化(トマト専作経営モデルの作成、先進的経営体のビジネスモデルと経営管理方策など)
ほうれんそう産地改革	H20.6 ～11	本県産ほうれんそうの現状の共有、ほうれんそう産地の課題整理、技術開発目標の明確化	新規課題で、萎凋病耐性品種選抜・灌水方法・夏期 1t どり、低濃度エタノール利用等の試験を実施
水稻生産コスト低減	H20.6 ～11	低コスト生産技術の整理・体系化・技術開発、「県稲作生産コスト低減推進会議」への協力	「稲作生産コスト低減に向けた行動計画」に基づく技術開発、低コスト技術に関するデータベース整理・管理、研究成果の活用促進など
いちご生産振興	H20.12～ H21.3	いちごの生産振興方策について	関係機関へ情報提供、今後の生産振興計画へ反映
水稻品種開発ビジョン策定	H20.12～ H21.3	今後の水稻品種開発研究の方向性について	関係機関へ情報提供、次期育種計画へ反映
花き研究ビジョン策定	H20.12～ H21.3	今後の花き研究の方向性について	次期試験研究推進計画へ反映



### 3 研究室・課の動き

#### (1) プロジェクト推進室

平成 20 年 4 月の組織改編に伴い、専従体制のプロジェクト研究担当を設立し、「岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けて平成 22 年度までに取り組む研究方向について」（平成 19 年 3 月策定）に基づき、①意欲ある経営体の育成や競争力のある産地形成に向けた、水田農業の低コスト化、収益性向上を図る技術開発、②環境と共生する産地づくりに向けた、特別栽培・有機栽培技術の開発 の 2 つの柱を重点事項として、農業研究センター内の基盤研究部門との連携のもと、総合的かつ重点的な技術開発に取り組んだ。

#### 水田農業

本県の重要課題である水田農業の担い手の育成に資する技術開発を進めるため、大規模土地利用型水田農業の低コスト化、収益性向上を研究対象とし、プロジェクト推進室担当（水田農業担当）を配した。旧農産部水田作研究室、同生産工学研究室、旧園芸畑作物野菜畑作研究室等から、主任専門研究員を充て、顧客起点に立ち、生産者等とともに課題解決をはかるべく、実証試験を交えながら、以下の研究課題を推進した。

##### <水稲湛水直播栽培の安定多収技術の開発>

水稲直播の低コスト安定化において、課題であった収量向上をはかるため、新たないわて独創技術として「作溝同時直播装置」を開発し、特許を出願（特願 2008-304112）するとともに、大規模圃場や現地での実証を行い、その実用性向上をはかった（研究成果：指導区分）。また、直播専用肥料の開発を進め、普及センターとともにその効果を現地で確認し、その実用化をはかり、「いわて型直播専用肥料 直播用 200」として市販化に至った（研究成果：普及区分）。

大区画水田において、前出の「作溝同時直播装置」をはじめ、多収・耐病性品種「どんぴしゃり」、省力施肥、除草剤の省力施用などの技術を総合的に実証し、従来の直播栽培体系の約 80%の労力でできること、労働生産性は、従来の直播栽培体系の 113%、移植栽培体系に比べると 193%となることを明らかにした（研究成果：指導区分）。この結果を、「大区画水田における水稲直播モデル体系」として取りまとめて示した。新たに上市された 1 成分の中期除草剤については、直播栽培における使用時期の勘所を示した（研究成果：普及区分）。

これらの成果は、水稲直播栽培マニュアルとして取りまとめて、平成 21 年度早々に発行される予定である。

このほか、「水稲ロングマット水耕苗の育苗・移植技術」のマニュアル化、「飼料用稲発酵粗飼料の低コスト生産技術」の現地実証を進めた。

##### <水田大豆・小麦の多収、低コスト技術の開発>

水田大豆の湿害を回避し、多収化をはかる小畦立て播種栽培における播種機の改良オプションを示した。作業能率は 1ha 当たり 2 時間と、従来の技術体系の約 2 倍の高能率となる（研究成果：普及区分）。この技術を中心に、普及センター等と協力して、マニュアルの刊行や現地への出前指導を実施したこと等により、技術普及が進み、県内で 864ha、東北全体で 1,345ha に導入されるに至った。大豆と乾田直播を組み合わせた大規模水田輪作体系による超低コスト化について、技術及び経営的なシミュレーションを行い、試算検討を行った。

また、小麦栽培にこの技術を応用すべく、密条（ドリル）用小畦立て播種機の開発を進め、試作機を完成した。これを用い、小麦冬期播種において所内で実証試験中である。

#### 特裁・有機

重点目標である「環境と共生する産地づくり」に向けた特別栽培・有機栽培技術の開発の解決に向けて以下の課題に取り組んだ。

「農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発」では、水稲を環境保全型農業（特別栽培及び有機栽培）で栽培することによる生物多様性向上の指標生物種の選抜を目的として、環境保全型農業実施集落と慣行栽培の集落で調査を行い、「クモ類」が指標生物種として有望であることを明らかにした。

「安全安心な水稲栽培技術の総合実証」では、水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システムの確立及び大規模温湯処理施設における温湯浸漬処理に対応した種子消毒技術の確立に取り組み、岩手県版 IPM 実践指標を作成し、行政機関に提供するとともに、「温湯浸漬処理済み水稲種子の長期保存法」（研究成果：指導）を開発した。

「特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発」では、水稲に関しては、化学合成資材（化学合成農薬、化学肥料）を極力 0 にする生産技術体系の実証に取り組み、実証地区（盛岡市玉山区）で 3 成分（初期害虫 1 成分＋除草剤 2 成分）で栽培可能との結果を得るとともに、「水稲における固定式タイン型除草機の除草効果」（研究成果：指導）について明らかにした。野菜、畑作物に関しては、トマトの無化学肥料栽培、トマトの物理的防除・生物農薬を中心とした減農薬栽培、スイートコーンの生物農薬を利用した減農薬栽培、大豆のボルドー剤・機械除草を中心とした減農薬栽培について検討した。

## (2) 企画管理部

### 研究企画室

平成 19 年 3 月に策定した「岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けて平成 22 年度までに取り組む研究方向について」に基づき、当センターにおける試験研究の企画・運営について、①顧客起点の試験研究の推進、②プロジェクト研究を活かした試験研究の推進、③競争型資金への対応強化を柱とした試験研究マネジメントの強化の3つの柱を重点事項として取り組んだ。

顧客起点の試験研究の推進については、顧客の視点に立ち、効果的・効率的な試験研究を推進するため研究員の活動を支援するとともに、成果の積極的な発信を行った。顧客である農業者からの意見等を把握するため農業農村指導士との意見交換（6月）を開催したほか、直播き研究会などの各種研究会と連携により、顧客起点の試験研究を図った。広報関係では県民や農業者に開かれたセンターとして、センターの研究活動の「現在（いま）」を分かり易く、タイムリーに発信するため「らぼ・れたあ」を発刊（年 58 回）や、報道機関等を通じ試験研究成果等の情報を提供した（新聞等への掲載 86 件）。また、県民に開かれたセンターとして「参観デー」（本部では、中央農業改良普及センター及び生物工学研究所と共同開催。畜産研究所は「全国農業機械展示会」と併催）や現地ふれあい農業研究センター（八幡平、大船渡、二戸、久慈農業改良普及センター管内で 4 回開催）、一日子ども研究員（8 月）を行ったほか、小中学校の体験学習受け入れ等に積極的に対応した。

プロジェクト研究を活かした試験研究の推進については、重点課題の早期解決のため、専任体制のプロジェクト推進室（水田農業、特栽・有機）と兼任体制の連携プロジェクト（県北連携プロジェクト、りんどうこぶ症連携プロジェクト）を立ち上げ、現場に密着した試験研究の推進を実施した。また、今日の多岐にわたる行政課題あるいは今後重要と見込まれる事項について、的確に対応するため、特定課題調査検討チームを 8 チーム（①地球温暖化対策、②飼料米、③トマトの大規模経営体育成、④ほうれんそう産地改革、⑤水稻生産コスト低減、⑥いちご生産振興、⑦水稻品種開発ビジョン策定、⑧花き研究ビジョン策定）後立ち上げ、行政への情報提供や試験研究課題への反映等を行った。

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」（平成 19 年 3 月策定）に基づき、センター研究員研修計画を策定し、ゼミの開催（79 回）や依頼研究員等への派遣（121 人）や学会等への参加（119 人）を行い、研究員の資質向上を図った。

競争型資金への対応強化を柱とした試験研究のマネジメントの強化については、競争型資金確保に向けた予算要求のあり方を検討し、柔軟な対応が可能となるよう見直しを行った。また、センター内の研究員に対し「競争的資金事業に関する最新動向」を随時情報提供するとともに、応募のポイント等の研修会の開催による研究員への意識向上・応募課題の増加、検討会の開催による応募提案内容のブラッシュアップ等を行い採択率の向上を図った。

### 農業経営研究室

平成 20 年 4 月の組織改編に伴い、従来の農業経営分野と旧生産工学研究室の農業機械、農村工学分野を研究対象とした研究を行っている。

#### <農業経営>

生産性の高い農業経営構造の確立に向け、①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示、②本県の農業構造の現状及び動向の提示、③主要経営類型の経営管理方策の提示、④営農計画作成支援情報の提供、⑤開発技術の経営的評価による効率的な研究推進を柱として業務に取り組んでいる。

本県主要農産物の競争ポジショニングの提示では、「本県産ほうれんそうの競争ポジショニングと振興方向」「岐阜県飛騨地方の夏ほうれんそう産地調査報告書」を公表し、本県ほうれんそう産地の産地改革とほうれんそうの試験研究課題の設定に活用された。

本県の農業構造の現状及び動向の提示では、農産園芸課からの要請を受け、農業経営・経済学会の既往の研究成果と県内外の先進経営体調査を基に「水田農業の担い手の育成に資する情報」を公表し、県長期計画の目指すべき担い手の姿の検討に活用された。

主要経営類型の経営管理方策では、集落営農組織の育成指導に資するため「集落営農組織の現状と展開方向」「集落営農組織における経営管理の展開方向」を公表するとともに、普及指導員及び農業者を対象とした研修会で指導を行った。

営農計画作成支援情報の提供では、意志決定支援システムとして「生産技術体系を活用したきゅうり分析シート」「園芸農家経営分析シート」「10a 区画稲作労働時間積算シート」「稲作コスト低減技術情報ナビ」を開発し提供するとともに、新技術を導入した農業技術体系 14 体系を公表した。

開発技術の経営的評価では、農薬 50%削減リング栽培技術では、樹形改善により 10a 当たり収量は減少するが、作業の省力化が図られるため労働生産性が向上すること、乗用幹周モアは 292a 以上の大規模農家で導入メリットが発揮されることを明らかにした。新たなとうもろこしサイレージの生産・供給・給与体系では、不耕起播種栽培は慣行に比較し ha 当たり作業時間が 10 時間削減され、生産費は 163,977 円削減されることを明らかにした。

### <生産工学>

生産性の向上に向け、①省力低コスト生産技術の確立、②生産基盤の合理的整備手法と効率的な維持管理方策の確立を柱として業務に取り組んでいる。

省力低コスト技術の確立では、「改良固定タイン及び直進安定装置によるアワの除草効果」を公表するとともに、大規模稲作農家の主要農作業のタイムスタディーにより、圃場区画や移動距離による実作業率・圃場作業量の影響を明らかにした。

生産基盤の合理的整備手法では、基盤整備直後の農地法面の除草作業を省力化するため、寒冷地に適したグランドカバープランツであるイブキジャコウソウの「栽培マニュアル」と「経営評価」を公表した。また長大法面の除草作業の省力化のためには、法面直高別の作業強度を測定するとともに、作業道造成機で設置した足場の寒冷地での実用性について検討を行っている。

既設農業用コンクリート施設の供用年数を推定する手法の確立では、目視や超音波診断により既設水路の経過年数と劣化度の関係を推定するデータを収集した。また水路に生息する生物を保全するためにつくられた農業用水路について施工後の効果を確認した。

## 総務課

平成 20 年度 4 月の組織改編に伴い、部名が「総務部」から「企画管理部」となる。主な業務は予算・経理等庶務事務、土地・建物の財産管理、施設設備の維持管理事務となっている。試験研究が円滑に推進されるよう能率的で確かな管理運営を行っている。また、岩手の農業の歴史がわかる「農業科学博物館」や自然とのふれあいが楽しめる「ふれあい公園」の管理運営も行っている。

## (3) 技術部

### 作物研究室

#### <水田作>

水稻の奨励品種決定調査、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んだ。

奨励品種決定調査では、本調査において粳 9 系統（うち本部（北上市）6 系統）を供試した。現地調査は粳を 12 か所、飼料用米を 2 か所で検討した。このうち岩手 85 号は、飼料用米など非食用向け品種として多収性などの特性が明らかになったため、試験を終了した。当系統は用途や普及拡大が地域限定的と見られることから、奨励品種には採用せず、種苗登録申請することとどめた。他の系統については、早生 5 系統、中生 2 系統、晩生 4 系統を平成 21 年度に本調査及び現地調査に供試することとした。なお、中生の岩手 95 号、晩生の同 96 号、同 97 号は食味や収量性、いもち病抵抗性など諸特性が優れることから、供試初年目から本調査並びに現地調査に供することとした。

作況調査・作柄解析については、所内の作況試験データ（本部および県北研究所）・現地生育データ（農業改良普及センター）・気象データ（盛岡地方気象台）・土壌栄養（生産環境研究室）・病虫害（病理昆虫研究室）・作柄（岩手農政事務所）・品質情報（同）を総合的に解析し、当年及び次年度以降の技術対策指導に供した（試験研究成果書：指-13）。

高品質・良食味米の安定生産については、品種「どんぴしゃり」において栽植密度を低減しても収量性が慣行と変わらないことから、苗箱数の低減（＝低コスト化）に繋がることと唆された。本課題は、次年度以降は作況調査の一環で試験を継続することとした。

水稻原々種はうち 3 品種（35 系統）331kg、もち 1 品種（8 系統）28kg、原種はうち 4 品種 21,132kg、もち 2

品種 1, 738kg を生産した。

水稲発芽試験時の雑菌抑制対策としてイブコナゾール水和剤とオキシソニック酸水和剤の各 1000 倍混合液の使用が有効であることを示し、タイムリーな成果として公表した（試験研究成果書：行-03）。

## <水稲育種>

いわてオリジナル水稲品種開発、バイオエネルギー利活用促進技術の開発に取り組んだ。

オリジナル品種開発では、非主食用水稲新品種として岩南 29 号、岩手 85 号を育成し、国へ種苗登録申請した（試験研究成果書：普-03、普-04。品種名は 3 月 31 日時点で非公表）。いずれも粗玄米収量で 750kg/10a が安定的に確保できる多収品種であり、バイオエタノールや飼料用米としての用途が期待される。両系統の施肥法は、粗玄米収量で 750kg/10a 確保を目標とすると、岩南 29 号では窒素成分で基肥を 8~9kg/10a とし、6 月中旬頃の分けつ期と幼穂形成期にそれぞれ 2kg/10a を追肥すること、岩手 85 号では基肥を 6~9kg/10a とし、追肥は幼穂形成期に 2kg/10a 施与することを明らかにした（試験研究成果書：指-08）。なお、これら 2 品種は、作付けが限定的と見込まれることから奨励品種に採用されていない。

生産力検定本試験は所内 39 組合せ 145 系統・現地 5 組合せ 35 系統、生産力本試験では所内 36 組合せ 49 系統・現地 6 組合せ 15 系統を供試し、各種特性検定試験の結果と合わせ、岩手 94 号（早生の中、穂いもち極強・耐冷性、良質・良食味）、岩手 95 号（中生の早、葉いもち・耐冷性極強、あきたこまち並みの良食味）、岩手 96 号（晩生の早、葉いもち・耐冷性極強、ひとめぼれ並みの良食味）、岩手 97 号（晩生の中、葉いもち・穂いもち抵抗性極強、ひとめぼれ並みの良食味）、岩手酒 98 号（晩生の早、吟醸酒向け酒造好適米、高度精米での砕米少）の 5 系統を選抜した。

育種の効率化を図るため、(財)岩手生物工学研究センターとの連携のもと、分子マーカーを用いた選抜技術の開発に取り組んだ。重要形質と連鎖した DNA マーカーの探索では、高度いもち病抵抗性、高度耐冷性など有用な形質と連鎖したものを選抜するため、RILs の養成と特性検定、低温発芽性に連鎖する DNA マーカーを利用した選抜ともし交雑を実施した。

バイオエネルギー利活用促進技術の開発では、岩南 29 号の種子生産と、DNA マーカーを活用した低コスト対応品種の選抜に取り組んだ。種子生産では、200kg を生産し、試験用種子として 115kg を供給した。DNA マーカーでは、多収系統へ耐病性、耐冷性、低温発芽性を付与するための交配を実施した。

## <畑作>

麦類・豆類の優良品種選抜、同栽培法の確立、畑作物の生育相及び気象反応の解明、各種特性検定、原種・原々種生産に取り組んだ。

（小麦）

麦類奨励品種決定調査では、小麦 12 品種・系統、大麦 4 品種・系統を供試し、菓子用品種・東北 224 号が外観品質と容積重が良好で、「やや有望」とした。

特性検定では、麦類耐寒雪性において 108 品種・系統を供試し、小麦では 2 系統を「強」と判定した。大麦では「強」と判定した系統はなかった。

原種は 5,970kg、原々種は 311kg を生産した。

（大豆）

大豆奨励品種決定調査では、7 系統を供試し、2 系統の有望度を「中または再検討」と評価した。このうち東北 160 号は大粒・品質良好であることから、次年度に現地における熟期を検討することとした。

また、納豆用大豆「すずほのか」について、収量を確保するための播種時期と好適栽植密度を明らかにし、研究成果として公表した（普-07）。

立枯性病害抵抗性検定試験では、35 系統を供試し、3 系統を「強」、4 系統・品種を「やや強」と判定した。

原種は 3 品種 691kg（一部選別中）、原々種は 2 品種 65kg を生産した。

（共通事項およびその他品目における取り組み）

畑作物の生育相及び気象反応の解明においては、「平成 20 年産 麦・大豆の生育経過の概要と特徴」として研究成果としてとりまとめ（指-16）、普及員等指導者の技術指導の資とした。

あずき系統適応性検定試験では、14 系統を供試し、2 系統を「やや有望」とした。ばれいしょ系統適応性検定試験では 4 系統を供試し、1 系統の有望度を「中または再検討」とした。

## 園芸研究室

園芸研究室は、昨年までの園芸畑作部から畑作部門だけが作物研究室に移動し、果樹、野菜、花きが合併して、異動者を併せて13名の大所帯としてスタートし、昨年度までのそれぞれの研究室の課題を受け継ぎ、一部応用生物工學研究室の業務も引き継いだ内容（特に花き関係）に取り組んだ。

### <果樹>

果樹は、リンゴを主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴの栽培技術では、省力・低コスト・高品質安定生産技術や安全・環境に配慮した生産技術の確立に取り組み、今年度は以下の研究成果を得た。

まず、改正食品衛生法に対応し、農薬のドリフト防止や省力化を目指して実施した新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立」において、受粉専用品種の特性とポット利用大苗移植による結実安定効果を取りまとめた。

また、新品種の栽培法に関しては、「シナノゴールド」の利用台木別の特性を取りまとめ、JM台木利用上の参考に供するとともに、緊急課題となっている「黄香」の裂果について適期収穫や適玉生産・落果防止剤の利用法等を組み合わせた樹上裂果対策を提示した。

さらに、平成19年度に奨励品種としたリンゴ「岩手7号」の果肉が褐変し難い特性を明らかにした。

リンゴ以外の樹種では、平成17年度に奨励品種となったブドウ「サニールージュ」の房づくり方法を確立するとともに、せん定枝チップの利用法として、ブルーベリーに対するマルチや土壌改良資材としての利用技術を確立した。

なお、主要な研究課題として、地域農業確立総合研究「東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の確立」に関する研究を継続して実施しており、樹形改善による効率的防除と散布量削減技術の検討や、長岡中央果樹生産組合において農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証試験に取り組むとともに、JM7台木利用樹における低樹高仕立て法の確立およびりんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立の試験を継続し、また、今年度から省力化をねらったオウトウの垣根仕立て栽培法の確立に関する試験を開始した。

リンゴの品種開発では、岩手7号の品種登録手続きを進めているほかに、他の岩手系統について現地適応性試験や試食検討会を開催したが、最終選抜候補は絞り込めなかった。

ブドウの品種開発では、岩手2号、3号、4号、5号の調査を継続した。

### <野菜>

野菜は、農業労働力の不足が深刻化する中で、消費地や地場のニーズに合った生産や、量販の拡大に対応する低コスト化や品質の維持が緊急の課題となっている。これらの解決をめざし、果菜類を主体に生産技術確立に取り組んだ。個々の課題としては平成19年度で終了したものが多く、平成20年度からは新規課題が中心である。

まず、トマトの抑制作型技術については、夏期の労力競合と秋期の収量低下を解決する方策として期待されるが、単価が安定する9月以降の収穫・出荷を確保できるメリットはあるものの、育苗期間が慣行作型と重なるため、省力的な育苗技術の開発が課題であることから、若苗直接定植におけるかん水等の育苗条件の試験を開始した。

次に、きゅうりについては、早熟栽培と抑制栽培の組み合わせによる長期どり栽培技術の確立をねらいとして、保温効果が期待できる空気膜2重構造ハウスを用い、早熟作型の前進化と抑制作型の出荷期延長技術の試験を開始するとともに、ホモプシス根腐れ病対策技術については、整枝法、抵抗性台木の検索等の耕種的防除法に取り組み、単年度試験ながら、一定の成果が得られた。

また、イチゴでは、東北農研からの委託により、イチゴ四季成り性品種の苗増殖性向上技術の試験を開始し、組織培養による苗を作出するとともに、萎黄病対策については、四季成り性品種において第2複葉展開期までにランナーを切断する育苗法による萎黄病感染防止対策試験に取り組んだ。

さらに、新規品目については、近年安定した需要が見込まれているパプリカを取り上げ、本県の夏期冷涼な気象を活かした安定生産技術の確立をねらって品種選抜やかん水方法の試験に着手し、品種に関してはほぼ目処がついた。

果菜類以外の品目では、促成アスパラガスについて、端境期となる10～11月の早期生産技術の確立を目指して、アスパラガスの休眠と気温の関係解明と低温遭遇技術の開発に取り組み、年内どり伏せ込み促成栽培技術に「ウエルカム」が適していること、および休眠導入と打破の誘導可能上限温度に関する研究成果を得た。

その他、簡易な装置でかん水可能な日射制御型拍動ポンプによるかん水法の実証に取り組み、露地栽培のピーマンにおける実用性を実証した。

## <花き>

花きは、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産を実現するため、研究対象を重点品目であるりんどうに特化し、オリジナル品種の開発や生理生態的基礎研究に取り組むとともに、これまでに開発したオリジナル品種の原々種維持、原種増殖と種苗センターへの供給を行っている。

まず、りんどうの品種開発では、2系統を品種候補として選抜し、品種登録の手続きを進めている。一つは、桃色の栄養繁殖系鉢物用品種「花研鉢2」で、施設内の無加温管理で8月下旬～9月上旬に出荷できる特性を持っている。もう一つはわい性りんどう「A4PBN0.34-25」で、(財)岩手生物工学研究センターで土壌細菌アグロバクテリウム・リゾジェネスA4菌を利用して作出した新形質のりんどうである。貴重なわい性遺伝資源であり、主に育種素材として活用が見込まれる。育成中の系統では、現在、最も品種開発が急がれている晩生種の有望系統2系統を絞り込んだ。これらは、本来であれば品種としての実用性について、センター内でさらに数年の検討が必要であるが、育種を加速する必要が大きい晩生種の事情から、現地園主の理解を得た上で現地検定試験を開始した。

次に、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、原々種の安定採種、親株の大量増殖と供給に取り組み、ほぼ計画数量どおりの親株を種苗センターに供給するとともに、より安定した種子確保のため、種苗センターの親株管理についてポット管理から地床植え管理への移行を指導した。

また、種子による親株増殖技術では、りんどう種子の調整・貯蔵技術について、採取後の乾燥・凍結貯蔵・通風乾燥等、貯蔵に適した条件に関する研究成果を得た。

また、開花予測や開花調節、品質向上技術開発などにつながるりんどうの生理生態に関する基礎的研究を、クローン個体を供試して昨年度から継続して実施し、本年は生育ステージ別生育適温度帯をほぼ特定するとともに、着色障害を引き起こす温度と生育ステージを特定し、研究成果として取りまとめた。

その他、りんどうこぶ症の研究では、昨年までに接ぎ木伝染を確認しているが、本年も継続して取り組んだところ、伝染性を再確認することができた。

## 南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県東南部および中南部沿岸地域の夏期冷涼・冬期温暖な気象条件を活かした施設野菜、花きの高度生産技術の開発に取り組んでいる。特に、沿岸振興は当研究室の重要テーマであり、特色ある園芸産地を形成するため、地域資源を活用した技術の開発及び実証に取り組んでいる。

野菜では、沿岸部での産地形成が期待されている四季成り性いちごについて、「主要品種の特性」と「摘果と摘花房処理の効果」について研究成果をとりまとめた。これらの成果が現地に発信されることにより、地域の戦略に沿った適品種の導入が進むとともに、適正な栽培管理による生産安定が期待される。一方、食味に優れる一季成り性品種を用いた夏秋期生産について、長期収穫を可能とする簡易な技術確立の目処が立った。次年度以降、収量の向上を念頭に処理技術の改善を図る予定となっている。

また、根域冷却による高糖度トマト生産については、根域冷却時間帯による処理効果、適品種の選定及び適作型の検討を進め、一定の成果を得るに至っている。

また、平成18年度から新夢県土事業により共同研究で取り組んでいる杉樹皮培地の開発については、最終的な培地製造法を決定し、安価な培地の製品化に成功した。この培地の花きへの利用技術について検討を進めてきたが、本年度、パンジーの鉢用土として研究成果としてとりまとめた。現在、ガーデンシクラメンやシクラメンについても試験を実施中であるが、それぞれ課題解決の見通しを得ていることから、次年度に各品目の利用技術を発信する予定である。

## (4) 環境部

### 生産環境研究室

安全で、安心できる農産物の安定的な生産・供給や環境に配慮した農業の振興を図り、岩手ならではの産地づくりにも寄与するため、①環境への負荷軽減に配慮した持続的な土壌・施肥管理技術、②消費者の多様なニーズに対応した高品質、高鮮度な農産物の安定供給技術を柱として業務に取り組んでいる。①環境への負荷軽減に配慮した持続的な土壌・施肥管理技術では、最近の肥料価格高騰のなか、肥料費の低減に関する肥効調節型肥料（シグモイド型）を用いた育苗箱施肥（全層に豚ふん堆肥）及び全量基肥一回施肥により、水稻の肥料費を低減する施肥法（研究成果：指

導) やりんどうの株養成期間の施肥を1回、窒素施肥量を慣行の25%減にする低コスト施肥法(研究成果:普及)を提示した。更に、これまで水田及び露地野菜畑土壌における10年間の有機物連用試験から、有機物の基準量を遵守した施用が収量性や土壌化学性等の最適な維持管理法(研究成果:指導)や、県内水田・畑地の定点調査25年間における有機物施用、施肥及び土壌化学性の現状(研究成果:指導)などを提示した。また、地元企業が持つ画像処理技術と、当室が開発した土壌養分分析法をマッチングし、農業生産現場において、簡易に測定できるデジタル土壌養分分析システムの製品化に取り組んでいる。②消費者の多様なニーズに対応した高品質、高鮮度な農産物の安定供給技術では、最近の消費者ニーズの多様化に伴う県産農産物の鮮度やおいしさ等の内部成分の特徴について、県産キャベツ、レタス及びほうれんそうで明らかにする(研究成果:研究)とともに、小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたレタス体内成分(硝酸イオン、糖)の簡易推定法(研究成果:指導)を提示した。更に、平成20年から導入している岩手県版農業生産管理(県版GAP)におけるトマト、きゅうりの衛生管理点を明らかにし、その改善点と対策(研究成果:指導)を提示した。

## 病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだ。

研究成果は下表のとおり11件について公表した。また、学会等には積極的に参加し、日本植物病理学会では4件、日本応用動物昆虫学会では2件、北日本病害虫研究会では6件について口頭又はポスター発表し、本県の成果をPRした。

No.	分野	区分	研究成果名
1	水稻	指導	水稻種子消毒用生物農薬の防除効果
2	水稻	指導	アカスジカスミカメに対する地域一斉防除が有効となる防除時期
3	水稻	行政	MBI-D剤耐性イネいもち病菌の伝播経路
4	畑作	指導	ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系
5	果樹	指導	県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤抵抗性実態を踏まえた殺ダニ剤使用体系
6	野菜	指導	トマトすかび病とCf-9品種を侵す葉かび病(新レース)の新奇発生と診断のポイント
7	野菜	研究	アワノメイガ越冬世代の発育と温度の関係
8	花き	普及	リンドウの育苗中に発生する苗腐敗症の発生生態と薬剤防除対策
9	花き	指導	等温遺伝子増幅法(ICAN法)を利用したキクわい化病の簡便な検定法
10	花き	研究	リンドウの県オリジナル品種におけるモザイク病の発生実態
11	総合	普及	平成21年農作物病害虫防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤

## (5) 病害虫防除部

平成20年度4月の組織改編に伴い、部名を「病害虫部」から変更し、病害虫防除課のみの1部1課とした。

### 病害虫防除課

(発生予察)

発生予察調査等により農作物発生予察情報を作成し関係機関・団体に向けて提供した(長期動向(1回)、定期情報(7回)、注意報(6回)、特殊報(3回))。また、定期情報では防除に万全を期せないと見込まれる場合には随時病害虫防除速報(11回)、発生現況情報(6回)を提供した。これらの情報については、メール印刷物により提供したほか、アグリベンチャーネットにも掲載しアクセス数は14,402件となった。

さらに、発生予察調査や植物防疫事業等で得られた成果で、病害虫防除指導に有効な情報を岩手県病害虫防除術情報(3件)として提供した。

(病害虫防除指導)

総合防除地域への定着を図り、環境に配慮した持続的農業を推進するための病害虫防除員、関係機関・団体と連携を、「市町村病害虫防除計画」に基づいた防除の実施を推進した。

また、植物防疫事業実績検討会を開催し、主要病害虫の発生要因解析を行うとともに、各地域で問題となっている

病害虫の発生状況と対策について検討した。

水稲においては、病害虫防除員との連携による地域調査活動、岩手県産業用無人ヘリコプター推進協議会と連携した防除指導活動を展開した。

果樹では、りんごについて地域の防除暦作成にあたって普及センター担当者等とともに、検討を行った。また、県内 210 の共同防除組合等から 82 組織分の防除実績を収集、解析して次年度の防除計画の改善に資した。

さらに、今年度から地域の課題に迅速に対応するため病害虫診断の窓口を当課に設置することを明確にし、地域で困難な診断手法を取り入れながら機能の充実を図った。(件数 114 件)

(農薬適正使用指導)

農薬の適正な販売や使用を徹底するために農薬の販売者や使用者に対する研修会を関係機関・団体と共同で開催した。(研修会開催 3 回、防除実績検討会 1 回、講師派遣 5 回)

また、農薬取締法に基づく農薬販売者への立入調査を実施した。(328 件)

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

#### <家畜育種>

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出(造成)や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

短角種雄牛作出について、H20 直接検定 15 頭(平均 DG1. 25kg)から、現場後代検定用 6 頭(選抜率 40%、平均 DG1. 32kg)を選抜した。現場後代検定は、H16 交配種雄牛「琴藤」、「辰郎」、「良波」、「人錦」、「藤幸」、「哲山」の成績をまとめ公表し、人工授精用基幹種雄牛として「辰郎」を選抜した。H17 交配種雄牛「福藤」、「藤錦」、「波辰」、「堀辰」、「笹良」の産子の所内検定肥育を行うとともに、現地成績を調査中である。H18 交配種雄牛「時姫」、「玉吉」、「川藤」、「松川」、「国灯」の産子の検定肥育を実施中であり、H19 交配種雄牛「松藤」、「花蛇」、「萩川」、「民姫」、「慶一」の産子の検定肥育を開始した。また、県有優良種雄牛「辰福」等の凍結精液を生産した。

日本短角種全個体認証のためのデータベースを構築し、血統・枝肉情報等を用いて遺伝的能力の推定及び近交係数を算出し、「短角牛 2007(2) IN IWATE」として地域に情報提供した。日本短角種の肥育全期間トウモロコシレージ主体肥育について、関係機関と協力しながら、岩泉町、久慈市で現地実証試験をし、一般出荷牛と同等の肥育成績を得ている。また、ライコムギを活用した自給飼料約 90%の肥育法を提示すると共に、100%肥育を目指した試験も開始した。

黒毛和種肥育の飼料自給率向上のため、H18 より肥育前期粗飼料多給技術に取組み 1 期 1 2 頭を終了し、2 期 12 頭を試験中である。

養豚では、肥育後期に配合飼料の 40%を玄米で代替した場合の特性を明らかにした。また、黒豚等純粋豚生産農場における集団維持手法の検討を現地農場と提携しながら取組み、血統・交配方法等の情報提供を行うとともに、所内繫養種豚群(パークシャー種)の繁殖・産肉能力をとりまとめ種豚供給を開始した。

養鶏では、「南部かしわ」の雛供給や南部かしわ研究会開催等により普及推進を図った。南部かしわ飼養マニュアル作成の一環で発育に伴う肉の固さの変化等を明らかにし、仕上時期の目安を提示した。また、特定 J A S 規格認定地鶏肉「三陸地鶏」生産用止雄種鶏の種卵供給や次期止雄鶏候補としての軍鶏の系統導入と性能評価を実施した。

#### <家畜工学>

本県の牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術、核移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。胚移植技術では、黄体ホルモンが高く子宮頸管粘液 pH6.0~6.9 で過剰排卵処理後の卵巣反応が良好であることを明らかにし、供卵牛選定の指標として有用であることを提示した。

胚移植時の受胎率と受胎牛の血液性状(B/G 比、血中アンモニア濃度等)・糞便 pH との関係を明らかにし、受胎率向上には受胎牛の栄養管理が重要であることを提示した。また、開発した胚移植器を用いた公共牧場での乳用未經産牛への移植実証試験では受胎率 40%を得たものの、栄養改善等により受胎率向上を図ることが課題となった。

黒毛和種種雄候補牛の産肉能力を早期に把握する技術として、優良種畜の体細胞クローン生産の基礎研究を実施し、初期 G1 期体細胞と融合前に活性化処理を行わない卵子で得られたクローン胚の発生率 28.2%、受胎率 66.7%の成績を



得たが流産が多いことから引き続き本技術の最大の課題として提起された。

遺伝子解析では、種雄牛「菊安舞鶴」産子の DNA と枝肉格付データを用いて QTL 解析を実施し、BMSNo、ロース芯面積、皮下脂肪厚に影響する遺伝子座がそれぞれ第 1 番、第 6 番、第 25 番染色体に位置することを明らかにし、当該種雄牛の後継牛選抜に利用可能であることを提示した。

胚移植で生産される子牛を人工哺乳する場合、離乳後も円滑に発育する離乳時期判定指標を作成するために、栄養摂取と血液中成分等の関係を中心に検討を開始した。

## 家畜飼養・飼料研究室

当研究室では、乳用牛の飼養管理技術の確立と良質粗飼料の効率的な生産・調製技術開発に取り組んでいる。

### <家畜飼養>

「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」を基本に、生産者ニーズに応えるため、家畜生理と調和した高能力牛の飼養管理技術の確立と省力管理システム、自然環境と調和したゆとりのある酪農経営を構築するための技術開発に取り組んでいる。

乳用牛の自然環境および家畜生理との調和では「栄養管理による泌乳牛の尿量低減効果」に取り組み、トウモロコシサイレージを給与乾物の 60%まで高めた TMR 給与は、尿量で 2 割、糞尿堆肥化に要するオガクズを 1 割節約できる。また、尿中の K (カリウム) 排泄量が 3 割削減されるが、乾物摂取量、乳量と乳成分は維持されること。

「泌乳牛における分離給与の飼料給与順序がルーメン発酵に与える影響」では、イネ科乾草先行給与と配合飼料先行給与では乳量と乳成分に差はないが、イネ科牧草先行給与で乾物消化率と摂取飼料の TDN%が高い傾向であり、さらに給与 2～3 時間後の血中尿素態窒素濃度が配合飼料先行給与より低く、第一胃内の微生物の活性が向上すること。

### <飼料生産>

本県の畜産を安定的に推進するため、良質で効率的自給粗飼料の生産技術の開発に取り組んでいる。

飼料用トウモロコシの不耕起栽培試験では 5 年連続の栽培試験に取り組み、耕起栽培と同程度の収量が確保でき、さらに、耕起、破土・播種床形成の作業を必要としないため播種に係る作業時間が 12%に短縮されること。

飼料用トウモロコシ市販品種のうち極早生 1 品種、早生 6 品種、中生 3 品種、晩生 4 品種の生育特性、対病性、収量性等について比較し、これらを総合的に判断して「ゴールドデント KD 6 6 0」(中生)を推奨品種として提案した。

## 外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の開発に取り組んでいる。

黒毛和種の自然哺乳飼養における子牛の早期離乳技術について、哺乳回数を制限することにより人工乳採食量が多く増体量も確保され、胃絨毛の発達も促進された。しかし、60 日目標離乳とするには、人工乳の採食量が不足する結果となった。

授乳期間や制限哺乳の分娩後の繁殖機能回復に及ぼす影響では、授乳期間が短いほど初回発情が早まる傾向が見られた。また、初回発情への制限哺乳の有無の効果は見られなかった。血中成分の遊離脂肪酸値 (NEFA) は、その値が低いほど初回発情が短くなる傾向となった。

育成期の TMR 給与技術の確立では、試験期間 (3-5 6-9)での目標増体量を確保したものの育成前期の D.G.が一時的に低い結果となった。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業(いわて和牛改良増殖対策事業)の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 10 頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子 4 頭計 14 頭の直接検定を実施し年度内に 9 頭が終了、残り 5 頭については平成 20 年 6 月までに終了する予定である。全頭終了後検定成績、血統、体型、期待育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として 5 頭を選抜する。また、平成 15 年度の直接検定により選抜された「平北勝 1」「北真鶴」「夏安福 2」「森高茂」「若葉栄光」「岩輝 5 7」の 6 種雄牛について現場後代検定を実施しうち、「平北勝 1」「北真鶴」「夏安福 2」について、下記の成績が得られた。

## (7) 県北農業研究所

### 作物研究室（県北）

＜水稲＞ 早生地帯の作柄安定化、産米評価の向上をはかるため、耐冷性が強く、良質・良食味な品種の選定に引き続き取り組んでいる。奨励品種決定本調査では4系統を供試し、「岩手85号」を飼料用米として有望と認め普及に移すとともに、「ふ系217号」「ふ系219号」を継続検討とした。予備調査では「ふ系221号」「岩手91号」「岩手赤92号」を有望と認め、新たに本調査に供することとした。

また、作況調査を実施し、関係機関及び生産現場に定期的に情報提供を行うとともに、調査データに基づき作柄成立要因の解析を行い、当年の作柄の特徴、技術的な問題点等を研究成果として取りまとめ普及に移した。

＜畑作物＞ 県北地域に適した小麦、大豆の品種選定に引き続き取り組み、麦類奨励品種決定調査では3系統を供試し「東北223号」（中華麺用、多収）、「東北224号」（ケーキ用、多収）を有望と認めた。大豆奨励品種決定調査では3系統を供試したが有望な系統は無く、前年に奨励品種に採用した「すずほのか」の播種期及び栽植密度を成果として取りまとめ普及に移した。

また、小麦・大豆の作況調査を実施し、関係機関及び生産現場に定期的に情報提供を行い、技術指導の資とした。

環境保全型農業技術関係では、醗酵鶏ふんを利用した大豆の無化学肥料栽培が可能なことを明らかにし、普及に移した。

＜雑穀＞ オリジナル雑穀品種の開発では、食味に優れ草丈が低く栽培しやすい半もち短稈の早・中・晩生品種「ヒエ岩手1号」「ヒエ岩手2号」「ヒエ岩手3号」を育成し、普及に移した。

省力安定栽培技術に関しては、生物農薬（BT水和剤）によるアワノメイガ防除条件下でのアワの生育特性からみた適正播種量及び作期、キビ、アワの登熟特性から見た成熟期の推定、キビ、アワの機械収穫技術を成果として取りまとめ普及に移した。また、移植栽培の可能性についても明らかとした。

### 園芸研究室（県北）

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、早期秋冷気象を活かした促成アスパラガスが奥中山地区を中心に栽培が増加していることから、貯蔵養分を十分に蓄えた根株養成のための栽培技術を確立するため、高収量が期待できる根株養成のための栽培諸条件を明らかにするための試験を行っている。また、県北地域の主要品目であるほうれそうについて、薬剤によらない萎凋病軽減技術の開発として輪作品目の検索に取り組んでいる。

#### 4 平成20年度試験研究課題

##### (1) 細目課題分類

想分野 推進構 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	S	V	W	Y
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイテク	家畜バイテク	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	水田農業	やませ利用	保鮮流通	農産物加工	食の安全安心
<b>プロジェクト推進室</b>	<b>32</b>	5	4	0	0	0	0	0	2	0	0	1	7	0	0	1	0	0	0	0	0	12
水田農業	18	4	4						2				7			1						
特栽・有機	14	1										1										12
<b>企画管理部</b>	<b>13</b>	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	2	3	0	0	0	0	1
農業経営研究室	13			1			1		1						4	2	3					1
<b>技術部</b>	<b>134</b>	47	13	32	17	13	0	0	0	2	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0
作物研究室	63	47	13		1					1			1									
園芸研究室	60			32	9	11				1			3	4								
南部園芸研究室	11				7	2							2									
<b>環境部</b>	<b>60</b>	3	0	2	1	2	0	0	0	1	0	3	23	17	0	0	0	0	0	4	2	2
生産環境研究室	39	1			1	2						2	23	2						4	2	2
病理昆虫研究室	21	2		2						1		1		15								
<b>畜産研究所</b>	<b>42</b>	0	0	0	0	0	7	21	7	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜育種研究室	16							11			5											
家畜飼養・飼料研究室	16						7	1	7			1										
外山畜産研究室	5							4				1										
種山畜産研究室	5							5														
<b>県北農業研究所</b>	<b>49</b>	7	4	0	7	2	0	0	0	0	0	1	8	4	0	3	0	0	11	0	0	2
作物研究室	24				7	2						1	8	3		1			2			
園芸研究室	25	7	4											1		2			9			2
<b>総計</b>	<b>330</b>	<b>62</b>	<b>21</b>	<b>35</b>	<b>25</b>	<b>17</b>	<b>8</b>	<b>21</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>44</b>	<b>25</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>11</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>17</b>

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査: 小課題の主査研究室
- ・区分: 継; 継続課題、終; 終了課題、新; 新規課題、繰上; 繰上終了、過; 過年度終了、未; 未着手
- ・構想: 推進構想分野の重点目標
- ・No.: 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に( )表記
- ・課題: (課題番号)課題名[研究期間/予算区分]を記載、小課題は太字表示
  - ※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1~4まで各桁毎の表記
  - ※ 予算区分: 国庫研究; 国庫補助研究、国庫委託; 国庫(独法)委託事業、民間委託; 民間委託事業、令達; 令達予算研究、県単研究; 県単研究予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- ・年数: 課題の実施年数
- ・担当: 小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名  
(同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記)
- ・連番: 予算配分されている実施課題の連番。(※細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない)

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)	
プロジェクト(水田農業)	水田作	(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発[S34/H14~H22/民間委託] (807-1100)県央・県南地域[S34/H14~H22/民間委託] (H19-42)水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発[H19~H21/令達] (H19-42-3000)直播栽培の生育指標の策定[H19~H21/令達]	
		(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	(H18-20)水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立[H18~H22/独法委託] (H18-20-3000)(3)飼料稲栽培における効率的雑草防除法の確立[H18~H22/独法委託]	
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-1151)クレハ水稲用培土ダイエツ土(約500/15kg)[H18~H22/民間委託] (H16-22-1152)三研ソイル水稲用培土(軽量タイプ)[H19~H22/民間委託] (H16-22-1153)いなほ化工水稲軽培土[H19~H22/民間委託] (H16-22-1160)JAきたかみ向けに改良水稲育苗培土の実用性確認[H19~H22/民間委託]	
	生産工学	(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(H19-42)水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発[H19~H21/令達] (H19-42-1000)Ditch&Hill播種法の開発[H19~H21/令達]	
		(O-2)革新技術導入による省力機械化技術の確立	(H18-04)大規模稲作経営のための水稲ロングマット水耕育苗・移植技術の確立[H18~H20/県単研究]	
	野菜畑作	(B-2)畑作物の省力・安定多収による低コスト生産技術の確立	(H19-14)小麦冬期播種栽培の安定多収化技術の確立と作期・適地拡大[H19~H21/県単研究] (H19-14-1000)(1)小麦冬期播種安定多収化技術の確立[H19~H21/県単研究] (H19-14-2000)(2)作期拡大技術の確立[H19~H21/県単研究] (H19-29)【担い手プロ・土地利用型農業 汎用的な耕盤破砕・浅耕同時小畦立て播種機の開発による水田大豆の安定輪作技術体系の確立】関連[H19~H23/独法委託]	
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-2290)小麦の効率的施肥技術[H19~H22/民間委託] (H16-22-22A0)肥効調節型肥料による施肥省力化および麦の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19~H22/民間委託] (H16-22-22B0)肥効調節型肥料による施肥省力化および大豆の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19~H22/民間委託]	
		(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(H19-42)水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発[H19~H21/令達] (H19-42-2000)落水出芽における施肥法の確立[H19~H21/令達]	
	土壌作物栄養	(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	(H18-20)水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立[H18~H22/独法委託] (H18-20-1000)(1)堆肥を活用した飼料稲多収のための肥培管理技術の確立[H18~H22/独法委託]	
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達]	
	プロジェクト(特裁・有機)	生産工学	(K-3)農村環境の総合管理システム開発と生物多様性保全技術の確立	(H20-19)農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発[H20~H22/独法委託] (H20-19-1000)(1)東北の水田集落における指標生物の選抜と評価手法の開発[H20~H24/独法委託]
			(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H17-07)農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価[H17~H21/県単研究] (H17-07-3000)(3)環境との調和に配慮した水路の水生生物保全効果の検証[H17~H21/県単研究]

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)
プロジェクト(特裁・有機)	環境保全	(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/国庫助成] (H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-3200)イ 化学合成農薬代替技術の開発[H19~H22/令達] (H19-44-3000)(3)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-3200)イ 化学合成農薬代替技術の開発[H19~H22/国庫助成]
		(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(H16-18)3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16~H20/国庫助成] (H16-18-6000)(6)大規模処理施設における温湯浸漬処理に対応した種子消毒技術の確立[H19~H20/国庫助成]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H16-18-4000)(4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17~H20/国庫助成]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-3100)ア 化学肥料代替技術の開発[H19~H22/令達]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H16-18)3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16~H20/国庫助成] (H16-18-4000)(4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17~H20/国庫助成]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-3200)イ 化学合成農薬代替技術の開発[H19~H22/令達]
	土壌作物栄養	(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-3100)ア 化学肥料代替技術の開発[H19~H22/令達]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H16-18)3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16~H20/国庫助成] (H16-18-4000)(4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17~H20/国庫助成]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-2000)(2)水稲特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19~H22/令達] (H19-44-3200)イ 化学合成農薬代替技術の開発[H19~H22/令達]
		(N-4)営農計画作成支援情報の提供	(H20-28)GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発[H20~H22/独法委託]
		(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらった果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発[H17~H21/独法委託] (H17-09-4000)農薬50%削減りんご栽培技術体系の経営評価[H18~H21/独法委託]
		(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	(H18-37)新たなトウモロコシサイレージ生産・供給体系の経営経済評価[H18~H22/独法委託]
農業経営	農業経営	(N-3)主要な経営類型の経営管理方策の提示	(H18-02)地域水田農業における園芸作目の導入・定着に関する労務管理手法の導入[H18~H19→H20/国庫助成]
		(N-4)営農計画作成支援情報の提供	(H16-02)経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18→H20/国庫助成] (H16-02-2000)(2)ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18→H20/国庫助成] (H16-02-3000)(3)[postH16-02-2000]ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H20~H20/独法委託]
		(O-1)省力化・軽労化・安全化のための作業技術の確立	(H18-05)大規模稲作経営における主要農業機械作業の評価[H18/H19~H20→H21/国庫助成] (H18-05-1000)国庫助成研究分[H19~H21/国庫助成]
		(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-1000)(1)雑穀の有機農産物生産技術の開発[H19~H22/令達]
		(O-2)革新技術導入による省力機械化技術の確立	(H17-06)畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良[H17~H20/国庫助成]
		(P-1)農家の生産基盤の低コストで合理的な整備手法の確立	(H20-01)長大法面除草作業の労働負荷を軽減できる法面形状指標の策定[H20~H21/令達] (H20-26)イブキジャコウソウによる基盤整備直後の水田法面管理実証[H20~H21/令達]
	生産工学	(F-1)泌乳能力を発揮させる飼養管理技術の開発	(H19-02)既設農業用コンクリート施設の供用年数の推定手法の確立[H19~H21/令達]
		(P-3)環境に調和した農村整備手法の確立	(H17-07)農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価[H17~H21/令達] (H17-07-1000)(1)水路と水田に生息するメダカの保全手法の確立[H17~H21/令達]
		(A-1)DNAマーカー等の導入・応用化によるオリジナル水稲品種の効率的選抜技術の開発	(H20-25)バイオエタノール利活用技術の開発[H20~H22/令達] (H20-25-1000)バイオエタノール対応品種の種子増殖[H20~H22/令達]
		(A-2)多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発	(803)水稲奨励品種決定調査[S29/H14~H22/国庫採種] (803-1100)[post35-1000]予備調査 中晩生系統[H14~H22/国庫採種] (803-2100)[post36-1000]本調査 中晩生系統[H14~H22/国庫採種] (803-3000)[post37-3000]現地調査[H14~H22/国庫採種]

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)	
作物	水田作	(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析[S34/H14~H22/県単研究] (805-2100)(post50-1000)水稲作況調査 県央・県南地域[H14~H22/県単研究] (805-2100)(post50-1000)水稲優良品種の気象反応試験 県央・県南地域[H14~H22/県単研究] (805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析[S34/H14~H22/県単研究] (805-3000)(post49)水稲作柄成立要因の解析[H14~H22/県単研究] (H19-07)水稲の高位安定生産技術の確立[H19~H21/県単研究]	
		(A-4)水稲優良種子生産技術の確立	(61)水稲原々種生産[S29~H22/県単採種] (62)水稲原種生産[S29~H22/県単採種]	
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-1140)特別栽培米の施肥体系[H17~H22/民間委託]	
		水稲育種	(A-1)DNAマーカー等の導入・応用化によるオリジナル水稲品種の効率的選抜技術の開発	(H20-25)バイオエタノール利活用技術の開発[H20~H22/令達] (H20-25-2000)DNAマーカーを活用した原料用米低コスト生産品種の選抜[H20~H22/令達]
			(A-1)DNAマーカー等の導入・応用化によるオリジナル水稲品種の効率的選抜技術の開発	(5)水稲新規需要等対応品種の育成[H01~H22/令達] (5-1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査[H01~H22/令達] (6)水稲高度耐冷性集積系統の育成[H02~H22/令達] (7)水稲高度耐病性集積系統の育成[H02~H22/令達] (737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13~H22/令達] (737-2000)水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索[H16~H22/令達]
	(A-2)多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発		(16)水稲系統適応性検定試験[S39~H22/国庫委託] (16-1000)水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)[S39~H22/国庫委託] (16)水稲系統適応性検定試験[S39~H22/民間委託] (16-2000)稲民間育成品種評価試験【※年度により試験の有無変動】[H13~H22/民間委託] (20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[S48~H22/令達] (20-1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定[H01~H22/令達] (20-2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査[S48~H22/令達] (20-3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査[S62~H22/令達] (24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52~H22/令達] (24-1000)中・晩生水稲系統[S52~H22/令達] (15)水稲生産力検定試験[S58~H22/令達] (15-1000)生産力検定予備調査[S58~H22/令達] (15-2000)生産力検定予備試験系統群[S58~H22/令達] (15-3000)生産力検定本試験[S58~H22/令達] (15-4000)生産力検定本試験系統群[S58~H22/令達] (860)採種[S58~H22/令達] (18)水稲品種特性調査[S59~H22/令達] (18-2000)水稲品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成[S59~H22/令達] (19)水稲品種育成交配試験[S59~H22/令達] (19-1000)水稲交配試験[S59~H22/令達] (19-2000)水稲初期世代養成試験[S59~H22/令達] (19-3000)水稲世代促進試験[S59~H22/令達] (19-4000)水稲個体選抜試験[S62~H22/令達] (19-5000)水稲単独系統選抜試験[S58~H22/令達] (22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成[S59~H22/令達] (22-1000)高度耐冷性を有する系統の探索[H02~H22/令達] (22-2000)障害型耐冷性検定調査[S59~H22/令達] (21)極良食味水稲品種・系統の育成[S60~H22/令達] (21-1000)食味官能調査[S60~H22/令達] (21-2000)食味成分調査[H02~H22/令達] (26)難穂発芽性水稲品種・系統の育成[S62~H22/令達] (26-1000)穂発芽性検定調査[S62~H22/令達] (29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63~H22/令達] (31)水稲糯品種・系統の育成[H02~H22/令達] (32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達] (27)直播適応性水稲品種・系統の育成[H02/H03~H22/令達] (27-2000)直播生産力検定試験[H03~H22/令達] (30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H08~H22/令達] (H18-21)水稲耐冷性特性検定試験[H18~H22/国庫委託]	
			(H20-25)バイオエタノール利活用技術の開発[H20~H22/令達]	
			(H20-25-2000)DNAマーカーを活用した原料用米低コスト生産品種の選抜[H20~H22/令達]	
		(I-1)遺伝子情報を利用した育種手法の開発	(H17-02)新規のいもち圃場抵抗性遺伝子の探索[H17~H21/県単研究]	

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)	
作物	野菜 畑作	(B-1)需要に即する安定多収・高加工適性畑作物品種・系統の選抜	(H19-13){post888}麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19～H22/県単採種]	
			(H19-13-1000){post888-1000}(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)[H19～H22/県単採種]	
			(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査[H19～H22/令達]	
			(H19-12){post875}大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19～H22/県単採種]	
			(H19-12-1000){post875-2000}(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)[S29/H19～H22/県単採種]	
			(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査[H19～H22/令達]	
			(889){post85}麦類耐寒雪性特性検定試験[S29/H14～H22/国庫委託]	
			(819){post89}あずき系統適応性検定試験[S40/H14～H22/国庫委託]	
			(835){post88}ばれいしょ系統適応性検定試験[S47/H14～H22/国庫委託]	
			(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[H14～H22/国庫委託]	
			(B-2)畑作物の省力・安定多収による低コスト生産技術の確立	(890){post100}畑作物の生育相及び気象反応の解明[S49/H14～H22/県単研究]
			(890-2100){post100-1100}大豆の生育相と気象反応の解明 県央・県南地域[H14～H22/県単研究]	
(890-1100){post100-2100}麦類の生育相と気象反応の解明 県央・県南地域[H14～H22/県単研究]				
(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託]				
(850-7000)小麦の除草剤実用化試験[H18～H19→H22/民間委託]				
(B-3)畑作物原々種の安定供給	(891){post105}畑作物原々種・原種生産[S29/H14～H22/県単採種]			
(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖[H08～H22/令達]			
(B-1)需要に即する安定多収・高加工適性畑作物品種・系統の選抜	(H19-12){post875}大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19～H22/独法委託]			
(H19-12-5000)(5)【雑豆需要促進研究(不採択)→JSTシーズ発掘】インゲンマメ(手亡類)の高品質収穫乾燥技術の開発[H20～H20/独法委託]				
園芸	果樹	(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15～H22/県単研究]	
			(H15-38-3000){post839-2000}JM7利用樹における樹勢衰弱の原因解明[H20～H22/県単研究]	
			(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H01/H14～H22/国庫委託]	
			(829-1400)第12回系統適応性検定試験[H20～H22/国庫委託]	
			(H20-02)岩手県におけるおうとう品種「佐藤錦」の垣根仕立て栽培法の確立[H20～H22/県単研究]	
			(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(851){post129}果樹の生育と果実品質変動要因の解明[H09/H14～H22/県単研究]
(851-1000){post129-1000}りんごの生育・生態の把握[H09/H14～H22/県単研究]				
(851-2000){post129-2000}ぶどうの生育・生態の把握[H09/H14～H22/県単研究]				
(851-3000){post129-3000}西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握[H09/H14～H22/県単研究]				
園芸	果樹	(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託]	
			(850-1100)民間委託試験分[H14～H22/民間委託]	
			(850-1200)令達試験分[H14～H22/令達]	
			(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法[H14～H22/民間委託]	
			(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出[H14～H22/令達]	
			(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15～H22/県単研究]	
			(H15-38-1000)「岩手6号」の安定生産技術の確立[H15～H22/県単研究]	
			(H15-38-2000)「シナノゴールド」の安定生産技術の確立[H17～H22/県単研究]	
			(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発[H17～H21/県単研究]	
			(H17-09-1000)(1)薬剤到達性の高い樹形への改善[H17～H21/県単研究]	
			(H17-09-2000)(2)薬剤散布量低減技術の開発と病害虫防除効果の実証[H17～H21/独法委託]	
			(H17-09-3000)(3)農薬低減技術の現地実証[H17～H21/独法委託]	
			(H19-10)りんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立[H19～H21/県単研究]	
			(H19-11)JM台木利用りんごわい性台木樹の高品質生産に適した低樹高仕立て法の確立[H19～H22/県単研究]	
			(C-2)安全・環境に配慮した果樹生産技術の確立	(H16-09)クラブアップル等りんご受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16～H22/県単研究]
(H16-09-1000)(1)受粉専用品種の選抜[H16～H22/県単研究]				
(H16-10)果樹園におけるりんご剪定枝等利用技術の確立[H16～H22/県単研究]				
(H16-10-1000)(1)果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立[H16～H22/県単研究]				
(H16-10-2000)(2)ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良技術の確立[H16～H22/県単研究]				

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)		
果樹	果樹	(C-3)りんごオリジナル品種等の開発	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発[H14～H22/国庫委託] (830-1000)国育成系統適応性(盛岡58～65号)[H14～H22/国庫委託] (830-2000)国内外導入品種の選抜[H14～H22/令達] (830-3000)いわて特産中晩生種の交配育成[H14～H22/令達]		
		(C-4)ぶどうおよび西洋なし等特産果樹品種の選抜と省力栽培技術の確立	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H01/H14～H22/国庫委託] (829-1300)第11回系統適応性検定試験[H16～H22/国庫委託] (829-2000)(post134-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)[H01/H14～H22/令達] (829-3000)(post134-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H01/H14～H22/令達] (837)(post135)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H01/H14～H22/令達] (837-1000)(post135-1000)国内外導入品種の選抜[H01/H14～H22/令達] (826)(post136)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H01/H14～H22/令達] (826-1000)(post136-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14～H22/令達]		
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22/民間委託] (H16-22-2120)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16～H22/民間委託] (H16-22-2130)下層土のカルシウム供給能力の向上改善と樹体生育、果樹品質に及ぼす効果についての確認【旧題:果樹専用土づくり肥料の肥効確認】[H17～H22/民間委託]		
		(M-3)環境にやさしい病害虫防除技術の開発	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09～H22/民間委託] (402-5000)果樹[H16～H22/民間委託]		
		(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらった果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発[H17～H21/独法委託] (H17-09-6000)スピードスプレーヤ用ドリフト低減ノズルのドリフト低減効果試験[H18～H20/独法委託]		
		(C-2)安全・環境に配慮した果樹生産技術の確立	(H16-09)クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16～H22/独法委託] (H16-09-2000)(2)受粉専用品種の効率的な園地導入技術の開発[H16～H20/独法委託]		
		(D-1)担い手に応じた省力・単収向上による低コスト化、軽労化生産技術の確立	(H20-04)トマト抑制作型における省力栽培技術の開発[H20～H22/県単研究] (H20-04-1000)省力育苗技術の開発[H20～H22/県単研究]		
		(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H20-03)きゅうり長期どり生産技術の確立[H20～H22/県単研究] (H20-03-1000)空気膜二重ハウスを活用したきゅうり長期生産技術の確立[H20～H22/県単研究] (H20-03-2000)空気膜二重ハウスの冬期有効活用目目の選定[H20～H22/県単研究]		
		(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(H20-21)(postH15-40)いちご萎黄病の耕種的防除技術の開発[H20～H22/国庫助成]		
		(D-1)担い手に応じた省力・単収向上による低コスト化、軽労化生産技術の確立	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託] (850-3000)野菜の除草剤実用化試験[H15～H22/民間委託]		
		園芸	野菜畑作	(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22/民間委託] (H16-22-2280)園芸培土としての実用性の確認(いなほ化工園芸培土)[H19～H22/民間委託]
				(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H20-05)(postH17-40)アスパラガスの萌芽特性解明による早期生産技術の確立[H20～H22→H23/独法委託] (H20-05-1000)(postH17-40-1000)【JSTシーズ発掘】北東北の低温を利用したアスパラガスの端境期生産技術の開発[H20～H22→H23/独法委託]
				(I-1)遺伝子情報を利用した育種手法の開発	(H20-18)純系りんどうとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発(純系りんどうの作出とマーカーを利用した系統選抜技術の開発)りんどうのDNAマーカー利用による品種育成技術開発[H20～H22/独法委託]
				(E-4)花き原種苗の維持・増殖技術の確立	(H19-04)りんどう組織培養における増殖率の高位安定化技術の開発[H19～H21→H22/県単研究] (H19-04-1000)(1)組織培養における花芽形成抑制と高増殖条件の解明[H19～H21→H22/県単研究] (H19-05)岩手県オリジナル花き遺伝資源の超低温保存法の確立[H19～H22→H23/県単研究]
応用生物学		(M-1)主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14～H18→H21/国庫助成] (841-4000)生物工学的的手法によるりんどうこぶ症の原因解明[H16～H19→H21/国庫助成]		



担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)		
園芸	花き	(E-1)花きオリジナル品種の開発	(191)りんどうの品種育成[S49～H20→H22/令達] (191-1000)postH04-03)りんどうの品種開発[H20～H22/令達] (191-2000)postH15-49)親株の安定生産[H20～H22/令達] (H20-18)純系りんどうとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発(純系りんどうの作出とマーカーを利用した系統選抜技術の開発)りんどうのDNAマーカー利用による品種育		
		(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	(843)りんどうの生育・生態調査[H14～H22/県単研究] (H19-09)温度・日長条件に対するりんどうの生育反応[H19～H23/県単研究]		
		(E-4)花き原種苗の維持・増殖技術の確立	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立[H14～H22/県単研究] (840-1000)種子による親株維持技術の確立[H14～H22/県単研究] (840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定[H14～H22/県単研究]		
		(M-1)主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14～H18→H21/国庫助成] (841-1000)発生実態と栽培条件による原因解明[H14～H18→H21/国庫助成]		
		(E-2)気象条件等を活用した低コスト安定生産技術の確立	(H18-39)ウッドワール培地を利用した花壇苗・鉢花等の生産技術の確立[H18～H20/令達] (H18-39-2000)【花き研究室分】[H18～H20/令達]		
		(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託] (850-4100)りんどう除草剤実用化試験[H16～H19→H20/民間委託]		
		南部園芸	南部園芸	(D-3)環境に調和した安全な野菜生産技術の確立	(H20-07)イチゴ高設栽培の底面給液方式による作型別栽培技術の確立[H20～H22/県単研究] (H20-07-1000)促成作型における底面給液管理技術の確立[H20～H22/県単研究]
				(D-1)担い手に応じた省力・単収向上による低コスト化、軽労化生産技術の確立	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託] (850-8100)除草剤試験[H18～H22/民間委託]
				(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H19-08)沿岸地域におけるいちご四季成り性品種の安定生産技術の確立[H19～H21/県単研究] (H19-08-1000)夏秋どり作型に適した四季成り性品種の選定[H19～H21/県単研究] (H19-08-2000)夏秋どり作型における四季成り性いちごの高品質生産技術の確立[H19～H21/県単研究]
				(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22/民間委託] (H16-22-2440)鉢上げ用ポット施肥の有効利用【旧題:環境保全型農業のための施肥量減を目指した育苗ポット内全量施肥法の確立】[H17～H22/民間委託] (H16-22-2450)有機態窒素50%(ロング態窒素505配合)肥料が生育に及ぼす効果についての検討[H19～H22/民間委託]
(E-2)気象条件等を活用した低コスト安定生産技術の確立	(H18-07)秋出しトルコギキョウの高品質・安定生産技術の確立[H18～H20/県単研究] (H18-39)ウッドワール培地を利用した花壇苗・鉢花等の生産技術の確立[H18～H20/令達] (H18-39-1000)【南部園芸研究室分】[H18～H20/令達]				
生産環境	環境保全			(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	(H18-08)県産農産物のカドミウムリスク管理技術の確立[H18～H21→H24/独法委託] (H18-08-3000)(3)畑作物・野菜類のカドミウム濃度予測手法の確立[H20～H24/独法委託]
				(K-1)化学肥料や農薬などの化学合成資材等による環境負荷軽減技術の確立	(H19-18)農薬散布条件による近接作物での農薬残留リスク[H19～H21/令達] (H19-18-1000)令達事業分[H19～H21/令達]
				(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22/民間委託] (H16-22-3110)県内主要農産物の成分実態調査[H18～H22/民間委託]
				(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	(H18-08)県産農産物のカドミウムリスク管理技術の確立[H18～H21→H24/独法委託] (H18-08-1200)農林水産高度化事業委託課題[H19～H21/独法委託]
				(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15～H19→H21/国庫助成] (H15-28-6300)畑わさび[H19～H19→H20/国庫助成] (H15-28-6400)みつば、なばな[H19～H19→H20/国庫助成]
		(K-1)化学肥料や農薬などの化学合成資材等による環境負荷軽減技術の確立	(H19-18)農薬散布条件による近接作物での農薬残留リスク[H19～H21/独法委託] (H19-18-3000)環境省委託分[H20～H20/独法委託]		
		土壌作物栄養	土壌作物栄養	(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査[H20～H22/独法委託]
				(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15～H22/県単(土壌対策)] (H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果[H15～H22/県単(土壌対策)]

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)	
旧主査研究室	土壌作物養	(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果[H15~H22/県単(土壌対策)]	
		(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	(H19-20)りんどうの効率的施肥技術の確立[H19~H21/県単研究] (H19-20-2000)(2)採花期間における施肥技術の確立[H19~H21/県単研究]	
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-2120)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16~H22/民間委託] (H16-22-2130)下層土のカルシウム供給能力の向上改善と樹体生育、果樹品質に及ぼす効果についての確認【旧題:果樹専用土づくり肥料の肥効確認】[H17~H22/民間委託] (H16-22-22A0)肥効調節型肥料による施肥省力化および麦の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19~H22/民間委託] (H16-22-22B0)肥効調節型肥料による施肥省力化および大豆の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19~H22/民間委託] (H16-22-2450)有機態窒素50%(ロング態窒素505配合)肥料が生育に及ぼす効果についての検討[H19~H22/民間委託] (H16-22-32A0)有機原料を配合した特別栽培米対応肥料が稲の生育・収量・品質に及ぼす効果についての検討【旧題:有機100%水稻育苗用肥料の効果確認】[H18~H22/民間委託] (H16-22-32B1)とまと[H17~H22/民間委託] (H16-22-32B2)ピーマン[H18~H22/民間委託] (H16-22-32C1)りんどう(LPS200配合りんどう用肥料)[H18~H22/民間委託] (H16-22-32D1)小麦(スーパーイネルギー配合塩安)[H18~H22/民間委託] (H16-22-32E0)有機原料を配合した特別栽培米対応育苗専用肥料の実用性確認[H19~H22/民間委託] (H16-22-32F0)水稻に対する新ケイ酸資材の効果[H19~H22/民間委託]	
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22-32G0)フラットベツトスキャナーの利用による地力診断高度化技術の開発[H19~H22/民間委託] (H16-22-32H0)減化学栽培米の安定生産と省力低コスト施肥技術の開発[H19~H22/民間委託] (H16-22-32I0)水稻の生育時期別ケイ酸吸収量の確認 特に水溶性ケイ酸の吸収と濃度が生育、いもち耐病性及び良質米生産に及ぼす波及効果の検証[H19~H22/民間委託]	
		(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15~H22→H25/県単(土壌対策)] (H19-19)米の食味向上に向けた地力窒素診断技術の確立[H19~H21/県単(土壌対策)]	
		(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	(H19-20)りんどうの効率的施肥技術の確立[H19~H21/県単研究] (H19-20-1000)(1)株養成期間における施肥技術の確立[H19~H20/県単研究]	
		(L-3)土壌・作物栄養情報の高度化に対応した土壌	(H19-43)【政策調整枠事業】フラットベツトスキャナー利用による地力診断高度化技術の開発[H19~H20/令達]	
		保鮮流通技術	(V-1)県産農産物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立	(H19-34)【高度化事業・輸出対応型・共同】輸出に対応した地域特産切り花の流通技術開発[H19~H21/独法委託]
			(V-2)県産農産物の内部品質評価技術の確立	(H19-15)県産野菜のおいしさ評価法の確立[H19~H21/県単研究] (H19-15-1000)(1)促成グリーンアスパラの内部成分評価法の確立[H19~H21/県単研究] (H19-15-2000)(2)レタスの内部成分評価法の確立[H19~H21/県単研究]
			(W-1)加工指導業務等	(548)加工工房指導業務[H09~H22/県単公園]
			(W-3)県産農畜産物の高付加価値化を目指した加工技術の開発	(H19-17)用途に合わせた雑穀の一次加工技術の開発[H19~H20/県単研究]
			(Y-3)生鮮野菜の品質自主管理技術の開発	(H16-20)5. 野菜の品質自主管理技術の開発[H16/H17~H19→H20/県単研究] (H16-20-1000)(1)生産工程における自主管理手順の開発[H16/H17~H19→H20/県単研究] (H16-20-2000)(2)収穫・出荷工程における自主管理手順の開発[H16/H17~H19→H20/県単研究]
		病理昆虫	応用生物学	(I-2)遺伝子情報を利用した病害診断手法の開発と実用化
	病理昆虫		(K-3)農村環境の総合管理システム開発と生物多様性保全技術の確立	(H20-19)【仮題】農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発[H20~H22/独法委託] (H20-19-2000)(2)寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜と評価手法の開発[H20~H24/独法委託]

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)		
病理昆虫	病理昆虫	(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(H20-21)(postH15-40)いちご萎黄病の耕種的防除技術の開発[H20～H22/国庫助成]		
		(A-4)水稻優良種子生産技術の確立	(H19-21)水稻種子生産における種子伝染性病害防除法の確立[H19～H21/令達]		
		(C-1)国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	(H19-22)りんごハダニ類の薬剤抵抗性発生実態の解明と防除体系の確立[H19～H21/国庫助成]		
		(M-1)主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	(H09-03)【植物防疫事業研究】[H09～H22/国庫助成]		
			(841)りんごこぶ症の発生実態と原因の解明[H14～H18→H21/国庫助成] (841-3000)こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索[H14～H18→H21/国庫助成]		
		(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09～H22/民間委託] (402-4000)本部[H09～H22/民間委託]		
			(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15～H21/国庫助成] (H15-28-G000)雑穀類の土壌害虫[H19～H21/国庫助成] (H15-28-H000)りんごの褐色根腐病[H19～H21/国庫助成]		
			(H18-11)りんごの薬剤抵抗性ハダニ類の発生実態と効率的防除法の確立[H18～H21/国庫助成] (H18-11-2000)天敵を利用したりんごハダニ類の効率的防除法の開発[H19～H21/国庫助成] (H18-12)弱毒ウイルスを利用したりんごのウイルス病防除法の確立[H18～H22/国庫助成]		
		(M-4)病害虫総合管理技術(IPM)の開発	(H16-25)りんごにおける病害虫総合防除技術の開発[H16～H21/独法委託] (H16-25-3000)(3)りんご生育後半における病害防除回数削減体系の開発[H17～H21/独法委託]		
		(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(H16-18)3. 安全安心な水稻栽培技術の総合実証[H16～H20/独法委託] (H16-18-3200)斑点米カメムシ発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発(旧題: (3)発生予察に基づく水稻害虫の効率的防除体系の広域実証)[H18～H20/独法委託]		
		(M-1)主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	(H18-11)りんごの薬剤抵抗性ハダニ類の発生実態と効率的防除法の確立[H18～H21/県単研究] (H18-11-1000)りんごの薬剤抵抗性ハダニ類の発生実態と効率的防除法の確立[H18～H20/県単研究]		
			(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09～H22/民間委託] (402-6000)深層土壌消毒の効果検定[H18～H19→H20/民間委託] (H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15～H19→H21/国庫助成] (H15-28-A200)第2期(なばな類として)[H19～H20/国庫助成]	
		(M-4)病害虫総合管理技術(IPM)の開発	(H18-30)環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立[H18～H20/独法委託]		
		家畜育種	家畜育種	(G-3)安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	(H20-23)有機自給飼料生産技術の確立とこれを用いた日本短角種オーガニックビーフ生産の実証(日本短角種の粗飼料主体肥育技術の確立)
				(G-4)特産豚及び特産鶏の開発と地域資源を活用した飼養技術体系の確立	(H20-10)地域ブランド豚肉生産に活用する種豚性能調査と飼養管理技術の確立[H20～H22/県単研究]
(J-3)家畜ゲノム解析による生産性向上技術の開発	(H20-22)遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発[H20～H24/独法委託]				
(G-1)肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)[S45～H22/令達]				
	(237)日本短角種産肉能力検定(現場検定法)[S48/H17～H22/令達] (H19-23)血統・枝肉データを活用した日本短角種集団の全個体情報管理システムの拡充[H19～H22/県単研究]				
(G-3)安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	(H18-14)肥育前期に粗飼料を多給した黒毛和種肥育技術の確立[H18～H21/県単研究] (H19-45)【政策調整枠事業】いわて短角和牛産地強化対策事業《課題名仮称》[H19～H22/令達] (H19-45-1000)家畜育種研究室分[H19～H22/令達]				
(G-4)特産豚及び特産鶏の開発と地域資源を活用した飼養技術体系の確立	(H18-15)「新特産肉用鶏(南部かしわK系) 飼養技術の確立[H18～H21/県単研究]				
	(H19-24)豚集団維持の交配支援システムの構築[H19～H21/県単研究] (H19-25)岩手の鶏遺伝資源を活用した「特定JAS規格地鶏肉」の効率的な生産に係る種鶏開発[H19～H21/県単研究]				
家畜工学	家畜工学			(J-1)家畜改良速度を飛躍的に向上させるための胚移植技術の確立	(H20-27)超急速ガラス化保存法を応用した低ランク胚の保存方法の検討[H20～H22/令達] (H20-12)受胎率向上のための受卵牛の飼養管理技術の確立[H20～H22/県単研究]
				(J-3)家畜ゲノム解析による生産性向上技術の開発	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析[H07～H22/令達]
		(J-2)優良種畜の大量確保を目指したクローン牛の生産技術の開発	(H16-32)核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立[H16～H20/県単研究] (H16-32-2000)(2)種雄牛短期造成法の確立[H17～H20/県単研究]		

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)		
家畜飼養・飼料	家畜飼養	(F-2)低コスト・省力管理システムの開発と利用技術の確立	(H20-11)自動搾乳システムにおける飼料給与技術の確立[H20～H22/県単研究]		
		(F-3)乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和した飼養管理技術の確立	(H20-15){postH17-18}発酵TMR飼料の品質安定技術の確立[H20～H21/県単研究] (H20-15-2000){postH17-18-3000}添加剤を利用した発酵TMR飼料が乳牛の消化率に及ぼす影響[H20～H21/県単研究]		
		(F-1)泌乳能力を発揮させる飼養管理技術の開発	(H18-16)破砕処理によるトウモロコシサイレージの収穫・給与技術の確立[H18～H22/独法委託] (H18-16-1000)破砕処理機によるトウモロコシの収穫適期拡大と泌乳牛への多給による飼料代低減技術の確立[H18～H22/独法委託]		
		(F-3)乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和	(H19-26)乾乳期並びに初妊牛における環境性乳房炎予防技術の確立[H19～H21/県単研究]		
		(F-3)乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和	(H17-17)栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及びカリウム排泄量低減技術の確立[H17～H20/県単研究]		
		(F-3)乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和した飼養管理技術の確立	(H20-15){postH17-18}発酵TMR飼料の品質安定技術の確立[H20～H21/県単研究] (H20-15-1000){postH17-18-1000}添加剤を利用した発酵TMR飼料の発酵品質および飼料特性[H20～H21/県単研究]		
	飼料生産	(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	(H20-14){postH14-21}腐熟堆肥とバイオガスプラント由来消化液を併用した飼料用トウモロコシ栽培法の確立[H20～H22/県単研究]		
		(F-1)泌乳能力を発揮させる飼養管理技術の開発	(H18-16)破砕処理によるトウモロコシサイレージの収穫・給与技術の確立[H18～H22/独法委託] (H18-16-1000)破砕処理機によるトウモロコシの収穫適期拡大と泌乳牛への多給による飼料代低減技術の確立[H18～H22/独法委託]		
		(G-3)安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	(H19-45)【政策調整枠事業】いわて短角和牛産地強化対策事業《課題名仮称》[H19～H22/令達] (H19-45-2000)飼料生産研究室分[H19～H22/令達]		
		(H-1)地域適応性に優れた粗飼料の草種・品種の選定	(253)とうもろこし市販品種の特性比較[S54～H22/令達] (254)とうもろこし系統適応性検定試験[S55～H22/国庫委託]		
		(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	(H16-35)不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立(旧題:トウモロコシの不耕起、簡易耕起栽培法の確立)[H16～H22/独法委託] (H18-20)水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立[H18～H22/独法委託] (H18-20-1000)(1)堆肥を活用した飼料稲多収のための肥培管理技術の確立[H18～H22/独法委託] (H18-20-2000)(2)飼料稲収穫作業適期中拡大方策の検討[H18～H22/独法委託]		
		(H-3)中山間地域における粗飼料の安定生産・利用技術の確立	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22/民間委託] (850-5110)除草剤試験[H16～H22/民間委託]		
		(K-2)家畜糞尿の利用を促進する低コスト処理技術と利用システムの確立	(H18-35)低コストで効率的な畜舎汚水処理技術の確立[H18～H20/令達]		
		外山畜産	外山畜産	(G-2)恵まれた土地資源を活用した効率的な子牛生産システムの確立	(H19-27)公共牧場機能を活用した黒毛和種集団繁殖・育成技術体系の確立[H19～H21/県単研究] (H19-27-1000)自然哺乳飼養における和牛子牛早期離乳技術の確立[H19～H21/県単研究] (H19-27-2000)黒毛和種自然哺乳における繁殖雌牛群の分娩間隔短縮の検討[H19～H21/県単研究] (H19-27-3000)黒毛和種育成期におけるTMR給与技術の確立[H19～H21/県単研究]
				(G-3)安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	(H19-45)【政策調整枠事業】いわて短角和牛産地強化対策事業《課題名仮称》[H19～H22/令達] (H19-45-3000)外山畜産研究室分[H19～H22/令達]
				(G-1)肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)[S62～H22/管理運営費] (235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)[H01～H22/管理運営費] (857)県有種雄牛の利用及び能力調査[H14～H22/管理運営費] (859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出[H14～H22/管理運営費] (H19-23)血統・枝肉データを活用した日本短角種集団の全個体情報管理システムの拡充[H19～H22/県単研究]
		園芸(県北)	営農技術	(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H20-08)加工・業務用需要に対応できる野菜生産技術の確立[H20～H22/独法委託] (H20-08-1000)加工・業務用に適したホウレンソウの品種選定[H20～H21/独法委託] (H20-08-2000)加工・業務用向け規格に対応したホウレンソウの栽培方法確立[H20～H22/独法委託]
				(K-3)農村環境の総合管理システム開発と生物多様性保全技術の確立	(H20-19)農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発[H20～H22/独法委託] (H20-19-2000)(2)寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜と評価手法の開発[H20～H24/独法委託]

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)		
園芸(県北)	営農技術	(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-4142)レタス栽培における施肥技術の確立【旧題:レタスの効率的施肥技術】[H18~H22/民間委託] (H16-22-4181)キャベツ[H17~H22/民間委託] (H16-22-41A0)石灰窒素のほうれんそうに対する作物体中の硝酸態窒素低減効果の確認[H18~H22/民間委託]		
		(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15~H22/県単(土壌対策)] (H15-24-3000)県北地域における畜産由来有機質資源連用効果[H15~H19→H22/県単(土壌対策)]		
		(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09~H22/民間委託] (402-2000)県北地域[H09~H22/民間委託]		
	産地育成	(D-2)多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	(H20-08)加工・業務用需要に対応できる野菜生産技術の確立[H20~H22/独法委託] (H20-08-1000)加工・業務用に適したホウレンソウの品種選定[H20~H21/独法委託] (H20-08-2000)加工・業務用向け規格に対応したホウレンソウの栽培方法確立[H20~H22/独法委託]		
		(D-3)環境に調和した安全な野菜生産技術の確立	(H20-09)高原野菜安定生産のための短期輪作体系の確立[H20~H22/県単研究]		
		(E-1)花きオリジナル品種の開発	(H17-22)県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立[H17~H21/県単研究] (H17-22-1000)(1)りんどうの有望育成系統の現地適応性試験[H17~H21/県単研究]		
		(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	(H19-53)県北地域における小ぎくの安定生産技術の確立(旧題:県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立)[H19~H22/県単研究]		
		(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託] (H16-22-4250)土壌改善によるキャベツの品質向上【旧題:品質向上等肥料の新機能評価試験】[H17~H22/民間委託] (H16-22-4260)(RSB-2)資材の施用によるほうれんそうに対する効果の確認【旧題:ネオアップに微生物を添加した土づくり資材のほうれんそうへ対する効果確認】[H18~H22/民間委託] (H16-22-4271)硫酸銅入りぼかし肥料[H19~H22/民間委託] (H16-22-4272)メチオン入りぼかし肥料[H19~H22/民間委託]		
		(S-1)やませ地域の立地特性を活用した農業生産システムの開発	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14~H22/民間委託] (850-6110)植調剤試験[H16~H22/民間委託] (H17-22)県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立[H17~H21/県単研究] (H17-22-2000)(2)りんどうの需要期出荷のための早出し栽培技術の開発[H18~H21/県単研究]		
		(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(H18-19)雨よけほうれんそう主要病害虫の耕種的防除法の開発[H18~H20/県単研究] (H18-19-2000)(2)ホウレンソウケナガコナダニの被害軽減技術の開発[H18~H20/県単研究] (H18-19-4000)(4)夏期高温期の安定生産のための輪作体系の確立[H19~H20/県単研究]		
		作物(県北)	営農技術	(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15~H21/国庫助成] (H15-28-1000)雑穀類の難防除害虫[H19~H19→H21/国庫助成]
				(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立[H16~H21/県単研究] (H16-40-3000)(3)雑穀の省力・安定栽培技術確立[H16~H21/県単研究] (H16-40-4000)(4)雑穀の高付加価値栽培技術確立[H16~H21/県単研究]
	(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立			(H19-44)【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19~H22/令達] (H19-44-1000)(1)雑穀の有機農産物生産技術の開発[H19~H22/令達] (H19-44-3100)ア 化学肥料代替技術の開発[H19~H22/令達]	
	やませ利用		(O-2)革新技術導入による省力機械化技術の確立	(H17-06)畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良[H17/H18~H20/県単研究]	
			(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	(H18-18)地域有機質資源を活用した大豆栽培技術の開発[H18~H20/県単研究]	
			(A-2)多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発	(803)水稲奨励品種決定調査[S29/H14~H22/県単採種] (803-1200){post35-2000}予備調査 早生系統[H14~H22/県単採種] (803-2200){post36-2000}本調査 早生系統[H14~H22/県単採種] (24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52~H22/令達] (24-2000)早生水稲系統[H09~H22/令達] (15)水稲生産力検定試験[S58~H22/令達] (15-3100)早生品種[H09~H22/令達]	
		(A-3)高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	(807){post40}水田雑草の効果的防除技術の開発[S34/H14~H22/民間委託] (807-1200)県北地域[H14~H22/民間委託] (805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析[S34/H14~H22/県単研究] (805-1200)水稲作況調査 県北地域[H14~H22/県単研究] (805-2200){post50-2000}水稲優良品種の気象反応試験 県北地域[H14~H22/県単研究]		

担当研究室	旧主査研究室(小課題)	主となる推進構想(小課題)	課題名(課題構成)
作物(県北)	やませ利用	(B-1)需要に即する安定多収・高加工適性畑作物品種・系統の選抜	(H19-13){post888}麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19~H22/県単採種]
			(H19-13-2000){post888-2000}(2)奨励品種決定調査(県北地域)[H19~H22/県単採種]
			(H19-12){post875}大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19~H22/県単採種]
		(B-2)畑作物の省力・安定多収による低コスト生産技術の確立	(890){post100}畑作物の生育相及び気象反応の解明[S49/H14~H22/県単研究]
			(890-2200){post100-1200}大豆の生育相と気象反応の解明 県北地域[H14~H22/県単研究]
		(S-1)やませ地域の立地特性を活用した農業生産システム	(890-1200){post100-2200}麦類の生育相と気相反応の解明 県北地域[H14~H22/県単研究]
			(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14~H22/民間委託]
		(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	(850-6210)植調剤試験[H19~H22/民間委託]
			(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立[H16~H21/令達]
			(H16-40-1000)(1)岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定[H16~H21/令達]
(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	(H16-40-2000)(2)オリジナル雑穀品種の開発[H16~H21/令達]		
	(H16-40-4000)(4)雑穀の高付加価値栽培技術確立[H16/H17~H21/県単研究]		
	(H18-18)地域有機質資源を活用した大豆栽培技術の開発[H18~H20/県単研究]		

(3) 要望課題の措置 (平成20年11月14日農研企第296号で回答した検討結果の概要)

措置区分 : A=平成21年度実施, B=現在実施中, C=既知見あり, D=次年度実施できない

No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置区分	担当研究室 (○主査)	
1	気象変動に対応した水稲安定生産のための生育予測技術の確立 (農産園芸課)	「岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システム」の後継システムに対応した、水稲生育ステージ予測技術の確立 ・本県の水稲主要品種について、最近の変動気象にも対応しうる、精度の高い生育予測技術を確立する。予測の内容:幼穂形成期・減数分裂期・出穂期・成熟期	岩手県の主要な奨励品種のDVIパラメータについては、現在実施している課題「水稲作況調査と作柄成立要因の解析(H14~22)」で順次作成し、「岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システム」の中での応用システムで使用されてきたところ。	C	○作物 PJ(水田農業) 作物(県北)	
			現在新システムが未確立であり、パラメータの適用性を検討できる段階ではありませんが、システムが確立され、使用可能になり次第、小課題「水稲作況調査と作柄成立要因の解析(H14~22)」の調査項目内においてパラメータの適用性を順次検討し、修正の必要があると思われるものに関してはパラメータも検討することとします。なお、要望課題の内容にある成熟期に関しては従来どおり出穂後積算気温での予測となる予定です。	A		
			減数分裂期の予測については、使用可能となる精度予測技術の確立が困難な状況であることから、次年度での実施は行わないこととします。	D		
			また、もち美人のパラメータに関しては、現在作成には至っていないことから、現地の奨励品種のデータや「もち美人の栽培法(H14~15)」(実施研究室:水田作研究室)の試験データ等を活用して検討していきます。加えて、従来でも予測精度の低かった「どんびしゃり」「いわてっこ」についても、新たなパラメータ作成に取り組むこととします。	A		
2	次期気象情報システムに対応した生育予測技術の確立 (中央農業改良普及センター)	(1)水稲主要品種(かけはし、いわてっこ、あきたこまち、どんびしゃり、ひとめぼれ、もち品種※)について、生育予測のためのパラメータを新システムに適用できるよう検証・作成(修正)する。 ※もち品種については、H17年度に要望に対して作成するとの回答あるも未作成である。	岩手県の主要な奨励品種のDVIパラメータについては、現在実施している課題「水稲作況調査と作柄成立要因の解析(H14~22)」で順次作成し、「岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システム」の中での応用システムで使用されてきたところ。	C	○作物 PJ(水田農業)	
			現在新システムが未確立であり、パラメータの適用性を検討できる段階ではありませんが、システムが確立され、使用可能になり次第、小課題「水稲作況調査と作柄成立要因の解析(H14~22)」の調査項目内においてパラメータの適用性を順次検討し、修正の必要があると思われるものに関してはパラメータも検討することとします。なお、要望課題の内容にある成熟期に関しては従来どおり出穂後積算気温での予測となる予定です。	A		
			また、もち美人のパラメータに関しては、現在作成には至っていないことから、現地の奨励品種のデータや「もち美人の栽培法(H14~15)」(実施研究室:水田作研究室)の試験データ等を活用して検討していきます。加えて、従来でも予測精度の低かった「どんびしゃり」「いわてっこ」についても、新たなパラメータ作成に取り組むこととします。	A		
			(2)りんご主要品種(ふじ、王林、ジョナゴールド、つがる)について、生育予測のためのパラメータを新システムに適用できるよう検証・作成(修正)する。	B, C		園芸
3	本県における水稲疎植栽培技術の確立 (農産園芸課)	(1)水稲疎植栽培の経営的特徴の把握とコスト削減効果が期待できる収量水準の検討	水稲の高位安定生産のためには、初期生育(有効茎数)の確保が必須です。しかし、本県で栽植密度を現状の1/2とした場合、初期生育期間の気象変動が大きいため、有効茎数の不足や雑草害などにより減収する可能性が高く、育苗コストの削減効果が低コスト化に反映されないものと見込まれます(D)。 なお、本年度「水稲の高位安定生産技術の確立」の試験課題の中で、「ひとめぼれ」「どんびしゃり」を対象に栽植密度を現行の7割程度(15.2株/m <sup>2</sup> )とした試験を行っています。栽植密度を低減した場合の生育特性などが分かり次第、お伝えすることとします(B)。	D, B	○作物 生産環境 農業経営	
			(2)水稲疎植栽培技術の確立 ・上記収量を確保できる栽植密度、施肥、水管理等の栽培技術及び作期の検討 ・本県、主力品種における疎植栽培技術の適応性の検討	なお、気象条件の安定した西日本では、疎植栽培の技術が普及しており、疎植栽培マニュアル等が出されていることから、育苗コストの削減程度や基本管理技術など、本県で疎植栽培を実施する場合に適用可能な情報を提供することとします。 また、栽植密度11.1株/m <sup>2</sup> とするためには、疎植栽培に対応した最新の田植機の導入又は、既存田植機の改造による対応が必要となります。		C
			(3)生産技術体系の作成	本県の生産技術体系は、「県の標準的な技術体系」として作成し、登録していますので、本技術のように、県の標準的な技術として適用できない技術は生産技術体系として作成しないこととします。なお、当研究室では、地域で独自の技術体系が効率的に作成出来るよう、今年度中に「農業技術体系データ作成シート(Excelブック)」を作成し、中央普及センターと共同で研修会を開催する予定となっていますので地域独自に本技術の技術体系を作成する場合には活用願います。		D

No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置 区分	担当研究室 (○主査)
4	水稲疎植栽培技術の本県適用性の検討 (中央農業改良普及センター)	(1)本県における水稲の疎植栽培(栽植密度11.1株/㎡まで)の適応性(収量性、品質、食味、雑草、病害虫管理等々)を検討し、基本的な疎植栽培技術の組み立てと、コスト削減の経済評価(主食用水稲のほか、飼料用米等他用途米)を行う。	水稲の高位安定生産のためには、初期生育(有効茎数)の確保が必須です。しかし、本県で栽植密度を現状の1/2とした場合、初期生育期間の気象変動が大きいため、有効茎数の不足や雑草害などにより減収する可能性が高く、育苗コストの削減効果が低コスト化に反映されないものと見込まれます(D)。 なお、本年度「水稲の高位安定生産技術の確立」の試験課題の中で、「ひとめぼれ」「どんびしゃり」を対象に栽植密度を現行の7割程度(15.2株/㎡)とした試験を行っています。栽植密度を低減した場合の生育特性などが分かり次第、お伝えすることとします(B)。 なお、気象条件の安定した西日本では、疎植栽培の技術が普及してきており、疎植栽培マニュアル等が出されていることから、育苗コストの削減程度や基本管理技術など、本県で疎植栽培を実施する場合に適用可能な情報を提供することとします。 また、栽植密度11.1株/㎡とするためには、疎植栽培に対応した最新の田植機の導入又は、既存田植機の改造による対応が必要となります。	D, B  C	作物
5	いもち病防除体系の再構築 (中央農業改良普及センター)	(1)低コストを目的として育苗箱あたりの施用量を現行の50gから減じた場合の実用性について、現在における地域のいもち病の発生特徴(いもち病伝染源量の多少・品種特性)を考慮の上検討する。 なお、農業登録上の箱あたり使用量より減じた試験を行い、その試験結果に基づき指導を行うことは問題ない旨、農業普及技術課が農林水産省に確認済みである。 (2)穂いもち予防剤および茎葉散布剤の穂いもちに対する残効性の評価を行うとともに、いもち病多発地域において、穂いもち予防剤を施用した場合の追加散布適期の再検討を行う。	・嵐箱剤では、30g/箱移植時施用した場合、通常に比べて葉いもちに対する防除効果の残効が短くなることが明らかとなっています。このため、いもち病多発地域での減量施用は困難です(C、平成15、16年病理昆虫研究室成績書)。 ・いもち病少発地域では、化学合成農薬による種子消毒と育苗期防除を地域一斉に取り組むことにより、いもち病菌の本田持ち込みを抑えることで、減量施用でもいもち病の被害を回避できる可能性があります。 そこで課題「水稲箱施用剤の減量施用が可能となる葉いもち初発生時期の解明(H21～23)」で、いもち病初発生の早晚と、箱施用剤の減量施用と通常施用の防除効果、稲体残留量の関係について次年度にモデル試験を行い、同等の効果が得られた場合に次年度以降に広域での現地試験を行います(A)。 ・本県で使用されている穂いもち予防剤はコラトップ剤、オリブライ剤、フジワン剤があります。これらの穂いもちに対する残効は明らかとなっていないため、その残効性を明らかにし、適切な追加防除時期について、課題「新農薬の効果検定と防除基準作成」で、平成21～22年に検討します(A)。 ・近年、コラトップ剤の残効は散布3週間後までであることが明らかとなっています(C)。本県では7月下旬に散布した場合、その残効は穂揃い期～穂揃い1週間後程度と推察され、従来までの穂揃い1週間後の追加防除では効果が劣る可能性があります。	A, C  A, C	病理昆虫  病理昆虫
6	小麦の品質評価基準を達成するための高品質生産技術の確立 (農産園芸課)	小麦の品質評価基準に対応できる生育診断・栽培技術の開発 ・たんばく質の基準値を目標とした品種別の診断指標の提示 ・各評価項目(たんばく質以外を含む)の目標達成に向けた栽培技術の確立 ・生育ステージ毎の生育診断・対応技術の体系化	小麦の品質評価項目のうち、H19年産のたんばく質含量は日本めん用、パン・中華麺用の両区分とも概ね基準値～許容値の範囲に収まっており、現状で大きく改善する必要性は薄いと考えられます。子実のたんばく質量制御については、比較的生育の揃っている水稲でも困難な技術であり、圃場間・圃場内のバラツキが大きい麦においては更なる困難が予想されます。従って現状では既存の生育診断指標等に基づき、適正な生育量や収量を安定的に確保することが先決であると考えられます。 品質評価項目のうち、特に問題となっているのが容積重と灰分であり、いずれも品種により大きく左右される特性です。すなわち、容積重は品種特性である粒の形状や開溝粒発生程度に大きく影響を受け、灰分も栽培技術により改善できる余地が少ないのが実情です(H19全国試験研究成果情報等、C)。本県の主力品種であるナンブコムギは、容積重・灰分とも他品種にくらべ劣っていることから、両特性を大幅に改善する画期的な技術対策が見出せない現状では、連作を避けるといった基本技術を励行する以外に有効な手だてがないのが実情です(D)。 たんばく質及び灰分・容積重など品質評価項目を総合的に向上させる技術の体系化については、本県のみならず独法等他研究機関による有効な技術開発の見通しができた段階で当県としての取り組みについて検討します。品質評価項目の向上に関しては、収益性向上チームと連携し、改善事例の収集などを行い、現場で活用可能な技術情報を随時提供します。	C  C, D  D	○作物 生産環境
7	肥効調節型肥料による小麦の後期追肥の省力化 (中央農業改良普及センター)	肥効調節型肥料の施用した場合の収量・品質を明らかにし、施肥体系を確立すること。	小麦における肥効調節型肥料の利用法については、溶出タイプ100日の配合肥料で、追肥を省略できる技術が出されています(平成元年度指導上の参考事項)(C)。 一方、小麦の収量・品質を安定的に確保するには、融雪期や減数分裂期の生育診断指標に基づいた追肥対応が必要です。 現在、「新肥料の実用化」において、初期溶出抑制型肥料を配合した資材の基肥、及び融雪期追肥の効果について試験中であり(初年目)、今後、コストを考慮しながら、基肥+融雪期追肥あるいは基肥1回施肥に必要な品質と収量を確保できるか検討する予定です(B)。	C, B	○生産環境 作物



No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置 区分	担当研究室 (○主査)
8	大豆の晩蒔狭畦密植栽培の有効性についての研究 (岩手県農業農村指導士協会)	(農)アグリパーク舞川は大豆の晩蒔狭畦密植栽培の技術を確立して、多くの成果を上げているが、公共機関による試験研究が無いとして、農業共済に加入できないでいる。そこで、県の研究機関でこの栽培方法の有効性について研究して欲しい。 【具体的な成果】 ①この栽培法による播種晩限日及び適期の把握 ②慣行栽培と比較した場合の収穫量の比較 ③この方法による長所の解明	1 播種晩播限界及び適期の把握 (1) 県南部における大豆品種「ナンブシロメ」、「スズカリ」の播種適期は、6月上旬から中旬です。 7月上旬までの播種では、安全に収穫が可能です。ただし、適期播種に比べて、生育量および収量が低下します。 7月中旬以降の播種では、成熟期が1月上旬になり、年により降霜による強制登熟や、降雪による品質低下の危険性が高まります。 (2) 平成17年に奨励品種に編入された極早生品種「ユキホマレ」の県南部での播種適期は、7月上旬～中旬です。 2 慣行栽培と比較した場合の収穫量の比較 (1) 「ナンブシロメ」や「スズカリ」の晩播栽培では、狭畦・密植との組み合わせにより、最下着莢高が高まるとともに、百粒重及び収量もやや高まる傾向があります。 6月20日前後の播種において、畦間30cm、㎡当たり22～33本の狭畦密植栽培とするにより、慣行の㎡11～16本と比較して10%程度の単収増が期待できます。 (2) 極早生品種「ユキホマレ」の麦後栽培では、狭畦・密植栽培をすることで収量・粒大が高まる品種であり、畦幅30cm程度と狭畦とし、密度は㎡当たり22～33本が適しています。 3 この方法による長所の解明 (1) 麦収穫後の晩播においては、個体ごとの生育量が小さいため、栽植密度を高めることにより、収量が確保しやすくなります(長所)。 (2) 晩播では、着莢位置が低く、浸水害に弱いので、適地を選定し、迅速な表面排水がはかられるよう、対策を徹底することが必要です(短所)。  [参考とする本県の研究成果等] ・昭和55年度 晩播及び晩植大豆の諸特性 ・平成13年度 大豆の晩播密植・狭畦栽培技術 ・平成15年度 大豆不耕起栽培技術と作付体系への導入法 ・平成16年度 品種味噌、納豆、煮豆向けの極早生大豆「ユキホマレ」	C	○PJ(水田農業) 作物
9	県奨励品種ナンブシロメの栽培確立(大粒化) (全農いわて)	県奨励品種ナンブシロメの栽培確立(大粒化)	全国的に問題となっている大豆の小粒化は、水田転換畑における地力の低下、病害虫および気象条件等によるものと考えられています。小粒化は、これらの要因が複合して発生していると考えられ、単一の技術で解決するには困難な現状にあります(D)。対策として土づくり、排水対策の徹底、連作回避等、基本技術を励行し、少しでも小粒化を食い止めることが必要です。 また、ナンブシロメは中粒種の大豆で、百粒重は約25gですが(リュウホウ:約32g)、栽培上、小粒化を回避する手段として秋田農試から「小粒化低減のための有機物施用効果」(平成16年度秋田農試研究成果)が報告されています(C)。また、晩播狭畦密植により百粒重が高まるとの報告があります(平成13年度試験研究成果)。しかし、上記手法によっても百粒重の増加は数g程度であり、大粒まで向上させることは困難です(D)。 現在、大豆奨励品種決定調査において、大粒系統を中心に試験を行っており、早期に奨励品種に編入できるよう加工適性と併せて検討中です。	C, D  B	○作物 PJ(水田農業)
10	りんどう晩生F1新品种の育成 (農産園芸課)	平成22年までに下記のりんどうの晩生F1品種3品種を育成する。 (1)ジョバンニ(9月上～下旬開花)の代替となる品種 (2)アルビレオ(10月上～中旬開花)の代替となる品種 (3)ジョバンニ及びアルビレオの中間に開花する品種	「りんどうの品種育成(S49～H20)」の課題において、りんどうの品種開発を進めている。要望のあった晩生～極晩生種の育成に関しては、現在、特に重点的に取り組んでいるところであります。 そのうち、前年度のF1検定(1次選抜)試験をクリアした2系統については、従来、農研センター内で実施していた2次選抜試験を本年度より直接現地(一戸、零石、花巻、衣川)において実施しています。このことにより、検定精度の向上と労力の軽減化が図られるとともに、何より、2次選抜系統中に有望系統が見出された場合には、そのまま現地実証試験を兼ねる形となることから、早期の品種育成完了が可能となります。 なお、上記2系統に限らず毎年度新たに数十系統を交配、F1検定に供しており、継続して有望系統の選抜を実施しています。	B	園芸
11	りんご早生品種の開発 (全農いわて)	りんごの消費量が減少傾向にある中、中生種の品種開発がされ、消費者の支持を得るようになってきている。今後、りんご消費の増を図るためには、消費者嗜好に適合した早生品種の開発により、消費者の支持を得る必要がある。 早生品種の開発は①りんご経営にとり、労働の効率化、②台風等気象災害の回避、③初期からの消費者支持による消費の回復、④晩生品種「ふじ」の品種構成割合の改善、⑤本県オリジナル早生品種の開発による産地評価の向上、につながる。	これまで、りんごの品種開発の目標を中～晩生種としてきたが、近年「つがる」の「着色の遅れ」や「日持ちの悪さ」のため、価格が低迷しています。このため、早生品種開発の要望が高まってきており、次年度より早生品種の開発に取り組むこととします。	A	園芸

No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置 区分	担当研究室 (○主査)
12	野菜大型経営体 のための局所施 肥システムの提 案 (中央農業改良 普及センター)	特に大型野菜経営体に対し て局所施肥を取り入れたシ ステム化を提案し、本県が 産地化している全ての品目 について(局所施肥技術に よる栽培の可否も含め)再 構築をして提示することによ り、収益性の高い体系が導 入され、経営体や地域農業 の活性化が図られることを 期待する。 本県での導入や組み立て が可能な体系については、 経営的評価も必要となる。	(1)主な野菜については、これまで多くの点滴灌水施肥や畦内局所施肥の 研究成果が出されており、その技術は大規模経営体においても適用可能 です。今後中央普及センターと協力して他の研究機関の開発した技術を 含めて情報提供を行います。 (2)露地果菜類ではより安価な灌水施肥装置が必要であり、近中四農研で 開発された日射制御型自動灌水装置を利用した点滴灌水施肥の試験実 施を検討しています。	C  A または D	○園芸 生産環境 農業経営
13	タバコガの効果 的防除方法 (中央農業改良 普及センター)	タバコガの発生活長の解明 とそれに基づく薬剤の組み 合わせ等による効果的な防 除方法の確立と効果の高い 薬剤の選定。 効果的な防除方法に基づく 適期防除が実施されること でタバコガによる食害が軽 減され、安定した生産が実 現する。 また、消費者からのクレーム がなくなることで本県ピー マン産地に対する信用、信頼 が維持される。	・本種の発生活態は不詳ですが、被害果の出現状況から防除時期は7 月下旬～9月中旬としています。有効な薬剤は県防除指針に記載していま すが、残効期間については不明なので、「新農薬の効果検定と防除基準 作成」(H21-22年)で検討します。 ・なお、近年、本種より寄主範囲の広い飛来性害虫オオタバコガの被害 が8月以降に顕在化しつつあることから、ピーマンでも発生している可 能性が高いので、H20-21年に加害種を特定し、場合によってはタバコガ類で 課題化について検討します。	A	病理昆虫
14	クレマチスに於け る「赤しぶ病」の 発生メカニズムと その防除方法の 解明 (岩手県農業農 村指導士協会)	一見「赤さび病」に見える が、クレマチス特有の「赤し ぶ病」で、アカマツに病原菌 が寄生すると言われている。 この病気が解明されると高 品質なクレマチスの生産が 可能となり、消費者も喜んで もらえる品質となる。また、パ ラに次いで一大品目になり 得る。発生状況を観察すると 梅雨前後と9月の秋雨に多 いように感じる。	要望者の圃場を調査し、赤しぶ病であることを確認しています。 本病菌の生活環はアカマツを中間宿主とするため、圃場周辺のアカマツが 伝染源であると考えられる。クレマチスの葉が侵されて病斑が目立つよう なる6～7月に防除を実施する。また、露地栽培しているクレマチスは、開 花後(6月)できるだけ刈り払い、秋期におけるアカマツへの感染を防ぐ。 出典)庭木・花木・林木の病害、PP.178	C	病理昆虫
15	初乳等で出荷で きない牛乳を利 用した豚の肥育 技術の確立 (中央農業改良 普及センター)	現在、廃棄されている牛乳 が豚の飼料として利用され ることにより低コストな豚肉生 産が可能となる。 廃棄乳を主原料としたリキッド フィーディング技術(調製 方法や簡易給与システム 等)の確立。	・廃棄されている牛乳は、消費期限切れ牛乳、初乳、乳房炎乳等があり、 豚の飼料として利用できるのは消費期限切れの牛乳と初乳であると考えら れます。 ・消費期限切れ牛乳は、養豚においてリキッドフィーディングで一般的に利 用されており、組み合わせる飼料により異なるが、乾物割合で10%程度配 合で飼料費コスト低減を図り定着している事例があります(C)。(千葉県肥育 豚常時6千頭規模農場の事例、千葉県畜産研究センター研究報告4号 P63-66及び研究成果普及情報H17「養豚における食品製造副産物を用い たリキッドフィーディングの経済的評価」) ・初乳は、分娩子牛に飲ませるが、5日間は市乳出荷できないため使いき れず廃棄されている例があります。初乳成分は、出荷牛乳とより乳脂肪、蛋 白質が高いという特徴があるものの、栄養成分を踏まえて調整すれば利用 可能です。離乳子豚に発酵乳給与(市販飼料1:発酵乳5、養豚学会誌 VOL42-2、44-1)、肥育豚に牛乳給与(市販飼料1:牛乳2～3、東海畜産学 会報VOL18)の事例では発育良好、枝肉では脂肪が厚めになる傾向との 知見があります(C)。 ・既知見は牛乳消費地近傍での対応を想定したものが主体ですが、今回 の要望は牛乳生産現場近傍での取り組みが想定されており、その導入 段階に応じた様々な態様が考えられ、現地の実態に応じた具体的な検討 ポイントやその際必要となる設備資材、運用方法等について絞り込んでい く必要があります。また、当研究所にはリキッドフィーディングに係る処理保 存等の基本的設備がないことから、取り組みにあたっては並行して整備す ることも必要となります(D)。 ・以上のことから、次年度課題化実施はできないが、取り組みが想定される 現地において、飼料設計や産肉性評価等の支援を行いながら、具体的な 検討ポイント等の絞り込み整理を図り、研究課題化を検討していくことと します。	C, D	家畜育種

No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置 区分	担当研究室 (○主査)
16	遠隔分散ほ場等での大規模飼料用トウモロコシ栽培に対応した省力的除草剤散布体系の解明 (中央農業改良普及センター)	トウモロコシ栽培における効率的・効果的かつ省力的な雑草防除体系 ○効率的な除草剤散布方法 (除草剤散布に適した土壌条件(土壌水分etc)の解明)	・飼料用トウモロコシ生産では、雑草の発生を抑えるため播種直後に土壌処理剤を散布し、その後発生してきた雑草に対して茎葉処理剤を1~2回散布する状況が多く見られます。 ・遠隔地等を含む飼料用トウモロコシ圃場の除草処理に係る省力化には、高い除草効果により処理回数を減らすことが必要であります。このために、土壌処理剤及び茎葉兼土壌処理剤の効果を充分発揮させる散布時の土壌水分等を明らかにする試験を実施します。  ○課題名「飼料用トウモロコシの効果的な除草剤散布技術の確立」(新規) ○実施年度H21-H23	A	家畜飼養・飼料
17	家畜排せつ物由来堆肥から供給されるリン酸・加里の利用技術の確立 (農産園芸課)	(1) 堆肥から供給されるリン酸・加里の肥料成分としての評価  (2) 施肥コストの低減につながる利用技術の確立	堆肥中のリン酸、カリの作物による利用率は化学肥料とほぼ同等との知見が出されており、肥料的な効果が高いと考えられています。 こうしたことから、県内における堆肥の流通を促進するため、そのリン酸、カリ等の肥料成分や品質などを総合的に評価する「家畜ふんたい肥の特性評価システム」(H13)、「県内家畜ふんたい肥の成分特性の変化」(H14)などの研究成果があるので、情報提供します。 また、堆肥等によるリン酸及びカリ成分の化学肥料代替技術に関する研究成果は、①リン酸肥料(よりん等)及びカリの代替施用技術である「鶏ふんボイラー焼却灰の肥効」(S60)、②堆肥による減化学肥料栽培においてリン酸、カリの施肥を省略可能とした「窒素濃度の高い堆肥を用いた水稲50%減化学肥料栽培技術」、「同キャベツ、スイートコーン」(H16)、③豚ふん堆肥による施肥の一部または全量代替技術「水稲における岩手町大規模養豚団地産発酵豚ふんの利用法」、「同キャベツ及びスイートコーン」(H12)、「同ながいも栽培」(H15)などがあります。(以上C) 上記の知見等を踏まえ、現在実施中の水田・露地畑・施設における有機質資源連用試験及び土壌機能実態モニタリング調査等のデータを取りまとめることにより、土壌の可給態成分レベルを維持し、持続的な生産が可能な堆肥施肥量・施肥量の設定に参考となる成果を出す予定です(B)。	C, B	生産環境  生産環境
18	県北・沿岸圏域の地域資源等を有効活用した重点品目にかかる生産技術体系の策定について (農産園芸課)	現在、県北・沿岸圏域において、その地域特性と資源を有効活用して生産拡大を図ろうとする品目を生産技術体系に追加する。  ◆新たに追加を希望する品目名 ・県北圏域:冬春菌床しいたけ栽培 ・沿岸圏域:夏秋いちご養液栽培、夏秋いちごと促成いちごの組み合わせによる周年栽培など	①いちご 平成17年に公表した「促成作型体系」と平成20年4月に公表した「二期どり作型体系」を組み合わせることにより、周年栽培の経営試算は可能となっておりますが、要望のあった夏秋作型については未策定となっております。そこで、南部園芸研究室で、現在実施中の、イチゴ四季成り性品種の研究成果を踏まえ、来年度から当研究室で実施予定の「農業技術体系データベースの整備拡充」(H21~25)の課題の中で作成し追加します。 ②菌床しいたけ 菌床しいたけのように、地域や農家等の独自性が強い品目については、県の標準的な技術体系として一律に作成するのは困難です。また、特定メーカーと密接な関係にある栽培技術を標準化して技術体系を組み立てることは、県として慎重な姿勢で臨む必要があると考えます。 当研究室では、地域で独自の技術体系が効率的に作成出来るよう、今年度中に「農業技術体系データ作成シート(Excelブック)」を作成し、中央普及センターと共同で研修会を開催する予定となっておりますので活用願います。現地で技術体系を作成する際には、資料や情報提供をしていきます。	いちご A  しいたけ D	○農業経営 南部園芸
19	菌床しいたけの経営技術体系作成 (中央農業改良普及センター)	(1)菌床しいたけの経営モデルを県の生産技術体系として作成すること  (2)既存の生産技術体系に追加すること	菌床しいたけのように、地域や農家等の独自性が強い品目については、県の標準的な技術体系として一律に作成するのは困難です。また、特定メーカーと密接な関係にある栽培技術を標準化して技術体系を組み立てることは、県として慎重な姿勢で臨む必要があると考えます。 当研究室では、地域で独自の技術体系が効率的に作成出来るよう、今年度中に「農業技術体系データ作成シート(Excelブック)」を作成し、中央普及センターと共同で研修会を開催する予定となっておりますので活用願います。現地で技術体系を作成する際には、資料や情報提供をしていきます。 現在、農業技術体系データベース・システムに登録し公表しているのは、県の生産技術体系のみです。地域独自の技術体系の登録については、地域を限定した利用を可能とするためのシステムの改良が必要と考えられることから、システムの改良等について共同開発者である中央農業総合研究センターと協議したいと考えています。	D  D	農業経営  農業経営
20	集落営農組織の経営戦略の策定に向けた誘導手法の開発(合意形成手法を含む) (農業振興課)	このため、集落営農組織自らが、経営目標の設定やその実現に向けた戦略を策定するよう誘導する手法をベンチマーク等により調査・分析し、「いわて型集落営農誘導モデル」として開発するとともに、普及段階で簡易に利用するマニュアル化をお願いする。 この場合、特に、任意組織の法人化に向けた発展誘導を課題として取り上げていただきたい。	平成20年4月に公表した「集落営農組織の現状と展開方向」の中で集落営農組織の発展段階別の課題と対応策、経営多角化の方向を整理していますので参照願います。 現在、集落営農組織が目指すべき方向を明確化させるため、中央普及センターが実施している「組織経営体育成に向けた効率的支援手法の検討」に当研究室も参画していますので、そのプロセスを通じて支援していきます。 なお、先進事例や学会等の情報は随時提供していきます。	C	農業経営

No	要望課題名 (要望機関)	要望課題の内容	検討結果	措置 区分	担当研究室 (○主査)
21	圃場条件に対応した農家が実施できる均平技術の確立 (中央農業改良普及センター)	(1)圃場の均平度の悪化状態を指標化し、それに応じた均平方法について、装備する機械のコストや労力を考慮の上、農家段階で実施可能な技術として整理する。例えば、均平度の悪化状態が軽い場合は、簡易な装備で均平可能な技術として整理。悪化状態が重い場合は、レーザーレベル等で対応する他、前処理として耕起作業を行う必要があるか等考慮の上、均平作業能率を高める体系的な技術として整理。	H19年度に鳥取県農業試験場が「簡易均平作業マニュアル」を公表しております。 本マニュアルは、本県でも適用可能な内容となっておりますので、マニュアルを提供いたします。 また、熊本県農業研究センターでも関連する研究成果がありますので情報提供していきます。	C	農業経営
22	小菊の市場調査実施について (岩手県農業農村指導士協会)	①穀物・野菜などにあるフードマイレージを意識した県内及び近隣市場の市場動向を探りたい。 ア:県内外で出荷している産地は何かか。 イ:どれだけの本数が捌かれているか。 ウ:サイズ・等級の割合と単価はいくらか？ ②広い岩手の特異性を生かした出荷体制をとれないか。 ア:各産地の品種別数量と単価の把握と、その中で大量に高価格で捌かれる品種はなにか(ニーズの把握)。 イ:県内で価格安定を狙ったリレー出荷ができないものか。 ③FAJによると今必要とされている小菊は、店頭1本売りではなくスーパーや量販店で売られるセット販売が主流と聞いている。また、ある東京のバイヤーによると「私達は、東京にゴミまでいらない。必要な長さは65cm」ときっぱり言われた。状況から現在の2L3本仕立ての指導が適正かどうか感じている。市場調査から今後の指導を検討されたい。	農業研究センターとしては、来年度から実施する予定の新規課題「本県主要農産物の需要・競争構造の分析(H21～H25)」において、需要動向と競争構造の分析を行い、産地の振興方向にかかる情報を提供することとしておりますので、入手可能な統計データの分析を中心に対応します(A)。 なお、市場統計を使用して、市場別、産地別の出荷動向の分析は実施できますが(A)、サイズ別、等級別の割合と単価、各産地別・品種別の数量及び単価については、データの入手が困難なため、分析は不可能です(D)。 また、リレー出荷については、出荷団体である全農と農協で取り組む必要があり、研究として検討することは困難です(D)。 同様に、実需者のニーズは多様なため、データを使用して一律に決定するのは困難です。出荷団体である全農等を中心として、ターゲットを明確にし取り組むことが必要であると考えます(D)。	A, D	農業経営

## 5 共同研究等の推進

### (1) 国庫委託研究事業 (国庫10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 (水稻、麦類(耐寒雪性)、大豆 (立枯性病害抵抗性))	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る。	作物(技術部)
系統適応性検定試験事業(水陸稲、馬鈴薯、小豆、果樹、とうもろこし)	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	作物(技術部) 園芸(技術部) 家畜飼養・飼料

### (2) 農研機構プロジェクト(交付金プロジェクト)研究(10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の確立	(独)東北農業研究センター	17~21	1)「リンゴ生育期後半における病害防除回数削減体系の開発」	病理昆虫
		17~21	2)「リンゴの樹形改善による効率的防除と散布量削減技術の開発」	園芸(技術部)
		17~21	3)「農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証とマニュアル策定(2)殺菌剤の薬効拡大、樹形改善などによる農薬削減と効率的防除」	園芸(技術部)
		17~21	4)「農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の経営評価」	農業経営
寒冷地における良食味四季成り性品種定着のための夏秋どりイチゴ栽培技術の確立	(独)東北農業研究センター	20~21	四季成り性イチゴの高増殖性母株作出技術の開発	園芸(技術部)
有機自給飼料生産技術の確立とこれを用いた日本短角種オーガニックビーフ生産の実	(独)東北農業研究センター	20~21	日本短角種の粗飼料主体肥育技術の確立	家畜育種

### (3) 農林水産省プロジェクト研究委託事業(10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発	(独)東北農業研究センター	18~22	「水田単作地帯において堆肥を有効に活用した発酵粗飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立」	プロ推(水田農業)、生産環境、家畜飼養・飼料
超低コスト土地利用型作物生産技術の開発	(独)東北農業研究センター	19~23	水稻乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	プロ推(水田農業)、農業経営
粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発	(独)東北農業研究センター	18~22	1)「不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立」	家畜飼養・飼料
		18~22	2)「破碎処理機によるトウモロコシの収穫適期拡大と泌乳牛への多給による飼料代低減技術の確立」	家畜飼養・飼料
		18~20	3)「新たなとうもろこしサイレージ生産・供給・給与体系の経営経済評価」	農業経営
農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発(指標の候補を選抜するための研究)	(独)農業環境技術研究所	20~24	寒冷地のキャベツほ場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜	病理昆虫、園芸(県北研)
		20~24	北日本の平地水田地帯における指標生物の選抜	プロ推(特裁・有機)
生産・流通・加工工程における体系的な有害要因の特性解明とリスク低減技術の開発(農産物におけるヒ素およびカドミウムのリスク低減技術の開発)	(独)農業環境技術研究所	20~22	イムノクロマト法等によるカドミウム濃度簡易測定のみぎ、ダイズ、野菜への適用(イノムクロマト法ののみぎ、ダイズへの適用)	生産環境

(4) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 (10/10委託)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
冷水資源を利用した根域冷却による野菜の高品質化技術の開発(課題番号:1925)	(独)東北農業研究センター、宮城県、秋田県、岩手大学、全国農業協同組合連合会、賢治の土(株)	19~21	2「作型・品種・栽培システム」のうち(1)「トマトの作型・品種・栽培システム」において根域冷却技術システム化、高糖度生産条件の解明に関する研究を行う。	南部園芸
野菜等の品目別カドミウム濃度の解明と吸収抑制技術の開発(課題番号:1901)	(独)東北農業研究センター、北海道、宮城県、秋田県、山形県、滋賀県、兵庫県、愛媛県、熊本県、宮城大学	19~21	1.「土壌のカドミウム汚染程度と野菜のカドミウム濃度の関係解明」のうち、(1)「野菜の品目別カドミウム濃度の解明」及び(2)「高吸収性野菜品目の品種別カドミウム濃度の解明」において、多品目・多品種にわたる可食部カドミウム濃度の解明を分担して行う。 2.「カドミウム吸収抑制技術導入効果の評価と技術の最適化」のうち、(2)「アルカリ資材による効率的なカドミウム吸収抑制技術の開発」において、東北農業研究センターと連携して地域条件に適した技術を開発する。	生産環境
斑点米カメムシ発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発(課題番号:18013)	(独)東北農業研究センター、東北大学大学院、青森県農林総合研究センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、(独)中央農業総合研究センター	18~20	1) 斑点米カメムシの変動要因の生態的・生理的要因の解明のうち、(1)「斑点米カメムシ発生密度に影響する要因解明」において斑点米カメムシの水田内外における発生密度に影響する要因、とくにイネ科雑草の及ぼす影響について解明する。	病理昆虫
業務用需要に対応した露地野菜の低コスト・安定生産技術の開発(2003)	(独)野菜茶業研究所、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、愛知県、鹿児島県	20~22	1.「栽植方式の見直しによる省力化技術の開発」のうち、(3)「ホウレンソウの省力生産技術の開発」において、大型規格栽培に適した栽培技術の開発を行う。	園芸(県北研)
リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発(課題番号:1650)	(独)果樹研究所、長野県果樹試験場、宮城県農業園芸総合研究所、岐阜大学、岩手大学、JAいわて中央	16~20	(1)「授粉専用品種の効率的な園地導入技術の開発」に関する研究を実施する。なお、平成20年度において、高接ぎや大苗移植等による園地導入技術について検討する。	園芸(技術部)
輸出に対応した地域特産切り花の流通技術の開発(課題番号:1919)	(独)花き研究所、島根県、徳島県、高知県、熊本県、香川大学、住友ベークライト(株)、西和賀農業協同組合、くびき農業協同組合、高知市農業協同組合	19~21	3.「リンドウ切り花の遠距離輸送技術の開発」のうち、(1)「収穫後生理特性の解明と前処理方法の確立」において、リンドウ切り花の前処理剤使用方法の検討を、(2)「遠距離輸送技術の開発」において、品質低下が大きい条件下での輸送方法の検討を、また、(3)「遠距離輸送技術有効性の実証」において、リンドウ切り花の香港への輸送における開発した技術有効性の検討を行う。	生産環境
「純系を利用した新育種手法による国際競争力の高いリンドウの開発」(課題番号:2040)	(財)岩手生物工学研究センター、国立学校法人岩手大学、有限責任中間法人安代リンドウ開発	20~22	「交配実生の県南地域での栽培評価」において、特性評価を行う。「交配実生におけるDNAマーカーの適用性検定」において、花色識別マーカーによる実生の検定を行う。	園芸(技術部)
「課題番号2005:GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発」	国立大学法人九州大学、愛媛県	20~22	1「GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの設計・評価とサブシステム統合」(2)「岩手県におけるシステムの実証試験・現地評価」	農業経営

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
「環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立(18060)」	静岡県農林技術研究所、長野県農業総合試験場、岩手県農業研究センター、静岡大学農学部、全国わさび生産者協議会	18～20	「ワサビ病害虫の耕種的・物理的防除法の開発」及び「総合的作物管理(ICM)システムの構築と実証」	病理昆虫
「遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発(2004)」	山形県、宮城県、秋田県農林水産技術センター、東北大学、北海道大学、日本獣医生命科学大学	20～22	不飽和度を高める飼料及び給与技術の開発	家畜育種

**(5) 重点地域研究開発推進プログラム(地域ニーズ即応型) (10/10委託)**

課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
デジタル土壌養分分析システムの開発	有限会社イグノス	20～21	① 土壌抽出キットを用いた土壌養分分析法の項目拡大 ② 養分量推定プログラムの開発 ③ デジタル土壌養分分析システムの構築	生産環境

**(6) その他独法等からの委託 (10/10委託)**

事業・課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
果樹用農薬飛散制御型防除機の開発に関する委託研究	(独) 生物系特定産業技術研究支援センター	18～20	スピードプレーヤ用ドリフト低減型ノズルの防除効果、ドリフト及び作業者被曝低減効果試験	園芸(技術部)
平成20年度土壌由来温室効果ガス計測・抑制技術実証普及事業	(独) 農業環境技術研究所	20	全国農地土壌炭素調査	生産環境
平成20年度農薬残留対策総合調査	(社) 日本植物防疫協会	20	農薬環境負荷解析調査(ドリフト調査)	生産環境

**(7) 民間委託試験 (10/10委託)**

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(財)岩手県植物防疫協会	(社)日本植物防疫協会からの委託分	病理昆虫、園芸(県北研)、作物(県北研)
		(財)日本植物調節剤研究協会からの委託分	プロ推(水田農業)、園芸(技術部)、南部園芸、家畜飼養・飼料、作物(県北研)
		(株)丸尾カルシウム、(株)井上石灰工業、(株)晃栄化学工業からの委託分	園芸(技術部)
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	水稻10件、小麦3件、りんご2件、トマト2件、きゅうり2件、アスパラガス1件、レタス1件、ほうれんそう2件、キャベツ1件、りんどう1件、共通1件	プロ推(水田農業)、プロ推(特裁・有機)、作物(技術部)、園芸(技術部)、南部園芸、生産環境、園芸(県北研)
稲民間育成品種評価試験	(社)農林水産先端技術産業振興センター	民間育成の稲新品種(系統)について、評価試験を行い、岩手県における適応性を検討	作物(技術)
土壌病害虫防除技術基準策定事業	(社)日本くん蒸技術協会	キュウリホモプシス根腐病に対するクロルピクリンくん蒸剤による防除に関する調査試験	病理昆虫

**(8) 新夢県土いわて戦略的研究推進事業(科学・ものづくり振興課所管 公募競争型 県単)**

課題名	相手方 (◎は主査)	研究期間	研究の内容	担当研究室
木質バイオマス(杉樹皮)を利用した農業用ウッドウール培地の製品開発	◎ 葛巻林業(株) (有)岩手園芸、(独)東北農業研究センター	18～20	処分が困難な産業廃棄物である杉樹皮で、安価な杉皮原料の培地を製品化し、園芸への利用技術を確立する。	南部園芸

(9) (財) 岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索	生命科学研究部 (遺伝ゲノム学 研究分野)	H15～22	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーを開発し、岩手オリジナル品種の育成を加速化する。	作物(技術部)
DNAマーカー利用によるリンドウ新育種技術の開発と品種保護への応用	細胞工学研究部 (分子育種研究 分野)	H20～24	リンドウのDNAマーカーの整備及びそれらを用いた優良品種の育成法の確立を行う。また、品種保護のために高精度かつ簡易なDNA鑑定技術を開発する。	園芸(技術部)、 病理昆虫
体系的な植物病害診断法の確立に向けた病原体検出診断技術の開発	生命科学研究部 (植物病態研究 分野)	H19～23	ウイルスによる感染の検出を長鎖二本鎖RNAの蓄積を指標とする手法を確立し、迅速かつ体系的な植物病害診断を確立する。	病理昆虫

(10) 大学との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
平成20年度該当なし				

(11) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	園芸(技術部)
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	園芸(技術部)
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	作物(技術部)

(12) AFR(岩手農林研究協議会)研究会

ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 花卉育種研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	園芸(技術部)
2 昆虫機能利用研究会	◎岩手大学農学部、同教育学部、岩手医大、岩手県農業研究センター、岩手県立農業大学校	10～	病理昆虫
3 植物育種研究会	◎岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター	10～	作物(技術部)
4 農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター	10～	病理昆虫
5 機能性食品研究会A(雑穀)	◎岩手大学農学部、大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	作物(県北研)
6 機能性食品研究会B(豆腐)	◎岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	園芸(技術部)
7 農作業システム自動化研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	農業経営、プロジェクト(水田農業)
8 乳牛の周産期疾患研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧、日本金葉工業	10～	家畜飼養・飼料
9 水稲栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	作物(技術部)
10 果樹栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	園芸(技術部)
11 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	園芸(技術部)
12 植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター、生物工学研究所	12～	作物(技術部)
13 雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター	12～	病理昆虫
14 ホップの機能性研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	—
15 有機質資源循環利用研究会	◎岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター	12～	家畜飼養・飼料、生産環境、農業経営



名 称	構 成	研究期間	担当研究室
16 始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、小岩井農牧(株)	13～	家畜育種
17 里地・里山生物多様性研究会	◎岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、岩手県農業研究センター	14～	プロジェクト(特栽・有機)、病理昆虫
18 硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、◎岩手県農業研究センター	14～	生産環境
19 食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、◎岩手県農業研究センター	14～	家畜育種、家畜飼養・飼料
20 農業 I T 活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、◎岩手県農業研究センター	15～	農業経営、病理昆虫、生産環境、プロジェクト(特栽・有機)、作物(県北研)

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
21. 03. 13	岩手大学農学部第1会議室	A F R 拡大協議会及びシンポジウム

(13) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研究 の 内 容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半きょうだい家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半きょうだいサンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜育種
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体
岩手県日本短角種におけるGHSR遺伝子の変異解析と産肉形質に及ぼす影響	(独)農業生物資源研究所	20～21	近年、ヒトやマウスなどでグレリン受容体(GHSR)の遺伝的変異が増体や脂肪代謝に影響を及ぼすことが明らかになっている。最近、日本短角種におけるGHSR遺伝子の予備的な変異解析から、特徴ある変異遺伝子を検出した。そこで、この変異が実際に遺伝するか、遺伝する場合、日本短角種集団中におけるその頻度はどの程度か、また、産肉能力にどの程度の影響を及ぼすのかを明らかにする。さらに、本変異遺伝子の遺伝子診断法を開発する。	家畜育種
デジタル土壌養分分析システムの開発	(有)イグノス	20～21	有限会社イグノスが持つ画像処理を用いた検査・測定システム技術と、岩手県農業研究センターが開発した土壌養分分析用をマッチングし、農業生産現場において、簡易に測定できるデジタル土壌養分分析システムを開発する。【※重点地域研究開発推進プログラム「地域ニーズ即応型」】	生産環境

**(14) その他産学官連携**

名 称	開催年月	場 所	内 容	担当研究室
岩手県産官学連携検討会	年4回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域連携推進センター ※(財)いわて産業振興センター、大学および研究機関における情報交換	研究企画室
いわて産学連携推進協議会 (リエゾンI)	年4回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域連携推進センター ※研究シーズと県内企業とのマッチング	研究企画室
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	年3回	仙台市	事務局：東北農政局 ※産官学の連携強化、先端技術に関する情報提供、異業種・異分野間交流の促進	研究企画室
東北地域バイオインダストリー振興会議 (TOBIN)	20.9.25	仙台市	事務局：東北経済産業局 ※環境・バイオインダストリーに係る調査および情報の収集と提供	研究企画室

## 6 現地試験の実施

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発	八幡平市 紫波町 北上市 金ヶ崎町	大更 片寄 横川目 六原	プロジェクト推進室 (水田農業)
水田単作地帯において堆肥を有効に活用した発酵粗飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立 (委託プロジェクト：エサプロ4系)	紫波町	片寄	(水田農業)
水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証 (委託プロジェクト：担い手プロ)	花巻市	轟木	(水田農業)
ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証	奥州市 北上市 花巻市	江刺区稲瀬 横川目 太田	(水田農業)
小麦冬期播種栽培の安定多収化技術の確立と作期・適地拡大	花巻市	轟木	(水田農業)
水稲における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証	盛岡市 奥州市	玉山区巻堀 江刺区稲瀬	(特栽・有機)
安全安心な水稲栽培技術の総合実証	盛岡市 雫石町 奥州市	玉山区巻堀 御明神 江刺区稲瀬	(特栽・有機)
農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発	奥州市	江刺区稲瀬	(特栽・有機)
イブキジャコウソウ現地実証圃	奥州市他5	25地区	企画管理部 農業経営
固定タインを使用した雑穀の機械除草試験	花巻市	葛	農業経営
県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証 (施肥合：いわて純情米総合実証展示圃)	奥州市 奥州市 金ヶ崎町 奥州市 北上市 花巻市 花巻市 盛岡市 盛岡市 雫石町 八幡平市 九戸村	水沢区佐倉河 胆沢区北大畑 永栄 江刺区稲瀬 飯豊 西宮野目 東和町前田 中太田 土淵 西安庭 平笠 荒谷	技術部 作物

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
水稻奨励品種決定現地調査	(粳) 零石町 (粳) 紫波町 (粳) 八幡平市 (粳) 花巻市 (粳) 西和賀町 (粳) 奥州市 (粳) 一関市 (粳) 遠野市 (粳) 山田町 (粳) 陸前高田市 (粳) 洋野町 (粳) 二戸市 (飼料用米) 八幡平市 (飼料用米) 二戸市	上野 星山 大更 矢沢 沢内前郷 江刺区稲瀬 萩荘 上郷町 豊間根 竹駒町 宿戸 安比	作物
不良環境地帯向け水稻品種の育成	軽米町	山内	作物
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	作物
麦類奨励品種決定調査 (現地調査)	一関市 矢巾町 二戸市	東山 東徳田 仁左平	作物 作物 作物 (県北)
大豆奨励品種決定調査 (現地調査)	奥州市 滝沢村 二戸市	前沢区 大沢 米沢	作物 作物 作物 (県北)
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 江刺区小倉沢 花泉町金沢	園芸 (果樹)
J M 7 台木樹における低樹高仕立て法の確立	北上市 奥州市	江釣子、口内 江刺区玉里、 江刺区藤里	園芸 (果樹)
りんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立	奥州市	江刺区玉里、 江刺区藤里	園芸 (果樹)
東北地域における農薬 5 0 %削減リンゴ栽培木樹体系の確立現地実証試験	紫波町	長岡	園芸 (果樹)
果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立	花巻市	大迫町亀ヶ森	園芸 (果樹)
りんどうこぶ症の発生要因の解明にかかる現地試験	花巻市 盛岡市 八幡平市 西和賀町	大迫町 手代森、玉山 区釘平 吠田、苗代 沢、瀬の沢 貝沢	園芸 (花き) 病理昆虫
りんどう品種育成にかかる現地調査	花巻市 奥州市 一戸町 零石町	太田 衣川区檜原 奥中山	園芸 (花き)

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
水田単作地帯において堆厩肥を有効に活用した飼料イネ多収生産と良質イネサイレージ生産技術の確立	紫波町	片寄	<b>環境部</b> プロ (水田) 生産環境 家畜飼養・飼料
りんどうの効率的施肥技術の確立	八幡平市 奥州市	安代 衣川区	生産環境
野菜の品質自主管理技術の開発 生産工程における自主管理手順の開発 収穫・出荷工程における自主管理手順の開発	奥州市	江刺区	生産環境
畑作物・野菜類のカドミウム吸収抑制技術の確立	花巻市	南城	生産環境
県産野菜のおいしさ評価法の確立 レタスの内部成分評価法の確立 グリーンアスパラガスの内部成分評価法の確立	一戸町 北上市 一戸町	奥中山 煤孫 奥中山	生産環境
輸出に対応したりんどうの流通技術の開発	西和賀町 花巻市	沢内 石鳥谷、太田	生産環境
新農薬の効果検定と防除基準作成	花巻市 奥州市 盛岡市 軽米町	糠塚2地点 江刺区2地点 羽場 晴山	病理昆虫
斑点米カメムシ類の発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発	奥州市 奥州市 奥州市 金ヶ崎町	江刺区稲瀬 水沢区姉体 水沢区佐倉河 金森	病理昆虫
ワサビの総合的作物管理システムの確立	遠野市	宮守町	病理昆虫
天敵を利用したりんどうハダニ類の効率的防除法の開発	花巻市	石鳥谷町	病理昆虫
水稻種子生産における種子伝染性病害防除法の確立	奥州市 北上市	水沢区	病理昆虫
不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付け体系の確立	八幡平市 金ヶ崎町 岩泉町 花巻市		<b>畜産研究所</b> 家畜飼養・飼料
水田単作地帯において堆厩肥を有効に活用した飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	紫波町	片寄	家畜飼養・飼料
発酵TMR飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立	八幡平市		家畜飼養・飼料
日本短角種の全期粗飼料多給肥育の実証(細断型ロールペーを活用したトリモコンサイレージ多給短角牛の安定生産とブランド確立)	岩泉町 久慈市		家畜育種 家畜飼養・飼料

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
豚集団維持の交配支援システムの構築	岩泉町 田野畑村 紫波町		家畜育種
岩手の鶏遺伝資源を活用した特定JAS規格地鶏肉の効率的な生産に係る種鶏開発	大船渡市 一関市		家畜育種
血統・枝肉データを活用した日本短角種全個体情報システムの拡充	岩泉町 久慈市 二戸市		家畜育種
いわて型肉用牛パワーアップ事業(未経産乳牛への黒毛和種胚移植)	滝沢村		家畜育種
キャベツの環境保全型農業における生物多様性実証	八幡平市	松尾	園芸 ( 県北 )
ヒエ有望系統の現地適応性調査	二戸市 花巻市	足沢 大迫町	作物 ( 県北 )

### III 試験研究の成果





# 1 試験研究成果

## (1) 平成20年度成果数

成果区分	水稻	畑作物	果樹	野菜	花き	畜産	総合	総計
<b>普及(普及に移しうる成果)</b> 農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果	6	2	2	0	4	2	1	17
<b>指導(技術指導に参考となる成果)</b> 普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果	10	6	6	8	5	10	8	53
<b>行政(行政施策等に反映すべき成果)</b> 行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの	6	0	1	1	0	8	0	16
<b>研究(技術開発に有効な成果)</b> 新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの	0	6	0	3	3	5	0	17
計	22	14	9	12	12	25	9	103

## (2) 外部評価結果(集計)

### ア 第1回(平成20年9月、評価対象：0成果)

※例年は、第1回外部評価においても数課題の成果検討が行われていたが、平成20年度より「タイムリーな成果」が実施となったことにより、今回は第1回外部評価の対象となる成果がなかった。

### イ 第2回(平成21年1月、評価対象：55成果)

評価項目	評価基準			
	A	B	C	D
総合評価	131 ( 57%)	98 ( 42%)	2 ( 1%)	1 ( 0%)
1 新規性	124 ( 53%)	88 ( 38%)	19 ( 8%)	1 ( 0%)
2 期待する活用効果	160 ( 69%)	61 ( 26%)	10 ( 4%)	1 ( 0%)
3 成果内容・表現の的確性	127 ( 55%)	102 ( 44%)	2 ( 1%)	1 ( 0%)

※評価基準

1 新規性	A (高い)	B (やや高い)	C (やや低い)	D (低い)
2 期待する活用効果	A (高い)	B (やや高い)	C (やや低い)	D (低い)
3 成果内容・表現の的確性	A (適切)	B (一部見直し)	C (大幅見直し)	D (不適切)

### (3) 平成20年度成果名及び外部評価結果一覧

【普及(普及に移しうる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
水稲	H20-普-01	イブキジャコウソウ栽培マニュアル	農業経営	—	—	—	—
畑作物	H20-普-02	品種 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすい半もち・短稈の早・中・晩生ヒエ「ヒエ岩手1号」「ヒエ岩手2号」「ヒエ岩手3号」	作物(県北)	—	—	—	—
水稲	H20-普-03	県中南部向け非主食用水稲新品種「岩南29号」の育成	作物(技術部)	1	4	0	0
	H20-普-04	県中北部向け非主食用水稲新品種「岩手85号」の育成	作物(技術部)	1	4	0	0
	H20-普-05	落水出芽を行う水稲湛水直播栽培に適する肥効調節型肥料の配合	プロジェクト推進室(水田農業)	3	2	0	0
	H20-普-06	直播栽培における水稲中期除草剤「ペノキススラム水和剤」の使用時期	プロジェクト推進室(水田農業)	2	3	0	0
畑作物	H20-普-07	納豆用大豆「すずほのか」の播種適期及び好適栽植密度	作物(技術部)	1	4	0	0
水稲	H20-普-08	水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果(追補) — 播種機の改良オプション—	プロジェクト推進室(水田農業)	4	1	0	0
果樹	H20-普-09	りんご「黄香」の樹上裂果軽減対策	園芸(技術部)	0	3	0	0
	H20-普-10	出荷規格L(350g)を目標としたぶどう品種「サニールージュ」の花穂整形と適粒	園芸(技術部)	1	2	0	0
花き	H20-普-11	品種 鉢物用リンドウ「花研鉢2」	園芸(技術部)	3	0	0	0
	H20-普-12	リンドウの肥効調節型肥料を利用した株養成期の低コスト施肥法	生産環境	3	0	0	0
	H20-普-13	県北地域における9~10月出荷用小ぎくの栽培体系	園芸(県北)	3	0	0	0
	H20-普-14	リンドウの育苗中に発生する苗腐敗症の発生生態と薬剤防除対策	病理昆虫	3	0	0	0
畜産	H20-普-15	肉質に優れる日本短角種雄牛「辰郎」の作出	家畜育種	2	3	0	0
	H20-普-16	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「ゴールドデントKD660」	家畜飼養・飼料	0	5	0	0
総合	H20-普-17	平成21年度岩手県病害虫防除指針に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫	—	—	—	—

## 【指導(技術指導に参考となる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
野菜	H20-指-01	生産技術体系を活用したきゅうり経営分析シート	農業経営	—	—	—	—
総合	H20-指-02	新技術等を導入した農業技術体系データ	農業経営	—	—	—	—
	H20-指-03	集落営農組織の現状と展開方向	農業経営	—	—	—	—
	H20-指-04	園芸農家経営分析シート	農業経営	—	—	—	—
水稲	H20-指-05	稲作コスト低減技術情報ナビの作成	水稲生産コスト低減チーム	—	—	—	—
	H20-指-06	水稲種子消毒用生物農薬の防除効果	病理昆虫	—	—	—	—
総合	H20-指-07	集落営農組織における経営管理の展開方向	農業経営	—	—	—	—
水稲	H20-指-08	非主食用品種「岩南29号」および「岩手85号」の施肥法	作物(技術部)	2	3	0	0
	H20-指-09	水稲湛水直播における作溝同時直播装置の開発	プロジェクト推進室(水田農業)	4	1	0	0
	H20-指-10	大区画水田における水稲直播栽培モデル体系	プロジェクト推進室(水田農業)	4	1	0	0
	H20-指-11	温湯浸漬処理済み水稲種子の長期保存条件	プロジェクト推進室(特裁・有機)	4	1	0	0
	H20-指-12	アカスジカスミカメに対する地域一斉防除が有効となる防除時期	病理昆虫	2	3	0	0
	H20-指-13	平成20年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-指-14	肥効調節型肥料(シグモイド型)で水稲の肥料費を低減	生産環境	2	3	0	0
	H20-指-15	水稲における固定式タイン型除草機の除草効果	プロジェクト推進室(特裁・有機)	1	4	0	0
畑作物	H20-指-16	平成20年産麦・大豆の生育経過の概要と特徴	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-指-17	ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系	病理昆虫	1	4	0	0
	H20-指-18	発酵鶏ふんを利用した大豆の無化学肥料栽培技術	作物(県北)	2	3	0	0
	H20-指-19	キビ、アワの登熟特性からみた成熟期の推定	作物(県北)	—	—	—	—
	H20-指-20	キビ、アワの機械収穫技術	作物(県北)	—	—	—	—
	H20-指-21	生物農薬(BT水和剤)によるアワノメイガ防除条件下でのアワの生育特性から見た適正播種量と作期	作物(県北)	—	—	—	—
果樹	H20-指-22	りんご「ふじ」の樹上凍結が果実品質に及ぼす影響	園芸(技術部)	3	0	0	0
	H20-指-23	りんご「シナノゴールド」の台木比較評価	園芸(技術部)	1	2	0	0
	H20-指-24	県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤抵抗性実態を踏まえた殺ダニ剤使用体系	病理昆虫	—	—	—	—
	H20-指-25	クラブアップル「ドルゴ」、「スノードリフト」の授粉専用品種としての特性	園芸(技術部)	2	1	0	0
	H20-指-26	授粉専用品種のポット大苗移植によるリンゴ単植園での結実安定効果	園芸(技術部)	1	2	0	0
	H20-指-27	ブルーベリー栽培における有機質資材の利用法	園芸(技術部)	3	0	0	0
野菜	H20-指-28	四季成り性イチゴの主要品種の特性	南部園芸	3	1	0	0
	H20-指-29	四季成り性イチゴの摘果と摘花房処理の効果	南部園芸	3	1	0	0
	H20-指-30	アスパラガス数品種の岩手県における年内どり伏せ込み促成栽培適性	園芸(技術部)	2	2	0	0

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
	H20-指-31	トマトすすかび病とCf-9品種を侵す葉かび病（新レース）の新奇発生と診断のポイント	病理昆虫	4	0	0	0
	H20-指-32	ハウレンソウ萎凋病に対するクロルピクリン錠剤の低薬量処理法	作物(県北)	—	—	—	—
	H20-指-33	小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたレタス体内成分（硝酸イオン、糖）の簡易推定法	生産環境	3	1	0	0
	H20-指-34	GAP（衛生管理：トマト、きゅうり）における改善点と対策	生産環境	2	2	0	0
花き	H20-指-35	A4菌により作出したわい性リンドウ「A4PB No. 34-25」の特性	園芸(技術部)	3	0	0	0
	H20-指-36	パンジー鉢上げ用土としての杉樹皮培地の利用技術	南部園芸	2	1	0	0
	H20-指-37	リンドウ種子の調製・貯蔵技術	園芸(技術部)	2	1	0	0
	H20-指-38	等温遺伝子増幅法（ICAN法）を利用したキクわい化病の簡便な検定法	病理昆虫	3	0	0	0
畜産	H20-指-39	泌乳牛における分離給与の飼料給与順序がルーメン発酵に与える影響	家畜飼養・飼料	3	2	0	0
	H20-指-40	栄養管理による泌乳牛の尿量低減効果	家畜飼養・飼料	3	2	0	0
	H20-指-41	岩手県の黒毛和種在胎日数の現状と育種価および適合率	種山畜産	3	1	1	0
	H20-指-42	ライコムギサイレージを活用した日本短角種の自給飼料主体肥育技術	家畜育種	2	3	0	0
	H20-指-43	パークシャー種育成豚及び肥育豚の能力調査成績（1）	家畜育種	5	0	0	0
	H20-指-44	豚の肥育後期（70～110kg）における玄米添加給与が産肉性に及ぼす影響	家畜育種	3	2	0	0
	H20-指-45	産肉性から見た南部かしわ（K系）の適正な肥育終了週齢	家畜育種	4	1	0	0
	H20-指-46	飼料用トウモロコシ栽培における牽引式不耕起播種機の作業性	家畜飼養・飼料	2	3	0	0
	H20-指-47	子宮頸管粘液pHによる黒毛和種の過剰排卵処理後の卵巢反応の推定	家畜育種	2	3	0	0
	H20-指-48	受精卵移植時の血液検査値と受胎率・糞便pHとの関係	家畜育種	3	2	0	0
総合	H20-指-49	有機物の連用効果と土壌養分の過剰蓄積	生産環境	2	2	0	0
	H20-指-50	県内水田土壌の施肥管理と化学性の変化	生産環境	2	2	0	0
	H20-指-51	県内畑土壌の有機物施用と土壌の化学性の変化	生産環境	2	2	0	0
	H20-指-52	基盤整備直後の法面管理としてのイブキジャコウソウの経営評価	農業経営	0	4	0	0
花き	H20-指-53	リンドウこぶ症の発生実態調査に基づく当面の発生防止対策	病理昆虫	—	—	—	—

## 【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
野菜	H20-行-01	本県産ほうれんそうの競争ポジショニングと振興方向	農業経営	—	—	—	—
水稲	H20-行-02	基盤整備事業計画地区における10a区画稲作労働時間積算シートの開発	農業経営	—	—	—	—
	H20-行-03	水稲種子発芽試験時の雑菌抑制対策	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-行-04	平成20年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-行-05	平成21年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-行-06	平成21年度水稲新配布系統(候補系統)	作物(技術部)	—	—	—	—
	H20-行-07	MBI-D剤耐性イネいもち病菌の伝播経路	病理昆虫	4	1	0	0
	果樹	H20-行-08	りんご「岩手7号」の果肉は褐変し難い	園芸(技術部)	1	2	0
畜産	H20-行-09	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産	—	—	—	—
	H20-行-10	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定)成績	種山畜産	—	—	—	—
	H20-行-11	黒毛和種県有種雄牛の子牛市場成績	種山畜産	—	—	—	—
	H20-行-12	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産	—	—	—	—
	H20-行-14	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種	—	—	—	—
	H20-行-15	日本短角種産肉能力検定(現場検定法)成績	家畜育種	—	—	—	—
	H20-行-16	種雄牛「菊安舞鶴」のQTL解析結果と後継牛のQTL保有状況	家畜育種	—	—	—	—

## 【研究(研究開発に有効な成果)】

(※「研究」区分については、外部評価対象外)

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
畑作物	H20-研-01	改良固定タイン及び直進安定装置によるアワの除草効果	農業経営	—	—	—	—
	H20-研-02	雑穀類の移植栽培の可能性	作物(県北)	—	—	—	—
野菜	H20-研-06	アスパラガスの休眠における日長および低温の影響	園芸(技術部)	—	—	—	—
	H20-研-07	アワノメイガ越冬世代の発育と温度の関係	病理昆虫	—	—	—	—
	H20-研-08	他品目輪作によるハウレンソウ萎凋病の軽減効果は期待できない	園芸(県北)	—	—	—	—
	H20-研-09	県内主要産地葉菜類(キャベツ、レタス、ほうれんそう)の内部成分の特徴	生産環境	—	—	—	—
花き	H20-研-10	杉樹皮培地で発生するパンジー葉枯れ症状の発生要因	南部園芸	—	—	—	—
	H20-研-11	リンドウの着色異常をもたらす温度条件	園芸(技術部)	—	—	—	—
	H20-研-12	リンドウの県オリジナル品種におけるモザイク病の発生実態	病理昆虫	—	—	—	—
畜産	H20-研-13	飼料用トウモロコシ不耕起栽培における除草体系の検討	家畜飼養・飼料	—	—	—	—
	H20-研-14	黒毛和種雌子牛の母牛からの哺乳制限を開始する時期が採食量に及ぼす影響	外山畜産	—	—	—	—
	H20-研-15	哺乳方法の違いが母牛の卵巣機能回復に及ぼす影響	外山畜産	—	—	—	—
	H20-研-16	黒毛和種子牛の人工哺乳における離乳・育成指標	家畜育種	—	—	—	—
	H20-研-17	卵子活性化のタイミングが初期G1期またはG0期細胞を用いた核移植胚の発生能に及ぼす影響	家畜育種	—	—	—	—

## 2 追跡評価

### (1) 評価視点

岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領別表5の規程により、「成果の活用状況」について、「現在も有効な成果であるか」「成果が経済活動等で活用されているか」の評価視点で追跡評価を実施。

### (2) 追跡評価の調査方法

ア 農業研究センターによる自己評価

(ア) 評価視点 「現在も有効な成果であるか」

a 評価対象 平成17年度に公表した普及区分の全研究成果(22成果)を対象。

b 評価区分

A：(現在でも)有効

B：目的達成(既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない)

C：後年度の成果に反映(更新)

D：無効(Bの概念にふくまないもの)

(イ) 評価視点「成果が経済活動等で活用されているか」

a 評価対象 平成17年度に公表した普及区分の研究成果のうち、本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果(12成果)。

(a) 農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱(奨励品種等)

※ 農産園芸課が所管する稲、麦類、豆類、果樹、野菜、花き等が対象

(b) 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領(農薬の採用・使用上の留意点等)

(c) いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

(d) 日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

b 評価区分

(a) 生産者への「普及状況」と「その効果」について、A～Dの4段階で評価。

A：目標の75%

B：75%未満～50%

C：50%未満～25%

D：25%未満

(b) 評価の基準となる目標数値は、成果を主査する研究室において設定。

イ 中央農業改良普及センター(県域)による評価

(ア) 評価視点「成果が経済活動等で活用されているか」

a 評価対象 平成17年度に公表した普及区分の研究成果のうち、上記ア(イ)以外の成果(10成果)。

b 評価区分 上記ア(イ) bと同じ

### (3) 追跡評価結果

#### ア 農業研究センターによる自己評価

##### (ア) 評価視点「現在も有効な成果であるか」

No.	成果名	評価担当 研究室	有効性	摘要
1	<H17-普-01>水稲品種「どんびしゃり」の期待生育量と栽培法	作物	A	
2	<H17-普-02>平成 18 年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	作物	A	
3	<H17-普-03>水稲湛水直播機の作業条件と導入基準	PJ 推進室 (水田農業)	A	
4	<H17-普-04>「青丸くん」の緑色を残した豆乳の製造条件	生産環境	A	
5	<H17-普-05>りんご園の早期成園化のためのポット養成苗による大苗移植栽培法(追補)-JM 系台木と不織布ポットの利用-	園芸	A	
6	<H17-普-06>品種 西洋なし 食味良好な早生品種「オーロラ」	園芸	A	
7	<H17-普-07>品種 おうとう 豊産性で食味良好な品種「紅秀峰」	園芸	A	
8	<H17-普-08>平成 18 年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	園芸	A	
9	<H17-普-09>品種 秋ぎく系小ぎく「CM21」(黄色 スプレータイプ)	園芸	A	
10	<H17-普-10>品種 秋ぎく系小ぎく「CM28」(赤紫色 スプレータイプ)	園芸	A	
11	<H17-普-11>発育効果および生涯生産性を高める乳用育成牛の集約放牧のシミュレーションソフト	家畜飼養・ 飼料	A	
12	<H17-普-12>黒毛和種県産種雄牛「房平茂」「平福国 1」「来待招福」の作出(間接法)	種山畜産	A	
13	<H17-普-13>黒毛和種県産種雄牛「菊福秀」の作出(現場後代検定法)	種山畜産	A	
14	<H17-普-14>肉質・歩留に優れた日本短角種種雄牛「大野 00013」の作出	家畜育種	A	
15	<H17-普-15>スーダングラス、スーダン型ソルガムの品種特性と栽培管理	家畜飼養・ 飼料	A	
16	<H17-普-16>品種 チモン早生品種「ホライズン」	家畜飼養・ 飼料	A	
17	<H17-普-17>品種 オーチャートグラス晩生品種「ハッカス」	家畜飼養・ 飼料	A	
18	<H17-普-18>平成 18 年度雑草防除基準に採用した飼料用トウモロコシ用除草剤	家畜飼養・ 飼料	A	
19	<H17-普-19>品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「KD417」	家畜飼養・ 飼料	B	種子生産中止
20	<H17-普-20>品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「おおぞら」	家畜飼養・ 飼料	A	
21	<H17-普-21>品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「TX201(ロイヤルデント 110)」	家畜飼養・ 飼料	A	
22	<H17-普-22>平成 18 年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫	A	



## (イ) 評価視点「成果が経済活動等で活用されているか」

No.	成果名【担当研究室】 【目標 → 現状】	普及 状況	効果	コメント	C、D 評価への 対応
1	<H17-普-02>平成 18 年度雑草防除基準に採用した 水稲除草剤【作物】 【目標 → 現状】-	A	A	岩手県農作物病害虫・雑草防 除指針に採用されており、現 地に普及している。	-
2	<H17-普-06>品種 西洋なし 食味良好な早生品種 「オーロラ」【園芸】 【目標 → 現状】 栽培面積 2ha → 1.5ha (H18)	A	A	現地に普及しており、現在も 有効な成果である。	-
3	<H17-普-07>品種 おうとう 豊産性で食味良好な品 種「紅秀峰」【園芸】 【目標 → 現状】 栽培面積 1ha → 2.5ha (H18)	A	A	現地に普及しており、現在も 有効な成果である。	-
4	<H17-普-08>平成 18 年度雑草防除基準に採用した 果樹除草剤【園芸】 【目標 → 現状】-	A	A	岩手県農作物病害虫・雑草防 除指針に採用されており、現 地に普及している。	-
5	<H17-普-09>品種 秋ぎく系小ぎく「CM21」(黄色 ス プレータイプ)【園芸】 【目標 → 現状】 栽培面積 10a → 10a 以上	A	A	新しいわて、いわて中央、岩手 ふるさと等のJAを中心に普及 しており、現在も有効な成果 である。	-
6	<H17-普-10>品種 秋ぎく系小ぎく「CM28」(赤紫色 スプレータイプ)【園芸】 【目標 → 現状】 栽培面積 10a → 10a 以上	A	A	新しいわて、いわて中央、岩手 ふるさと等のJAを中心に普及 しており、現在も有効な成果 である。	-
7	<H17-普-12>黒毛和種県産種雄牛「房平茂」(平福 国 1)「来待招福」の作出(間接法)【種山畜産】 【目標 → 現状】 凍結精液供給本数(初年度) 2,000 → 1,439	B	A	現地に普及しており、現在も 有効な成果である。	-
8	<H17-普-13>黒毛和種県産種雄牛「菊福秀」の作出 (現場後代検定法)【種山畜産】 【目標 → 現状】 凍結精液供給本数(初年度) 2,000 → 1,274	B	A	現在も有効な成果であり、現 地にも普及している。	-
9	<H17-普-14>肉質・歩留に優れた日本短角種種雄 牛「大野 00013」の作出【家畜育種】 【目標 → 現状】 (凍結精液 500 本) → 供用:肉牛生産公社、岩泉町	A	A	現地に普及しており、現在も 有効な成果である。	-
10	<H17-普-18>平成 18 年度雑草防除基準に採用した 飼料用トモロコシ用除草剤【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 -	A	A	岩手県農作物病害虫・雑草防 除指針に採用されており、現 地に普及している。	-
11	<H17-普-19>品種 乾物収量性に優れた飼料用トモ ロコシ極早生品種「KD417」【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 栽培面積 12ha → 0ha	D	B	種子生産が中止されている。 成果の目的を達成し、現在で は有効性がない成果。	本品種に替わる極 早生品種として2品 種の特性比較試験 を実施中。
12	<H17-普-22>平成 18 年度病害虫防除基準に採用した 主な殺虫剤、殺菌剤【病理昆虫】 【目標 → 現状】 -	A	A	岩手県農作物病害虫・雑草防 除指針に採用されており、現 地に普及している。	-

イ 中央農業改良普及センター(県域)による評価

(7) 評価視点「成果が経済活動等で活用されているか」

No.	成果名【担当研究室】 【目標 → 現状】	普及 状況	効果	評価・コメント	C,D 評価への対応
1	〈H17-普-01〉水稻品種「どんぴしゃり」の期待生育量と栽培法【作物】 【目標 → 現状】 栽培面積 3,000ha → 1,364ha	C	B	<p>広域的に品種変更を行った旧 JA 盛岡管内など導入が進んでいる地域で、当該成果が活用されているが、設定された目標面積には到達していない。さらに、技術内容は多収性品種の特性を十分に反映されたものとはなっておらず、各地で設置したモデル展示圃の中で、収益性を含めて導入の利点を明らかにする活動を行っている。</p> <p>これらのことは、本来、新品種のデビュー時点で既に明らかとされているべきものであり、今後、品種開発・生産技術と販売が一体的な戦略として整理されたものとして新品種がデビューできるよう、奨励品種決定までのプロセスの見直しが必要である。</p>	<p>戦略的な品種デビューを達成するため、21 年 8 月までに策定予定である次期いわてライスフロンティア計画(第2期岩手県水稻品種開発育成推進計画)において品種開発のあるべき方向性を関係機関と協議することとした。</p>
2	〈H17-普-03〉水稻湛水直播機の作業条件と導入基準【PJ 推進室(水田農業)】 【目標 → 現状】 導入面積 350ha → 210ha	B	C	<p>平成 22 年度目標値に対して導入面積は着実に増加しているが、生産者が抱える導入にあたっての課題は「収量安定化」が最も多く、当該成果の寄与率は元々大きくはないものと思われる。生産現場では低コストを意識して等倍量コーティングが主体であり、成果で示されている風乾の指標は2 倍量コーティングが前提活用が困難となってきた。</p> <p>一方、湛水直播機の導入基準に関しては、指導段階では十分参考となるものである。</p>	<p>直播技術は進歩しており、多目的田植機による湛水直播の普及が進んでいる。このような中で、当該成果内容も、見直しながら、常に新しい技術を現地に提供する必要があることから、現在の多収化・安定化のための技術開発や、具体的実証の中での経営的評価などを進めている。</p>
3	〈H17-普-04〉「青丸くん」の緑色を残した豆乳の製造条件【生産環境】 【目標 → 現状】 技術導入(社・団体)2 → 0	D	C	<p>開発された技術を県内加工業者2社が導入し商品化されたが、本技術導入に適した原料確保が難しく、現在は製造を中止している。本技術導入の前提となる緑色を残した状態での原料確保が課題である。</p> <p>なお、収穫適期については平成 15 年度の研究成果で明らかになっている。</p>	<p>今後の加工用途原材料の研究においては、食品加工メーカーと連携して、開発過程におけるメーカーの評価をできるだけ組み込む形にしたい。</p>
4	〈H17-普-05〉りんご園の早期成園化のためのポット養成苗による大苗移植栽培法(追補)-JM 系台木と不織布ポットの利用【園芸】 【目標 → 現状】 技術導入実績のある農業改良普及 (農改セ管内数): 4 → 8	A	B	<p>主要りんご産地で、JM系台木の優位性が理解され、大規模経営の生産者は、園地の改植時に本技術を導入している。しかし、事業を使った改植の場合に、大苗利用が要件として認められておらず、本技術導入に対して制度的な課題が残っている。</p> <p>本技術は、改植・規模拡大を図るのに有効であることから、各普及センターで技術展示を行うなど、現地での普及活動に取り組んでいる。</p>	—

No.	成果名【担当研究室】 【目標 → 現状】	普及 状況	効果	評価・コメント	C,D 評価への対応
5	〈H17-普-11〉発育効果および生涯生産性を高める乳用育成牛の集約放牧のシミュレーションソフト【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 指導機関での活用事例(農改セ数) 4 → 1	C	B	成果が出された後に、電気牧柵を活用した小規模移動放牧技術が普及されたことにより、活用の場面は少なくなったものの、放牧の考え方については、十分参考となる成果であった。	本シミュレーションは乳用牛放牧育成を実施するうえでの基本的事項である。今後の休耕田等による集約放牧が普及することによって活用が期待される。
6	〈H17-普-15〉スーダングラス、スーダン型ソルガムの品種特性と栽培管理【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 ロールバールスーダン栽培面積 3.0ha → 3.0ha クアソルガム2号栽培面積 2.0ha → 2.2ha	A	A	飼料高騰のおり、自給飼料の重要性が再認識され、単収が高く牧草体系の飼料作物利用の選択肢が広がり、有意義である。	—
7	〈H17-普-16〉品種 チモン 早生品種「ホライズン」【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 栽培面積 45ha → 36.8ha	A	A	同じ草種であっても早晩生の違う品種を組み合わせることで適期刈り取りを行うために重要な品種である。	—
8	〈H17-普-17〉品種 オーチャードグラス晩生品種「ハッカス」【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 栽培面積 22ha → 不明	D	B	採種の状況等により種子流通量が極めて少なく、今後の面積拡大を期待したい。	種子メーカーが種子増殖事故により流通量が確保されなかった。今後は増殖が確保され普及が期待される。
9	〈H17-普-20〉品種 乾物収量性に優れた飼料用トモロコシ極早生品種「おおぞら」【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 栽培面積 12ha → 2ha	D	B	当該品種はRM95という極早生品種であり、作付けメリットが得られる地域は、高標高地等限られるため、面積的には少ないが、そういう地点における作付けでの選択肢を広げる意味でも重要な品種である。	今後の高標高地の栽培が面積の拡大されることによって普及が期待される。
10	〈H17-普-21〉品種 乾物収量性に優れた飼料用トモロコシ早生品種「TX201(ロイヤルデント 110)」【家畜飼養・飼料】 【目標 → 現状】 栽培面積 56ha → 41.5ha	B	A	早晩生の違う品種を組み合わせることで適期刈り取りを行うために重要な品種である。	—

### 3 東北農業試験研究成果

#### <研究成果情報>

##### (1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	3	5	2	2	2	0	14

##### (2) 研究成果名

推進部会名	部会 No.	成 果 名	分 類	主査研究室
作物 (稲栽培)	3	飼料用米など非主食用向け水稻多収新品種「岩南 29 号」の育成	技術・参考	技術部・作物
	4	飼料用米など非主食用向け水稻多収新品種「岩手 85 号」の育成	技術・参考	技術部・作物
	13	水稻湛水直播における作溝装置の開発	技術・参考	プロジェクト推進室 (水田農業)
基盤技術 (土壌肥料) (作業技術) (病害) (作業技術) (経営)	1	肥効調節型肥料を利用したリンドウ株養成期間の低コスト施肥法	技術・普及	生産環境
	4	水稻湛水直播機のフロートに装着できる作溝装置	技術・普及	プロジェクト推進室 (水田農業)
	19	等温遺伝子増幅法(ICAN 法)を用いたキクわい化病の簡便な検定法	技術・参考	病理昆虫
	28	直進播種同時除草と固定タイン式除草によるアワの機械除草技術	技術・参考	農業経営
	40	基盤整備直後にイブキジャコウソウを栽植被覆する法面管理の経営評価	行政・参考	農業経営
畜産	1	岩手県の黒毛和種在胎日数の現状と育種価および適合率	行政・参考	種山畜産
	2	黒毛和種における子宮頸管粘液 pH による過剰排卵処理後の卵巢反応の推定	技術・普及	家畜育種
果樹	3	9 月下旬に成熟する着色容易なリンゴ新品種「岩手7号」	技術・普及	技術部・園芸
	13	リンゴわい化栽培におけるドリフト低減ノズルの利用条件	技術・参考	技術部・園芸
野菜花き(野菜) (花き)	1	四季成り性イチゴ「エッチェス-138」と「サマールビー」の摘果・摘花房処理の効果	技術・参考	南部園芸
	11	リンドウ種子の調製・貯蔵方法	技術・参考	技術部・園芸

## IV 試験研究成果の発表



# 1 試験成績書等刊行物

資料番号等	表題名	発行年月	ページ数
<b>プロジェクト推進室</b>			
プロ推 20 No. 1	プロジェクト推進室（水田農業）試験成績書	21. 03	80
プロ推 20 No. 2	水稻ロングマット水耕育苗苗・移植マニュアル（岩手	21. 03	27
プロ推 20 No. 3	プロジェクト推進室（特裁・有機）試験成績書	21. 03	50
岩手県（プロジェクト推進室 農産園芸課 等） 岩手県水田農業改革推進協議会 岩手県大豆作共励会運営事務局	大豆の小畦立て播種栽培技術マニュアル	20. 05	46
岩手県（プロジェクト推進室 農業改良普及センター 農産園芸課 等）	岩手県水稻直播栽培指針	21. 03	51
<b>企画管理部</b>			
経営 20 No. 1	集落営農組織の現状と展開方向	20. 04	203
経営 20 No. 2	きゅうり経営分析シート	20. 04	25
経営 20 No. 3	本県産ほうれんそうの競争ポジショニングと振興方向	20. 05	31
経営 20 No. 4	園芸農家経営分析シート利用マニュアル	20. 05	25
経営 20 No. 5	集落営農組織における経営管理の展開方向	20. 12	39
経営 20 No. 6	平成20年度試験研究成績書（農業経営チーム分）	21. 03	138
<b>技術部</b>			
技術 20 No. 1	水稻新配布系統成績書（作物研究室）	20. 05	23
園畑 19 No. 1	平成19年度 果樹試験成績書（果樹研究室）	20. 08	176
園畑 19 No. 4	平成19年度 花き試験成績書（花き研究室）	21. 03	52
園芸 19 No. 5	平成19年度 試験成績書（南部園芸研究室）	21. 03	66
<b>環境部</b>			
環境 20 No. 1	平成19年度 試験研究成績書（環境保全研究室）	21. 03	104
環境 20 No. 2	平成19年度 試験研究成績書（土壌作物栄養研究室）	21. 03	112
環境 20 No. 3	平成19年度 試験研究成績書（保鮮流通技術研究室）	21. 03	120
<b>病虫害防除部</b>			
	平成19年度 植物事業年報	20. 05	169
<b>畜産研究所</b>			
畜産 20 No. 1	平成20年度試験成績書（畜産研究所）	21. 03	90
<b>県北農業研究所</b>			
県北 20 No. 3	平成19年度 やませ利用研究室試験研究成績書	21. 03	120

## 2 研究レポート（平成20年度発行分）

No	タイトル	担当研究室
413	水稲湛水直播栽培の出穂期予測と収穫適期中の拡大	プロジェクト推進室(水田農業)
414	ホールクロップサイレージ用稲栽培でノビエが混入した際の刈取時期がわかります！	技術部 作物研究室
415	新形質米新品種「岩手紫76号」「岩手酒79号」「岩手80号」「岩手香84号」「岩手巨胚87号」	技術部 作物研究室
416	防除体系等の変化に伴うもち病防除剤の水系負荷変動	環境部 生産環境研究室
417	倒伏に強く褐斑粒の発生が少ない納豆用大豆「すずほのか」	技術部 作物研究室
418	最大で30%の増収！所得向上に貢献できる大豆小畦立て播種栽培	技術部 作物研究室
419	大豆生育期の広葉雑草に対する除草剤利用のポイント	技術部 作物研究室
420	白いんげんの安定栽培法	技術部 作物研究室
421	養成年数に応じた促成アスパラガスの最適堀取り時期	技術部 園芸研究室
422	小麦赤かび病の防除適期	環境部 病理昆虫研究室
423	早期培土を基本とした機械除草体系はキビにも適用できる	県北農業研究所 作物研究室
424	生物農薬を用いたアワノメイガ防除	県北農業研究所 作物研究室
425	発酵鶏ふんを利用して畑雑穀の無化学肥料栽培ができます	県北農業研究所 作物研究室
426	りんご 9月下旬に成熟する着色良好な赤色品種「岩手7号」	技術部 園芸研究室
427	りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断	技術部 園芸研究室
428	JM7台利用りんご樹の衰弱症状における樹勢回復法	技術部 園芸研究室
429	授粉専用品種の「ふじ」への高接ぎによる結実向上効果	技術部 園芸研究室
430	イチゴ「北の輝」秋春二期どり作型で採苗効率を向上させる2回採苗法	技術部 園芸研究室
431	着果調整による雨よけトマトの秋期増収効果と盛夏期収穫作業の軽減	技術部 南部園芸研究室
432	夜冷短日育苗によるいちご促成前進作型の年内収量向上技術	技術部 南部園芸研究室
433	ピーマン・トマトの化学肥料チッソを削減する施肥法	環境部 生産環境研究室
434	畑わさびにおけるナトビハムシの生態と薬剤防除	環境部 病理昆虫研究室
435	ビニール被覆処理によるほうれんそうのケナガコナダニ類の被害軽減	県北農業研究所 園芸研究室
436	レタス腐敗性病害の耕種的防除法	県北農業研究所 園芸研究室
437	グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理	企画管理部 農業経営研究室
438	露地栽培で新盆出荷が可能なりんどう「極々早生6」	技術部 園芸研究室
439	ビブルナムオプラス「スノーボール」の切り枝促成技術	技術部 園芸研究室
440	固化培地育苗または直まきによるスターチスの高品質・多収生産技術	技術部 南部園芸研究室
441	乳頭数不足主要原因遺伝子のDNAマーカー診断の精度とその産肉能力への影響について	畜産研究所 家畜育種研究室
442	黄熟後期・破砕トウモロコシサイレージの泌乳牛への多給技術	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室
443	そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効	畜産研究所 家畜育種研究室
444	南部かしわ(K系)の配合飼料給与時の発育モデル	畜産研究所 家畜育種研究室
445	南部かしわ(K系)に対するソバクズ+オカラサイレージの給与法	畜産研究所 家畜育種研究室
446	「三陸地鶏」の発育及び産肉成績	畜産研究所 家畜育種研究室
447	過剰排卵処理方法の改善による正常胚数とAランク胚数の向上	畜産研究所 種山畜産研究室
448	飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室
449	自給飼料主体発酵TMRの季節別の開封利用時期	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室
450	里地里山の生き物データベースシステム(公開版)	プロジェクト推進室(特栽・有機)
451	里地・里山の生き物紹介	プロジェクト推進室(特栽・有機)
452	示差屈折計を用いた寒締めほうれんそうの糖度測定	環境部 生産環境研究室
453	平成20年度に指定した飼料用トウモロコシ優良品種	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室
454	集落営農組織の経営多角化・高度化に向けた解説書「集落営農組織の現状と展開方向」	企画管理部 農業経営研究室
455	イブキジャコウソウ栽培マニュアル	企画管理部 農業経営研究室
456	品種 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすい半もち・短稈の早・中・晩生ヒエ「ヒエ岩手1～3号」	県北農業研究所 作物研究室



### 3 岩手県農業研究センター研究報告

第9号（平成21年3月発行）

※下線は筆頭著者

区分	表題名	著者氏名	所属
報文	非アロフェン質黒ボク土における有機物連用効果	<u>葉上 恒寿</u>	旧土壌作物栄養研究室 (現生産環境研究室)
		高橋 良学	旧土壌作物栄養研究室 (現農林水産省)
		佐藤 喬	旧土壌作物栄養研究室 (現中央農業改良普及センター)
		中野 亜弓	旧土壌作物栄養研究室 (現生産環境研究室)
		佐藤 千秋	旧土壌作物栄養研究室 (現大船渡農業改良普及センター)
		小田島 ルミ子	旧土壌作物栄養研究室 (現一関農業改良普及センター)
		新毛 晴夫	旧土壌作物栄養研究室 (現社団法人 岩手県農業公社)
		小野 剛志	旧土壌作物栄養研究室 (現岩手県立農業大学校)
		多田 勝郎	旧土壌作物栄養研究室 (現プロジェクト推進室)
要報	水稻湛水直播栽培の播種期の違いによる収量・品質関連形質の特徴	<u>且影 勝幸</u>	旧水田作研究室 (現プロジェクト推進室)
		小田中 温美	旧水田作研究室 (現岩手県立農業大学校)
	南部かしわ（K系）におけるオカラ+ソバクズサイレージの肥育飼料としての給与法	<u>佐藤 直人</u>	家畜育種研究室
		吉田 登	家畜育種研究室 (現岩手県農林水産部畜産課)
		吉田 力	家畜育種研究室
	ソバクズとオカラを混合したサイレージ給与が肥育豚の発育、肉質等に及ぼす影響	<u>佐々木 直</u>	家畜育種研究室
		吉田 力	家畜育種研究室
	北上市在来サトイモ‘二子いも’組織培養苗に関する研究 第I報 地上部生育の経時的推移	<u>阿部 弘</u>	旧応用生物工学研究室 (現研究企画室)
阿部 潤		旧応用生物工学研究室 (現岩手県南広域振興局花巻総合支局)	

区分	表 題 名	著者氏名	所 属
	北上市在来サトイモ‘二子いも’組織培養苗に関する研究 第Ⅱ報 培土方法が生育および収量に与える影響	阿部 弘  阿部 潤	旧応用生物学研究室 (現研究企画室)  旧応用生物学研究室 (現岩手県南広域振興局花巻総合支局)
	北上市在来サトイモ‘二子いも’組織培養苗に関する研究 第Ⅲ報 培養苗を用いた深植え用苗の試作とその栽培特性評価	阿部 弘  阿部 潤	旧応用生物学研究室 (現研究企画室)  旧応用生物学研究室 (現岩手県南広域振興局花巻総合支局)
資料	北上市在来サトイモ‘二子いも’のルーツに関する仮説	阿部 弘	旧応用生物学研究室 (現研究企画室)

## 4 学会等研究報告

※学会・研究会等の名称は、二本下線で示し、50音順に掲載した。

※平成20年4月に大幅な組織改編があったため、研究室名はその前後を併記した。

※当該研究室(部・研究所)の研究者は、一本下線で示した。

※他機関の共同研究者は、アスタリスク(\*)で所属を示した。

### (1) 学会論文(専門家の査読を受け、採択された論文)

北日本病害虫研究会(北日本病害虫研究会報. 59: 2008.12 発行)

応用生物工学研究室(農産部) → (廃止)

○千葉 賢一・小野田 和夫・阿部 潤・岩館 康哉・竹澤 利和(2008). 接ぎ木によるリンドウ「こぶ症」の伝染性の確認.

北日本病虫研報. 59: 74-76.

果樹研究室(園芸畑作部) → 園芸研究室(技術部)

○小野 浩司・田村 博明・鈴木 敏男・猫塚 修一(2008). スピードスプレーヤ(SS)防除における散布条件が病害虫防除効果に及ぼす影響.

北日本病虫研報. 59: 210-216.

花き研究室(園芸畑作部) → 園芸研究室(技術部)

前出○千葉 賢一・小野田 和夫・阿部 潤・岩館 康哉・竹澤 利和(2008). 接ぎ木によるリンドウ「こぶ症」の伝染性の確認.

北日本病虫研報. 59: 74-76.

病理昆虫研究室(病害虫部) → 病理昆虫研究室(環境部)

○飯村 茂之・岩館 康哉(2008). 岩手県におけるチオフアネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生状況.

北日本病虫研報. 59: 30-32.

○猫塚 修一・岩館 康哉(2008). リンゴすず斑病菌の果実感染量を低減させる殺菌剤の選抜と効果的な散布時期の検討.

北日本病虫研報. 59: 103-108.

○横田 啓・鈴木 敏男(2008). 水田畦畔におけるアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な草刈時期.

北日本病虫研報. 59: 116-119.

前出○小野 浩司・田村 博明・鈴木 敏男・猫塚 修一(2008). スピードスプレーヤ(SS)防除における散布条件が病害虫防除効果に及ぼす影響.

北日本病虫研報. 59: 210-216.

前出○千葉 賢一・小野田 和夫・阿部 潤・岩館 康哉・竹澤 利和(2008). 接ぎ木によるリンドウ「こぶ症」の伝染性の確認.

北日本病虫研報. 59: 74-76.

病害虫防除課(病害虫部) → 病害虫防除課(病害虫防除部)

前出○飯村 茂之・岩館 康哉(2008). 岩手県におけるチオフアネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生状況.

北日本病虫研報. 59: 30-32.

雑穀研究会(雑穀研究. 24: 2009.3 発行)

作物研究室(東北農業研究所)

○仲條 真介・長谷川 聡<sup>\*1</sup>・吉田 宏・漆原 昌二・阿部 陽・阿部 知子<sup>\*2</sup>・福西 暢尚<sup>\*2</sup>・龍頭 啓充<sup>\*2,3</sup>・大清水 保見. 低アミロース短稈ヒエ新品種「ヒエ岩手1号」、「ヒエ岩手2号」、「ヒエ岩手3号」の育成.

雑穀研究. 24: 1-8.

\*1 県中央農改普セ \*2 理研仁科センター \*3 京大 光・電子理工学教育研究センター

作物研究室(技術部)

前出○仲條 真介・長谷川 聡<sup>\*1</sup>・吉田 宏・漆原 昌二・阿部 陽・阿部 知子<sup>\*2</sup>・福西 暢尚<sup>\*2</sup>・龍頭 啓充<sup>\*2,3</sup>・大清水 保見. 低アミロース短稈ヒエ新品種「ヒエ岩手1号」、「ヒエ岩手2号」、「ヒエ岩手3号」の育成.

雑穀研究. 24: 1-8.

\*1 県中央農改普セ \*2 理研仁科センター \*3 京大 光・電子理工学教育研究センター

園芸研究室(技術部)

前出○仲條 真介・長谷川 聡<sup>\*1</sup>・吉田 宏・漆原 昌二・阿部 陽・阿部 知子<sup>\*2</sup>・福西 暢尚<sup>\*2</sup>・龍頭 啓充<sup>\*2,3</sup>・大清水 保見. 低アミロース短稈ヒエ新品種「ヒエ岩手1号」、「ヒエ岩手2号」、「ヒエ岩手3号」の育成.

雑穀研究. 24: 1-8.

\*1 県中央農改普セ \*2 理研仁科センター \*3 京大 光・電子理工学教育研究センター

東北農業経済学会(東北農業経済研究. 26(1): 2008.9 発行)

農業経営研究室(企画経営情報部) → 農業経営研究室(企画管理部)

○前山 薫(2008). 岩手県における集落営農の現状と課題—一品目横断的経営安定対策加入組織を対象として—.

東北農業経済研究. 26(1): 10-20.

日本獣医師会 (日本獣医師会雑誌. 61(9): 2008.9 発行)

家畜工学研究室 (畜産研究所) → 家畜育種研究室 (畜産研究所)

- 細川 泰子・福成 和博・吉川 恵郷・佐藤 洋一・菊池 雄(2008). 過剰排卵処理を施した黒毛和種牛における採胎成績と給与飼料およびBUN/血糖値比の関係.  
日本獣医師会雑誌. 61(9): 699-704.

農業機械学会東北支部 (農業機械学会東北支部報. 55: 2008.12 発行)

生産工学研究室 (農産部) → 農業経営研究室 (企画管理部)

- 須藤 勇人(2008). 基盤整備事業計画地区における10a区画稲作労働時間積算シートの開発.  
農業機械学会東北支部報. 55: 53-60
- 藤原 敏(2008). 固定タイン改良とスコープによるアワ栽培の除草適応性.  
農業機械学会東北支部報. 55: 23-26

British Society for Plant Pathology (Plant Pathology 57(5): 2008.10 発行)

病理昆虫研究室 (病害虫部) → 病理昆虫研究室 (環境部)

- 坂本 勝\*・富田 麗子\*・浜田 博幸\*・岩館 康哉・宗村 郁子\*・小林 括平\*(2008). A primer-introduced restriction analysis-PCR-based method to analyse Pepper mild mottle virus populations in plants and field soil with respect to virus mutations that break L3 gene-mediated resistance of Capsicum plants.  
Plant Pathology 57(5): 825-833.
- \* 岩手生工研セ

World Congress of the International Association of Agricultural Information Specialists, Conference of the Asian Federation of Information Technology in Agriculture, World Congress on Computers in Agriculture

農業経営研究室 (企画経営情報部) → 農業経営研究室 (企画管理部)

- Kaoru Maeyama et.al.(2008). Development and User Evaluations of Farm Planning Support System FAPS-DB Using Agro-technology Systems Database. (2008.8 発行)  
Agricultural Information and IT Proceedings of IAALD AFITA WCCA 2008: 1107-1113.

## (2) 口頭発表・発表要旨

園芸学会 (平成20年度秋季大会: 2008.9.27~28 開催・三重大学 園芸学研究. 7(別2): 2008.9 発行)

野菜畑作研究室 (園芸畑作部) → 園芸研究室 (技術部)

- 山口 貴之・及川 一也(2008). 品種の違いがアスパラガス伏せ込み栽培の萌芽に与える影響  
園学研. 7(別2): 205.

園芸学会 (平成21年度春季大会: 2009.3.19~20 開催・明治大学 園芸学研究. 8(別1): 2009.3 発行)

(口頭発表)

園芸研究室 (技術部)

- 山口 貴之(2009). キュウリホモプシス根腐病による被害を抑える整枝法の開発.  
園学研. 8(別1): 163.

(ポスター発表)

南部園芸研究室 (技術部)

- 藤尾 拓也・佐藤 弘・青木 和彦<sup>\*1</sup>(2009). トマトの根域冷却による処理時間帯の違いが果実糖度に及ぼす影響.  
園学研. 8(別1): 396
- \*1 農研機構東北農研
- 佐藤 弘・藤尾 拓也(2009). 春夏期の短日処理がイチゴ‘さがほのか’のえき花房発生に及ぼす影響.  
園学研. 8(別1): 375

園芸学会東北支部 (平成20年度研究発表会: 2008.8.21 開催・盛岡市 園芸学会研究発表要旨. 平20 東北支部: 2008.8 発行)

果樹研究室 (園芸畑作部) → 園芸研究室 (技術部)

- 大野 浩・小野 浩司・田村 博明(2008). ぶどう育成系統「岩手2号」および「岩手3号」の特性.  
園学要旨. 平20 東北: 45-46.

南部園芸研究室 (園芸畑作部) → 南部園芸研究室 (技術部)

- 佐藤 弘・志田 たつ子(2008). パンジーにおける杉樹皮を用いた培地の利用技術.  
園学要旨. 平20 東北: 63-64.

産地育成研究室 (県北農業研究所) → 園芸研究室 (県北農業研究所)

- 田代 勇樹(2008). 圃場環境改善によるレタスすそ枯病, 軟腐病および腐敗病への影響.  
園学要旨. 平20 東北: 37-38.

北日本病害虫研究会 (2009. 2. 17~18 開催・札幌市 北日本病害虫研究会報. 60: 印刷中)

(口頭発表)

#### 病理昆虫研究室 (環境部)

- 横田 啓・寺田 道一\*1・千葉 克彦\*2・鈴木 敏男(2009). アカスジカスミカメに対する一斉防除の有効性.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.  
\*1 県農産園芸課 \*2 県奥州農改普セ
- 佐々木 直子(2009). 籾殻から水稻苗への孢子飛散による MBI-D 剤耐性いもち病菌の伝染経路の検討.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.

#### 病害虫防除課 (病害虫防除部)

- 菅 広和・小川 真理子(2009). 岩手県における斑点米カメムシ類および斑点米の発生量の関係と防除の方向性.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.

(ポスター発表)

#### 園芸研究室 (技術部)

- 山口 貴之・岩館 康哉(2009). ウリ科植物のキュウリホモプシス根腐病に対する台木特性.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.

#### 病理昆虫研究室 (環境部)

- 鈴木 敏男・吉田 樹史(2009). 地温を用いた有効温量からアワノメイガ越冬世代の羽化時期が予測できる.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 前出○山口 貴之・岩館 康哉(2009). ウリ科植物のキュウリホモプシス根腐病に対する台木特性.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 阿部 信治・横田 啓(2009). 大豆加害害虫ウコンノメイガの発生地域と防除要否の判断時期.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 羽田 厚・藤沢 巧・佐藤 由美子・藤田 章宏・熊谷 拓哉(2009). 岩手県の近年のナミハダニ発生動向と薬剤抵抗性の発達.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 佐藤 美和子・羽田 厚(2009). 岩手県におけるハモグリバエ類の新規発生について.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 阿部 亜希子・齊藤 智子\*1・赤坂 安盛・熊谷 拓哉・猫塚 修一(2009). 岩手県におけるネギ小菌核病の感染・発生時期について.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.  
\*1 県八幡平農改普セ
- 岩館 康哉・吉田 樹史・庄司 新一郎\*1・高橋 達治\*1 (2009). クロルピクリン錠剤の減量施用によるハウレンソウ萎凋病防除法の検討.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.  
\*1 南海化学(株)
- 猫塚 修一(2009). リンゴすす班病に対する各種薬剤の果面保護効果の持続性.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 羽田 厚・藤沢 巧・佐藤 由美子・藤田 章宏・熊谷 拓哉 (2009). 岩手県の近年のナミハダニ発生状況と薬剤抵抗性の発達.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.

#### 病害虫防除課 (病害虫防除部)

- 前出○羽田 厚・藤沢 巧・佐藤 由美子・藤田 章宏・熊谷 拓哉 (2009). 岩手県の近年のナミハダニ発生動向と薬剤抵抗性の発達.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 前出○佐藤 美和子・羽田 厚(2009). 岩手県におけるハモグリバエ類の新規発生について.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 前出○阿部 亜希子・齊藤 智子\*1・赤坂 安盛・熊谷 拓哉・猫塚 修一(2009). 岩手県におけるネギ小菌核病の感染・発生時期について.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.  
\*1 県八幡平農改普セ

#### 作物研究室 (県北農業研究所)

- 前出○鈴木 敏男・吉田 樹史(2009). 地温を用いた有効温量からアワノメイガ越冬世代の羽化時期が予測できる.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.
- 前出○岩館 康哉・吉田 樹史・庄司 新一郎\*1・高橋 達治\*1 (2009). クロルピクリン錠剤の減量施用によるハウレンソウ萎凋病防除法の検討.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.  
\*1 南海化学(株)

#### 園芸研究室 (県北農業研究所)

- 前出○羽田 厚・藤沢 巧・佐藤 由美子・藤田 章宏・熊谷 拓哉 (2009). 岩手県の近年のナミハダニ発生動向と薬剤抵抗性の発達.  
北日本病虫研報. 60: 印刷中.

国際動物遺伝学会 (第31回大会: 2008. 7. 20~24 開催)

家畜工学研究室 (畜産研究所) → 家畜育種研究室 (畜産研究所)

- TOSHIO WATANABE, YOUICHI SATO etc(2008). QTL mapping of Japanese Black cattle using a family structure combining seven paternal half-sib families.
- TAKASHI HIRANO, YOUICHI SATO etc(2008). Fine-mapping of ATPP in Japanese Black cattle and search for candidate genes with microarray.

自給飼料利用研究会・エコフィード全国シンポジウム (2008. 12. 8~9 開催・つくば市 講演要旨: 2008. 12 発行)

飼料生産研究室 (畜産研究所) → 家畜飼養・飼料研究室 (畜産研究所)

- 平久保 友美 (2008). 発酵TMRの調整 —発酵品質—  
平成20年度自給飼料利用研究会・エコフィード全国シンポジウム講演要旨: 125-131.

家畜飼養研究室 (畜産研究所) → 家畜飼養・飼料研究室 (畜産研究所)

- 越川 志津 (2008). 発酵TMRの調整 —泌乳牛への給与—  
平成20年度自給飼料利用研究会・エコフィード全国シンポジウム講演要旨: 132-134.

東北農業経済学会 (大会: 2008. 9. 6 開催・新潟市 大会報告要旨: 2008. 9 発行)

農業経営研究室 (企画経営情報部) → 農業経営研究室 (企画管理部)

- 阿部 直行 (2008). りんご特別栽培導入産地の実態と課題~岩手県内の旧I農協を対象として~.  
第44回東北農業経済学会大会報告要旨: 33.

日本育種学会 (第114回講演会—2008 秋季: 2008. 10. 11~12 開催・滋賀県立大学 育種学研究. 10(別2): 2008. 10 発行)

水稻育種研究室 (農産部) → 作物研究室 (技術部)

- 藤部 貴宏\*・阿部 陽・松村 英生\*・寺内 良平\* (2008). イネの低温発芽性に関する因子の探索.  
育種学研究. 10(別2): 182.  
\* 岩手生工研セ

日本育種学会 (第115回講演会—2009 春季: 2009. 3. 27~28 開催・つくば国際会議場 育種学研究. 11(別1): 2009. 3 発行)

作物研究室 (技術部)

- 阿部 陽・高草木 雅人・松村 英生\*1・木内 豊\*2・寺内 良平\*1 (2009). 日印交雑系統を用いたイネいもち病抵抗性に関するQTL解析.  
育種学研究. 11(別1): 143.  
\*1 (財)岩手生工研セ \*2 県農業振興課
- 松村 英生\*・阿部 陽・吉田 健太郎\*1・藤部 貴宏\*1・木内 豊\*2・寺内 良平\*1 (2009). イネゲノム育種への次世代シーケンシング技術の活用.  
育種学研究. 11(別1): 142.  
\*1 (財)岩手生工研セ \*2 県農業振興課

作物研究室 (県北農業研究所)

- 仲條 眞介・吉田 宏・大清水 保見 (2009). 半矮性・低アミロースヒエ新品種の地域適応性.  
育種学研究. 11(別1): 213

日本応用動物昆虫学会 (2009. 3. 28~30 開催・札幌市 講演要旨)

(口頭発表)

病理昆虫研究室 (環境部)

- 横田 啓・阿部 信治・望月 文昭\*1 (2009). 岩手県におけるウコンノメイガの発生消長.  
第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨: 78  
\*1 信越化学工業(株)
- 羽田 厚・鈴木 敏男 (2009). 寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農業と関連した生物多様性の指標生物の選抜.  
第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨: 130

病害虫防除課 (病害虫防除部)

- 前出○横田 啓・阿部 信治・望月 文昭\*1 (2009). 岩手県におけるウコンノメイガの発生消長.  
第53回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨: 78  
\*1 信越化学工業(株)

日本オペレーションリサーチ学会 (「食料・農業・環境とOR」研究部会: 2008. 12. 5 開催・盛岡市 オペレーションズ・リサーチ: 印刷中)

農業経営研究室 (企画経営情報部) → 農業経営研究室 (企画管理部)

- 前山 薫 (2008). 営農現場における経営・作業管理の現状と経営支援システムの開発方向.  
オペレーションズ・リサーチ: 印刷中.

日本作物学会(第227回講演会—2009 春季:2009.3.27~28 開催・つくば市 日本作物学会紀事.)

**作物研究室(県北農業研究所)**

- 荻内 謙吾(2009). キビの登熟特性と脱粒性.  
日作紀. 78(別1): 44-45.

日本作物学会東北支部(第51回講演会:2008.8.21 開催・弘前市 日本作物学会東北支部会報. 51:2008.12 発行)

**野菜畑作研究室(園芸畑作部) → 作物研究室(技術部)**

- 小綿 寿志・小館 琢磨(2008). 剪葉処理がハトムギの生育・品質に及ぼす影響.  
日作東北支部報. 51:59-60.

**作物研究室(県北農業研究所)**

- 仲條眞介・吉田宏・大清水保見(2008). アワ極早生変異系統の異なる日長条件における出穂反応  
日作東北支部報. 51:57-58.

日本植物病理学会大会(2008.4.25~28 開催・松江市 日本植物病理学会報. 74(3):2008.8 発行)

**病理昆虫研究室(病害虫部) → 病理昆虫研究室(環境部)**

- 岩館 康哉・永坂 厚\*・山田 修・猫塚 修一(2008). マルチフィルムによる簡易な根域制限とクロルピクリンくん蒸剤の併用によるキュウリホモプシス根腐病の防除.  
日植病報. 74(3):190.  
\* 東北農研セ
- 佐々木 直子・猫塚 修一(2008). MBI-D 耐性イネいもち病菌の種子伝染による発生拡大.  
日植病報. 74(3):209.
- 猫塚 修一・藤沢 巧・鈴木 敏男(2008). トルコギキョウえそ斑紋病多発農家の育苗ハウスおよび定植圃場内に発生するミカンキイロアザミウマのインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)保毒状況.  
日植病報. 74(3):215.

日本植物病理学会大会(2009.3.26~28 開催・山形市 日本植物病理学会報. 75:印刷中)

**園芸研究室(環境部)**

- 岩館 康哉・山口 貴之・山田 修\*1・猫塚 修一(2009). キュウリホモプシス根腐病防除を対象としたクロルピクリンくん蒸剤のマルチ畦内処理効果の評価.  
日植病報. 75:印刷中.

\*1 県農産園芸課

**病理昆虫研究室(環境部)**

- 前出○岩館 康哉・山口 貴之・山田 修\*1・猫塚 修一(2009). キュウリホモプシス根腐病防除を対象としたクロルピクリンくん蒸剤のマルチ畦内処理効果の評価.  
日植病報. 75:印刷中.

\*1 県農産園芸課

- 佐々木 直子・猫塚 修一(2009). MBI-D 耐性イネいもち病菌の種子保菌割合が葉いもちの初発生時期に及ぼす影響.  
日植病報. 75:印刷中.

日本植物病理学会東北部会(2008.9.25~26 開催・盛岡市 日本植物病理学会報. 75(1):2009.2 発行)

**応用生物工学研究室(農産部) → (廃止)**

- 岩館 康哉・臼井 紀子・猫塚 修一. LAMP 法によるホモプシス根腐病菌の検出.  
日植病報. 75(1):61-62.

**病理昆虫研究室(病害虫部) → 病理昆虫研究室(環境部)**

- 猫塚 修一・田中 和明\*・佐野 輝男\*. リンドウ褐斑病の第一次伝染源.  
日植病報. 75(1):62-63.

\* 弘前大農生

- 前出○岩館 康哉・臼井 紀子・猫塚 修一. LAMP 法によるホモプシス根腐病菌の検出.  
日植病報. 75(1):61-62.

- 佐々木 直子・岩館 康哉・猫塚 修一. MBI-D 耐性いもち病菌感染苗の移植による葉いもち早期発生.  
日植病報. 75(1):61.

日本草地学会(大会:2009.3.28~30・藤沢市)

**家畜飼養・飼料研究室(畜産研究所)**

- 平久保 友美・堀間 久己・尾張 利行・菊池 雄・魚住 順\*1(2008). 飼料用トウモロコシ5年連続不耕起栽培における収量性.

平成20年度日本草地学会講演要旨:講演番号216.

\*1 農研機構東北農研

日本畜産学会 (第110回大会: 2009. 3. 27~29 開催 講演要旨: 2009. 3 発行)

家畜育種研究室 (畜産研究所)

- 安田 潤平・魚住 順\*1・吉田 力(2009). ライコムギサイレージとトウモロコシサイレージを主体とした日本短角種牛肉生産.  
第110回日本畜産学会大会講演要旨: 23  
\*1 農研機構東北農研
- 佐々木 啓介\*1・本山 三知代\*1・安田 潤平・山本 禎\*2・成田 卓美\*1・大江 美香\*1・今成 麻衣\*3・藤村 忍\*4 (2009).  
牛筋肉3部位における食感表現とその加熱変化の違い.  
第110回日本畜産学会大会講演要旨: 130  
\*1 畜草研 \*2 神奈川畜技セ \*3 農研機構東北農研 \*4 新潟大農

日本動物遺伝育種学会 (第9回大会: 2008. 11. 29 開催)

家畜工学研究室 (畜産研究所) → 家畜育種研究室 (畜産研究所)

- 渡辺 敏夫\*・佐藤 洋一等(2008). 同一種雄牛を始祖とする複数半きょうだい家系のQTL解析.  
日本動物遺伝育種学会第9回大会講演要旨: ??-?? or 印刷中.  
\* 畜産技術協会動物遺伝研究所等
- 平野 貴\*・佐藤 洋一等(2008). マウスを用いた黒毛和種乳頭欠損症候補遺伝子の探索.  
日本動物遺伝育種学会第9回大会講演要旨: ??-?? or 印刷中.  
\* 畜産技術協会動物遺伝研究所

日本土壌肥料学会 (2008年度愛知大会: 2008. 9. 9~11 開催・名古屋市立大学 日本土壌肥料学会. 54: 2008. 9 発行)

プロジェクト推進室

- 高橋良学\*1・大友 英嗣・多田 勝郎・長谷川 辰雄\*2・大和田 功\*3(2008). フラットベッドスキャナを利用した簡易土壌診断システムの開発.  
土肥要旨集. 54: 34.  
\*1 農林水産省(元岩手農研セ) \*2 (地独)岩手工技セ \*3 (有)イグノス

土壌作物栄養研究室 (生産環境部) → 生産環境研究室 (環境部)

- 葉上 恒寿・高橋 好範・佐々木 洋一・多田 勝郎(2008). リンドウ株養成時の省力的な施肥法の開発.  
第2報 肥効調節型肥料を用いた定植2年目(株養成期間)の生育.  
土肥要旨集. 54: 148. (2008. 9発行)
- 高橋良学\*1・大友 英嗣・多田 勝郎・長谷川 辰雄\*2・大和田 功\*3(2008). フラットベッドスキャナを利用した簡易土壌診断システムの開発.  
土肥要旨集. 54: 34.  
\*1 農林水産省(元岩手農研セ) \*2 (地独)岩手工技セ \*3 (有)イグノス

日本農薬学会 (第34回大会: 2009. 3. 17~20 開催・東京大学農学部 講演要旨: 2009. 3 発行)

生産環境研究室 (環境部)

- 中野 亜弓・折坂 光臣(2009). 防除体系の変化に伴うもち病防除剤の河川負荷変動  
日本農薬学会第34回大会講演要旨集:61

日本養豚学会 (第91回大会: 2009. 3. 18~19 開催 講演要旨: 2009. 3 発行)

- 佐々木 直・吉田 力(2009). 豚の肥育後期(70~110kg)における玄米添加給与が発育、産肉性に及ぼす影響  
第91回日本養豚学会講演要旨: 26

農業機械学会東北支部 (研究発表会: 2008. 8. 19~20 開催・山形大学 講演要旨: 2008. 8 発行)

生産工学研究室 (農産部) → 農業経営研究室 (企画管理部)

- 藤原 敏(2008). 固定タイン改良とスコープによるアワ栽培の除草適応性.  
平成20年度農業機械学会東北支部大会研究発表会講演要旨: 36-37.
- 須藤 勇人(2008). 基盤整備事業計画地区における10a区画稲作労働時間積算シートの開発.  
平成20年度農業機械学会東北支部大会研究発表会講演要旨: 38-39.

東日本家畜受精卵移植技術研究会 (第24回大会: 2009. 1. 28~29 開催 講演要旨)

家畜工学研究室 (畜産研究所) → 家畜育種研究室 (畜産研究所)

- 細川 泰子・米澤 智恵美(2009). 黒毛和種供卵牛における過剰排卵処理後の卵巣反応の推定.  
第24回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会講演要旨: 44-45
- 福成 和博・細川 泰子・米澤智恵美・松川和嗣\*・赤木賢史\*(2009). 初期G1期同期化および血清飢餓培養後のウシ線維芽細胞を用いた核移植胚の移植成績.  
第24回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会講演要旨: 70-71  
\* 畜産草地研究所



農業経営研究室(企画経営情報部) → 農業経営研究室(企画管理部)

○Kaoru Maeyama et.al.(2008). Development and User Evaluations of Farm Planning Support System FAPS-DB Using Agro-technology Systems Database.

World Conference on Agricultural Information and IT IAALD AFITA WCCA 2008 Program and Abstracts: 83-84.

**(3)東北農業試験研究発表会(第51回 2008.7.16開催・仙台市)・東北農業研究(第61号.印刷中)**

(新設)プロジェクト推進室(特裁・有機)

○洞口 博昭(2008). 水稲種子の温湯浸漬処理後の長期保存の影響.

水稲育種研究室(農産部) → 作物研究室(技術部)

○阿部 陽・高草木 雅人・中野 央子・木内 豊(2008). 水稲巨大胚新品種「つづみ星」の育成.

○高草木 雅人・阿部 陽・中野 央子・木内 豊(2008). 水稲紫黒米新品種「あけのむらさき」の育成.

果樹研究室(園芸畑作部) → 園芸研究室(技術部)

○畠山 隆幸(2008). りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断.

○高橋 司・田村 博明・佐々木 仁・浅川 知則(2008). リンゴ授粉専用品種のポット大苗移植後の生育と結実向上効果.

○小野 浩司(2008). 画像解析を用いたリンゴわい化樹の薬剤到達性判断法.

南部園芸研究室(園芸畑作部) → 南部園芸研究室(技術部)

○藤尾 拓也・佐藤 弘(2008). 高糖度トマト栽培における冷却効果の高い栽培槽の選定.

○藤尾 拓也・佐藤 弘(2008). 四季成り性イチゴにおける摘果と摘花房処理が収量に及ぼす影響.

土壌作物栄養研究室(生産環境部) → 生産環境研究室(環境部)

○鈴木 良則・葉上 恒寿・多田 勝郎・佐藤 千秋(2008). 有機配合肥料及び豚ふん堆肥を用いたピーマン、トマトの化学肥料削減技術.

保鮮流通技術研究室(生産環境部) → 生産環境研究室(環境部)

○穴戸 貴洋(2008). 流通中の岩手県産寒締めホウレンソウの糖含量と簡易推定法.

家畜育種研究室(畜産研究所)

○佐藤 直人・吉田 力(2008). 南部かしわ(K系)における配合飼料給与時の発育モデル.

外山畜産研究室(畜産研究所)

○谷藤 直子(2008). 黒毛和種去勢育成牛へのTMR給与におけるサイレージ利用.

産地育成研究室(県北農業研究所) → 園芸研究室(県北農業研究所)

○佐藤 正昭(2008). 促成伏せ込みアスパラガスの根株への低温遭遇条件と若茎収量.

営農技術研究室(県北農業研究所) → 作物研究室(県北農業研究所)

○吉田 樹史(2008). アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期.

## 5 雑誌等掲載

### (1) 専門雑誌等

#### 機械化農業

##### プロジェクト推進室（水田農業）

- 高橋 昭喜(2009). 「小畦立て栽培で水田大豆を増収する ～水田ハローを活かし湿害回避」  
機械化農業. 2009. 3月号

#### 月刊養豚界

##### 家畜育種研究室(畜産研究所)

- 佐々木 直(2008). 系統豚「イワテハヤチネL2」.  
月刊養豚界 2008. 12 : 8-9

#### 今月の農業

##### 病理昆虫研究室（病害虫部）

- 横田 啓(2008). 岩手県におけるアカスジカスミカメの発生状況と防除対策. 今月の農業 52(7) : 13-17
- 羽田 厚(2008). 岩手県のリンゴ園地におけるナミハダニ多発生要因について. 今月の農業 52(8) : 23-28

#### 日本獣医師会雑誌

##### 家畜育種研究室（畜産研究所）

- 細川 泰子 (2008). 過剰排卵処理を施した黒毛和種牛における採胚成績と給与飼料およびBUN/血糖値比の関係. 日本獣医師会雑誌 第61巻 第9号 : 699-704

#### 日本植物調節剤研究協会東北支部会報第44号（2009年3月）

##### プロジェクト推進室（水田農業）

- 日影 勝幸 (2009). 「岩手県における水稻直播栽培雑草防除対策」

#### 農耕と園芸

##### 園芸研究室（技術部）

- 川村 浩美(2008). 7月上旬出荷可能な「極々早生6」の品種特性.  
農耕と園芸 64(2) : 59-61

##### 生産環境研究室（環境部）

- 大友 英嗣(2008). フラットベッドスキャナを利用した土壌中全炭素・全窒素含量簡易推定システムの開発.  
農耕と園芸 62(8) : 52-54

#### 農業技術体系

##### 園芸研究室（技術部）

- 小野 浩司(2008). わい化栽培の技術. 「JM7 台木の特性と利用」の一部. JM7の衰弱症とその対策.  
果樹編追録 23号 : 技 286 の 7 の 2-286 の 7 の 5

### (2) 月刊農業普及（平成20年4月号～平成21年3月号）

4月号 ※原稿提出後の平成20年4月に組織改編があったため、旧所属と現所属を併記した。

旧生産工学研究室（旧農産部） → 農業経営研究室（企画管理部）

- 須藤 勇人「グラウンドカバープランツ「イブキジャコウソウ」の増殖方法と植生管理方法」

旧花き研究室（旧園芸畑作部） → 転出（県南広域振興局花巻総合支局）

- 阿部 潤. オリジナル品種開発研究の現状と今後 ～リンドウと小ギク～

旧野菜畑作研究室（旧園芸畑作部） → 園芸研究室（技術部）

- 山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫部） → 病害虫防除課（病害虫防除部）

- 熊谷 拓哉. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 防除暦や防除計画をチェックしましょう

5月号

##### プロジェクト推進室（水田農業）

- 高橋 昭喜. 試験研究レポート「最大で30%の増収！所得向上に貢献できる大豆の小畦立て播種栽培」

##### 園芸研究室（技術部）

- 山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

- 阿部 亜希子, 齋藤 智子. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 野菜・花きのウイルス病対策

6月号

##### 園芸研究室（技術部）

- 山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○熊谷 拓哉. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 農薬のラベルを確認しましょう

7月号

園芸研究室（技術部）

○山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○萱 宏和. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 水稻いもち病の発生予察と防除のポイント

8月号

園芸研究室（技術部）

○川村 浩美. 岩手の天候と土地を活かす枝物ビブナム「スノーボール」の促成栽培

○山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 由美子. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 りんごにおけるハダニ類の発生生態と防除対策

9月号

南部園芸研究室（技術部）

○高橋 豊. 固化培地育苗または直まきスターチスの切花品質が大幅にアップ

○山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 美和子. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 農薬の作物残留対策

10月号

園芸研究室（技術部）

○畠山 隆幸. りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断

○山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○阿部 信治. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 小麦の萎縮病の生態と防除のポイント

11月号

農業経営研究室（企画管理部）

○松浦 貞彦. 「営農計画作成や経営の意志決定を支援する「農業経営設計システム」の開発」

園芸研究室（技術部）

○山口 貴之. 季節の農作業 きゅうり

病害虫防除課（病害虫防除部）

○阿部 亜希子. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 ねぎの病害虫について

作物研究室（県北農業研究所）

○仲條 真介. 美味しくて栽培しやすいヒエ新品種が登場します

12月号

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 美和子. シリーズ「病害虫と防除の最新情報」 農薬の中毒について

1月号

生産環境研究室（環境部）

○小菅 裕明. 特集「肥料高騰に対処するには」 肥料価格高騰に対応した肥料費低減技術

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. 飼料用トウモロコシの不耕起栽培について

2月号

農業経営研究室（企画管理部）

○昆野 善孝. 「直播栽培技術導入の経営上のメリット」

園芸研究室（技術部）

○高橋 司. 季節の農作業 西洋なし

3月号

プロジェクト推進室（水田農業）

○高橋 昭喜. 特集 革新技術の導入に向けて「大豆に湿害軽減のための播種技術のポイント」

○伊藤 勝浩. 特集 革新技術の導入に向けて「岩手型新播種技術『作溝同時直播装置』を開発」

園芸研究室（技術部）

○高橋 拓也. イチゴ2回採苗法により秋どり用の苗を効率的に生産！

(3) 岩手の畜産（平成20年4月号～平成21年3月号）

5月号

外山畜産研究室（畜産研究所）

○小野寺 真貴子

7月号

家畜工学研究室（畜産研究所）

○福成 和博. 雄候補牛の肉質を見る！

8月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○越川 志津. 乾乳時乳量の差異による乳房炎新規感染への影響

11月号

種山畜産研究室（畜産研究所）

○渡辺 彩.

1月号

家畜育種研究室（畜産研究所）

○佐藤 洋一. 乳頭数不足原因遺伝子の DNA マーカー型検査について

3月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○尾張 利行. 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中手品種「ゴールドデントKD660」

(4) 岩手りんごタイムス（平成20年4月号～平成21年3月号）

4月号

園芸研究室（技術部）

○大野 浩. 凍霜害対策について

○小野 浩司. 摘花・摘果剤の利用について

5月号

病害虫防除課（病害虫防除部）

○藤田 章宏. 農薬の適正使用について

○佐藤 由美子. 幼果期の防除対策について

6月号

園芸研究室（技術部）

○大野 浩. 樹相診断について

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 由美子. ダニ剤の使用について

7月号

園芸研究室（技術部）

○大野 浩. 夏期管理について

生産環境研究室（環境部）

○大友 英嗣. 園内の土壌管理について

○大友 英嗣. 欠乏症などによる樹体について

病理昆虫研究室（環境部）

○羽田 厚. 枝幹害虫の防除について

病害虫防除課（病害虫防除部）

○藤田 章宏. 盛夏期の防除対策

8月号

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 由美子. 収穫期前の防除対策

9月号

園芸研究室（技術部）

○畠山 隆幸. 黄香の収穫予測と収穫前管理について

10月号

園芸研究室（技術部）

○畠山 隆幸. 岩手系統について（岩手7号）

11月号

園芸研究室（技術部）

○小野 浩司. 野そ対策について

12月号

園芸研究室（技術部）

○高橋 司. 改植の進め方について

病害虫防除課（病害虫防除部）

○佐藤 由美子. 今年の防除の反省

1月号

園芸研究室（技術部）

○高橋 司. せん定について

3月号

病害虫防除課（病害虫防除部）

○藤田 章宏. 今年の防除対策

(5) 酪農ジャーナル（平成20年4月号～平成21年3月号）

7月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. ロコシの収量性について

8月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○越川 志津. 乾乳時乳量の差異による乳房炎新規感染への影響

1月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. 細断型ロールペーラーで調製した自給飼料主体発酵TMRの貯蔵後短期間の発酵品質、生菌数の変化

(6) 開拓情報

5月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○茂呂 勇悦. 黄熟後期・破砕トウモロコシサイレージの泌乳牛への多給技術

6月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○越川 志津. 乾乳時乳量の差異による乳房炎新規感染への影響

7月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. 飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性について

12月号

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. 細断型ロールペーラーを用いた発酵TMRの品質について

(7) その他の雑誌等

現代農業

プロジェクト推進室（水田農業）

○及川 一也. 代かきローターの爪の向きを変えるだけ 浅耕同時小ウネ立て播種. 2008.7月号

米麦改良

作物研究室

○高草木 雅人. 水稻新品種「どんびしゃり」の育成. 2009.3月号

グリーンレポート

生産環境研究室（環境部）

○宍戸 貴洋. 雨よけほうれんそうの「とろけ」は、なぜ発生するのか. 第476号(21.2)

牧草と園芸

家畜飼養・飼料研究室（畜産研究所）

○平久保 友美. 岩手県におけるソルガム栽培について. 2008.4月号

## 6 新聞等掲載

部所名	記事見出し (内容)	掲載紙名	掲載年月日
<b>プロジェクト推進室</b>			
	大豆の湿害克服 チゼルつめ、小畝立て栽培排水アップ 営農組合「ニューアグリ土谷」	日本農業新聞	20.04.12
	たん直みっちり いわたの研究会 機械操作学ぶ	日本農業新聞	20.05.02
	実技で学ぶ水稲直播 北上・講習会 生産者ら理解深める	岩手日報	20.05.02
	大豆小畦立て播種 手持ちの機械で 最大3割増収 湿害軽減、低コスト 岩手県農研センターが試験	日本農業新聞	20.06.06
	大豆小畦立て播種技術 多収、高品質に期待 課題の湿害対策容易に	岩手日日	20.06.07
	生物調査の手引きと紹介CD 県農研センター 希望者に無料配布	岩手日日新聞	20.06.20
	飼料米の多収生産学ぶ 生産者が試験圃場視察	岩手日報	20.08.30
	県産大豆 安定生産と品質向上を	岩手日日新聞	20.09.09
	県産大豆生産先進地に学ぶ 奥州で検討会	岩手日報	20.09.11
	稲の巨大ロール出現 紫波町 飼料米の収穫本格化	岩手日報	20.09.18
	ノビエ混入稲WCS 黄化100%で品質OK	日本農業新聞	20.10.29
	水田大豆の湿害回避 代かきローターベースの小畦立て播種機	農機新聞	20.12.02
	水稲直播 岩手で実績検討会 安定生産技術を確認	日本農業新聞	21.02.06
	水稲直播栽培技術セミナー 収量確保へ真剣に 研究成果を報告	岩手日日新聞	21.02.06
	水稲直播で新装置開発 県農業研究センター 「水はけ」の溝を改良 苗立ち率向上 特許出願、商品化へ	岩手日報夕刊	21.02.12
	水稲湛水直播 落水出芽向け 肥料配合を提案 岩手県農業研究センター	日本農業新聞	21.02.20
	水稲直播 種まき溝切り 岩手で同時装置開発	日本農業新聞 (全国版)	21.03.07
	入排水が均一に 作溝同時直播装置 水稲直播技術の普及へ 岩手県農業研究センターが開発	農業共済新聞 (東北営農技術版)	21.03.18
<b>企画管理部</b>			
<b>農業経営研究室</b>			
	集落営農組織 現状、展開方向示す 北上・県農業研究センター 解説書に集約、発行 経営多角化への手引き	岩手日日	20.05.31
	イブキジャコウソウ 栽培マニュアルを提供	岩手日日	20.06.23
	集落営農組織の実情と課題盛る 岩手・資料を冊子で公表	全国農業新聞	20.07.11
	岩手農研センター 集落営農の現状と展開 9割以上が水稲作付 品目横断政策を強く意識する	農機新聞	20.08.12
	「集落営農」骨抜き 経営効率化進まず 7割、補助金の受け皿 岩手県農業研究センターまとめ	日経新聞	20.11.20
<b>研究企画室</b>			
	カイコを飼育しよう 来月、一日子供農業研究員 北上・農研センター参加者募る	岩手日日	20.07.09
	生物の不思議に触れる 児童がカイコ飼育体験 県農研センター	岩手日日	20.08.04
	県農業研究センターで子ども農業研究員体験	岩手日報	20.08.06
	子ども農業研究員です 岩手県農業研究センター 夏休み蚕の飼育体験	日本農業新聞	20.08.02

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	来月5, 6日に「参観デー」 県農業研究センター成果を紹介展示	岩手日日	20.08.19
	来月5日から参観デー 北上県農研センター	岩手日日	20.08.21
	研究成果肌で感じて 北上県2施設が一般公開	岩手日報	20.09.06
	新技術紹介や展示 参観デー多彩なイベントでにぎわう 県農研センター・北上	岩手日日	20.09.06
	キュウリ生産の一助に 現地ふれあい農業研究セ 陸前高田で	東海新報	20.11.21
<b>農業科学博物館</b>			
	農菊などにふれて 農業科学博物館20日まで無料公開 北上	岩手日日	20.04.18
	穀物を食べる 粒や粉にする用具紹介 農業科学博物館 北上	岩手日日	20.06.19
	北上・農業科学博物館 穀物を食する 粒、粉にした用具展示	岩手日日	20.07.23
	農地の雑草抑制に威力 黒西環境保全組合イブキジャコウソウを仮植	岩手日日	20.06.06
	イブキジャコウソウ栽培マニュアルを提供 水田のり面の雑草抑制 北上・県農業研究センター	岩手日日	20.06.23
	さあ、「お隣」のミュージアムへ! 楽しく学べてためになる 農業科学博物館	マ・シェリ	20.09.11
	布製作の道具紹介 「自給衣料と織物」展 農業科学博物館30日まで	岩手日日	20.11.26
	稲作技術発展の軌跡を紹介 農機具など90点展示 来年2月27日まで 北上・農業科学博物館	岩手日日	20.12.27
	北上・農業科学博物館企画展 稲作技術と農機具の変遷 多収と労力軽減に向け改善	岩手日日	21.01.16
	農業科学博物館 「岩手の稲作技術と農機具の変遷」	マ・シェリ	21.01.29
<b>技術部</b>			
<b>作物研究室</b>			
	北上の県農業研究センター 白インゲンの栽培法確立 県内向け適期など公表	岩手日報	20.08.30
	シロインゲン栽培法を確立 北上・県農業研究センター 5~6月、種まき適期 白あんの原材料地産地消に期待	岩手日日	20.08.30
	北上・県農研センター 納豆用大豆の新品種「すずほのか」 原種育成へ試験栽培 来年度から本格作付け	岩手日日	20.10.11
	10アール800キロ稲安定生産 岩手県農研センター 2品種開発、飼料用に	日本農業新聞	21.03.28
<b>園芸研究室</b>			
	リンゴ、リンドウ 独自品種で産地力強化 岩手県が研究会設立 生産者の育種	日本農業新聞	20.04.25
	連携し新品種開発 園芸育種研が初会合 北上 産地間競争に対応	岩手日日	20.04.25
	県園芸研究会が発足 官民学で品種開発推進	岩手日報	20.04.25
	県農研センター 結実率向上へ技術開発 受粉品種を「ふじ」に高接ぎ 作業効率もアップ	岩手日日	20.05.19
	リンドウ新品種開発 露地栽培で7月上旬出荷可能 価格やコスト面でメリット 県農研センター(北上)	岩手日日	20.07.04
	極々早生リンドウ開発 露地で7月出荷 岩手県農研センター	日本農業新聞	20.07.04
	北上発・新品種のリンドウ 岩手県農業研修センターで開発	広報きたかみ	20.07.04
	受粉用品種高接ぎ りんご結実率ぐんと上昇 効率作業に一役	日本農業新聞	20.07.05
	イチゴの苗 二期取り栽培可能 北上・農研センター新たな種苗法確立	岩手日日	20.10.04

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	リンゴを楽しむ秋 本県「わい化栽培」主流 完熟の適期収穫に力	岩手日報	20.10.17
	黄色品種のりんごシナノゴールド 収穫適期を一目で判定 カラーチャート活用でばっちり 県農研センターが確立	岩手日日	20.11.07
<b>南部園芸研究室</b>			
	雨よけトマト 収穫調整に新技術 県農研センター(北上)が開発 ピークずらし高値販売へ	岩手日日	20.06.07
	トマト着果調整技術 旧盆の労力軽減 岩手県農研センター開発	日本農業新聞	20.06.19
	スターチス増収技術 固化培地などの有効性実証 県南部園芸研究室	東海新報	20.09.30
<b>環境部</b>			
<b>生産環境研究室</b>			
	化学肥料を7割削減 ピーマンとトマトの施肥法 県農研センターが開発 北上	岩手日日	20.05.29
	河川の農薬残留量低減 水稲いもち病防除 環境に優しい使用への改善 育苗期実施で省力化も 雫石川水系で定期調査 県農業研究センター	岩手日日	20.08.27
	「寒締め」の高栄養価を確認	河北新報	20.11.02
	寒締めハウレンソウ「おいしい」 糖は9倍、ビタミンC4倍 夏取りと比較で実証 北上・県農研センター	岩手日日	20.11.25
<b>病理昆虫研究室</b>			
	小麦の赤かび病 開花期に散布1回 県農業研究センター 今週中の防除呼び掛け	岩手日日	20.05.21
	催芽時処理が効果安定(水稲種子消毒用生物農薬の効果的な使用方法について)	日本農業新聞	21.01.14
	ばか苗病が増加 温湯消毒正しく/東北農政局が研修会(水稲種子消毒用生物農薬の効果的な使用方法について)	(東北版) 日本農業新聞	21.01.29
	種子処理は正しく うっかりは厳禁(水稲種子消毒用生物農薬の効果的な使用方法について)	日本農業新聞	21.02.25
<b>病害虫防除部</b>			
<b>病害虫防除課</b>			
	カメムシ被害農家悲鳴	朝日新聞	20.04.01
<b>畜産研究所</b>			
<b>家畜育種研究室</b>			
	おから使い飼料費3割削減	河北新報	20.07.05
	乳牛母胎で和牛増産 受精卵移植器を活用 県の取組スタート	岩手日報	20.07.11
	地鶏の飼料費削3割削減 食品残さ活用 そばくず、おから材料に 岩手県農研センター	日本農業新聞	20.07.12
	養豚にそばくず、おから活用 安い飼料で肉質向上 霜降り増、軟らかく コスト5割減 県農研センターが成果	岩手日報	20.07.19
	右牛用受精卵移植器「モ3号」受胎率向上へ前進 繰り返し使用が可能 技術料の経費を節減 岩手県畜産研究所	農業共済新聞	20.08.13
	プレミアム短角牛出荷 本県産粗飼料70%給餌 2月から 畜産振興に弾み	岩手日報	20.12.18
	来待招福 歴代1位の霜降り 肉質特化の能力が魅力	日本農業新聞	21.01.01
	“顔見える”粗飼料多給 短角牛 本格出荷へ 肉質、うま味変わらず	日本農業新聞	21.02.02
<b>家畜飼養・飼料研究室</b>			
	耕さず栽培、作業短縮 飼料用トウモロコシ 八幡平市で実演会	岩手日報	20.05.10



部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	畜産コスト軽減に効果 破砕トウモロコシ活用を 輸入飼料代用に 乳量や成分は不変 県農研センター乳牛で試験	岩手日報	20.09.25
	コーンサイレージ 破砕で多給可能に 乳質変えず配合飼料減	日本農業新聞	20.10.08
	飼料作物 収穫なめらかに	岩手日報	20.10.29
	自給飼料増や低コスト生産学ぶ 一戸で農業研修会	岩手日報	21.02.05
<b>県北農業研究所</b>			
作物研究室			
	もち性ヒエ3品種 適性調査で栽培試験 花巻市農振対策本部、県加工品への応用に期待	岩手日日	20.06.25
	目指せ雑穀効率生産 除草作業を機械化 農家に説明	岩手日報	20.06.26
	岩手県農業研究センター県北農業研究所作物研究室が実証 畑雑穀 発酵鶏ふんでも収量確保 無化学肥料で差別化へ 技術研修会など計画	農業共済新聞	20.09.17
	期待のヒエ 3品種開発 県農研センター県北農業研究所 優れた食味 粘りも 栽培も省力化 農水省への登録準備	岩手日報	20.09.25
	世界初のヒエ完成 粘り気強く低い草丈	デーリー東北	20.09.25
	半もち性ヒエ登場 食味良好、草丈低く栽培が楽 地域に合わせ3品種 新たな需要拡大を期待 岩手県農業研究センター	日本農業新聞	20.09.25
園芸研究室			
	ハウレンソウ栽培 ビニール被覆で軽減 北上・県農業研究センター 害虫対策で農家に周知	岩手日日	20.05.03
	ハウレンソウ畑ビニール被覆 地温あげ害虫退治 長期間ほど効果 3作目までOK 岩手農研センター	日本農業新聞	20.05.08
	レタスの腐敗性病害 耕種的対策で被害軽減 北上・県農研センター 安定生産に期待確認	岩手日日	20.06.10
	レタス腐敗性病害 株間広げて軽減 収量確保し安定生産 岩手県農研センター 排水対策と併用	日本農業新聞	20.06.28

## 7 テレビ・ラジオ放送

### (1) テレビ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
プロジェクト推進室	高橋昭喜 実証農家	新装置を公開 大豆栽培の現地試験	IBC	20.06.05
技術部 企画管理部	及川 あや 鈴木 元	ニュースプラス1 ・棚田でお絵かき（田んぼアート）	テレビ岩手	20.08.20
技術部	伊藤 信二	岩手県で白インゲンの栽培法を初めて確立！	北上ケーブルテレビ	20.08.29
プロジェクト推進室	実証農家	もち米WCS収穫	テレビ岩手	20.09.17
企画管理部	阿部 弘	じゃじゃじゃTV ～街角ミュージアム ・農業科学博物館の紹介 ・「棚田でお絵かき（田んぼアート）」 ・新形質米新品種「岩手紫76号」のおにぎり	IBC	20.10.04
企画管理部 (農業科学博物館)	畠山 良勝	じゃじゃじゃTV ～たつと岩手 ・「田んぼの上のホニョ」	IBC	20.10.18
企画管理部	阿部 弘	土曜スペシャル 「冬の日本列島 絶品!!旬の味めぐりの旅」 ※取材対応と写真提供	テレビ東京	20.12.20
企画管理部 " 技術部 中央農業改良普及センター "	照井 博幸 阿部 弘 山口 貴之 小舘 琢磨 山口 恵子	週刊 ことばマガジン ・北上市の方言「いものこ」 (農研センター会議室で「イモ」座談会)	岩手朝日放送 ※東北、新潟7県ネット	21.02.28

(注) イベント開催のニュース等は対象外

### (2) ラジオ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
県北農業研究所	仲條真介	品種改良したヒエについて	カシオペアFM	H20.12.23

(注) イベント開催のニュース等は対象外

## 8 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月	
プロジェクト推進室	及川 一也 高橋 昭喜 渡邊 麻由子	大豆の小畦立て播種栽培技術マニュアル 2章、3章、4章、7章、8章	大豆の小畦立て播種栽培技術マニュアル	20.05	
	日影 勝幸	岩手県水稲直播栽培指針 1章(1)3)、2章(1)、3章、6章(1)(5)	岩手県水稲直播栽培指針（岩手県）	21.03	
	及川 一也	大豆栽培の実際	岩手大豆300A研修会	21.02	
企画管理部 農業経営	前山 薫	生産技術体系	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03	
	前山 薫	生産技術体系	平成21年度花き栽培技術指針	21.03	
	昆野 善孝	直播栽培の経営評価	岩手県水稲直播栽培指針	21.03	
技術部	作物	林尻 雄大	水田雑草防除及び水稲用成長調整剤使用指針	平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（岩手県）	21.03
		小綿 寿志 伊藤 信二	畑作物雑草防除指針	平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（岩手県）	21.03
	園芸	小野 浩司 畠山 隆幸	果樹雑草防除及び果樹用成長調整剤使用指針	平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（岩手県）	21.03
		漆原 昌二	野菜雑草防除及び野菜用成長調整剤使用指針	平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（岩手県）	21.03
		千葉 賢一	花き雑草防除及び花き用成長調整剤使用指針	平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針（岩手県）	21.03
	南部園芸	高橋 拓也	品目別栽培技術指針 トマト	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03
		山口 貴之	品目別栽培技術指針 きゅうり	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03
		藤尾 拓也	品目別栽培技術指針 いちご	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03
		藤尾 拓也	夏秋いちごの栽培技術	県北・沿岸農業生産モデル拡大・普及マニュアル 夏秋いちご	21.01
環境部	生産環境	鈴木 良則	野菜畑の土づくり 野菜栽培における施肥管理 転換畑等における排水対策	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03
		穴戸 貴洋	分析・診断技術 野菜の鮮度保持	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03
	病理昆虫	岩館 康哉 羽田 厚	近年問題となっている病害虫	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
	鈴木 敏男 羽田 厚 猫塚 修一 横田 啓 佐々木 直子 岩館 康哉	病虫害・土壌病虫害・鳥獣害防除、展着剤	平成21年度岩手県農作物病虫害 虫・雑草防除指針	21.03
病虫害防除部	佐藤 美和子	農薬安全使用指針	平成21年度岩手県農作物病虫害 虫・雑草防除指針	21.03
病虫害防除課		農薬の残留と飛散防止対策	平成21年度野菜栽培技術指針	21.03

## 9 図書資料収集・提供

項 目	冊数・人数
総蔵書数	67,367 冊
平成20年度収集図書数	545 冊
図書室利用者数(延べ)	238 名
同貸し出し冊数	616 冊

※数値はいずれもセンター本部のみ

## 10 ホームページ

項 目		件 数	内 訳
入力件数	研究レポート	148	平成20～21年度発行分
	試験研究成果	102	平成20年度試験研究成果書
	研究報告類	79	旧農業試験場・園芸試験場研究報告
	らぼ・れたあ	65	No.1～58(研究トピックス)
	行事予定	11	参観デー、現地ふれあい農研センター、他
	各種資料	43	外部評価結果、平成19年度年報
	農業科学博物館	21	企画展第37回～第40回、棚田日記、他
	その他	23	一日子供農業研究員、英語版サイト、月別アクセス状況、組織紹介、他
アクセス件数	トップページ	55,560	平成20年度分
	総ページビュー	2,309,962	平成20年度分



## V 指導・啓発活動





## 1 技術伝達研修等への対応

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
プロジェ外推進室	21.02.05	農業研究センター 大会議室	平成20年度 水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討会	180名
技術部 園芸  環境部 病理昆虫	21.01.21 ～	農業研究センター 大会議室	平成20年度 新技術普及活動検討会（果樹部門）	25名
技術部 園芸 南部園芸  環境部 生産環境 病理昆虫  病害虫防除部 病害虫防除課  県北農業研究所 園芸	21.01.19 ～20	農業研究センター 中会議室 大会議室	平成20年度 新技術普及活動検討会（野菜部門）	41名
技術部 園芸 南部園芸  環境部 生産環境 病理昆虫  病害虫防除部 病害虫防除課  県北農業研究所 園芸	21.01.19	農業研究センター 大会議室	平成20年度 新技術普及活動検討会（花き部門）	61名
畜産研究所 家畜育種 家畜飼養・飼料 外山畜産 種山畜産	21.01.30	畜産研究所	平成20年度 新技術普及活動検討会（畜産部門）	40名
企画管理部 農業経営	21.02.06	農業研究センター 中会議室	平成20年度 普及活動検討会（経営・農村起業部門）	18名

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	内 容	参集人員
プロジェクト推進室	20.05.01	農業研究センター	直播栽培米研究会講習会	80名
	20.09.05	農業研究センター	直播栽培現地巡回 直播技術の安定化をはかるための現場課題と その対応 水田輪作の確立に向けた営農技術の方向	45名
	21.02.20	農業研究センター	第3回稲作技術対策会議	90名
技術部 作物	20.07.09	農業研究センター	第1回稲作技術対策会議	114名
	20.09.03	農業研究センター	第2回稲作技術対策会議	114名
	21.02.20	農業研究センター	第3回稲作技術対策会議	90名
県北農業研究所	20.06.24	県北農業研究所	公開技術セミナー ヒエの短かん半もち育成系統について	65名
	20.08.29	県北農業研究所	公開技術セミナー キビ・アワの除草及び収穫技術 ヒエ短稈・半もち育成系統の機械化栽培適性	65名
	21.01.21	二戸パークホテル	二戸地域雑穀推進大会 キビ・アワの除草技術について 半もち短稈ヒエ3品種の紹介	90名
	21.02.09	二戸パークホテル	二戸地方農林水産業振興大会 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすいヒエ新 品種について キビ・アワの機械収穫技術について	200名

※農業研究センターが主催した研修等および新技術普及活動検討会

## 2 現地指導・研修会等への講師派遣

担当部署 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
プロジェクト推進室				
及川 一也 日影 勝幸	直播栽培米研究会奥州支部研修会	20.04.10	直播栽培米研究会奥州支部	奥州市水沢区
及川 一也 日影 勝幸	直播栽培びがイス小畦立て技術移転支援	20.05.19	八幡平農業改良普及センター	八幡平市大更
高橋 昭喜	びがイス小畦立て播種栽培指導	20.05.19	奥州農業改良普及センター	奥州市水沢区
高橋 昭喜	びがイス小畦立て播種栽培指導	20.05.23	奥州農業改良普及センター	奥州市胆沢区
伊藤 勝浩	水稲ロングマット現地実証圃設置支援	20.05.26	久慈農業改良普及センター	久慈市
高橋 昭喜	びがイス小畦立て播種栽培指導	20.06.06	大船渡農業改良普及センター	大船渡市
多田 勝郎 臼井 智彦	いわて生協交流会	20.06.15	いわて生協	花巻市成田
伊藤 勝浩 日影 勝幸	水稲直播現地検討会	20.06.23	農産園芸課	二戸市
多田 勝郎 洞口 博昭	いわて生協交流会	20.07.13	いわて生協	花巻市成田
多田 勝郎	環境保全型農業シンポジウム	20.09.06	県庁農業普及技術課	大会議室
伊藤 勝浩	農業機械士技能検定 検定員	20.09.25	農業大学校	農業大学校
及川 一也	いわてアグリフロンティアスクール非常勤講師 「環境保全型農業技術」	20.10.02	岩手大学	岩手大学
及川 一也	いわてアグリフロンティアスクール非常勤講師 「フロンティア特論」	20.12.04	岩手大学	現地、農業研究センター
多田 勝郎	農業大学校事例研修	21.01.23	農業大学校	中会議室
及川 一也 伊藤 勝浩 日影 勝幸	平成20年度水田農業を元気にする新技術等普及戦略検討会「水稲直播栽培新技術」	21.02.05	中央農業改良普及センター	農業研究センター
及川 一也	奥州農業塾第3回	21.02.15	奥州市担い手協議会	奥州市胆沢区
及川 一也	大豆300A研修会	21.02.16 21.02.17	(株)岩手クボタ 〃	奥州市水沢区 八幡平市大更
伊藤 勝浩 日影 勝幸	平成20年度一関地方水稲直播栽培実績検討会	21.02.23	一関農業改良普及センター	一関市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
多田 勝郎	環境にやさしい米作りフォーラム	21.03.01	更木地域資源保 全管理組合	北上市更木
日影 勝幸	江刺直播研究会	21.03.09	直播栽培米研究 会奥州支部	奥州市江刺区
及川 一也 日影 勝幸	一関地方遊水地（第1）協議会技術研修会	21.03.24	一関地方遊水地 協議会	一関市
<b>企画管理部</b>				
<b>農業経営</b>				
前山 薫	農業会議常任委員会議	20.06.13	農業会議	エスポワールいわて
	いわてアグリフロンティアスクール「集落型経営体の管理」	20.11.12	岩手大学	岩手大学
昆野 善孝	担い手協議会担当者会議	20.05.21	農業振興課	盛岡市
	組織経営体育成に向けた効果的支援手法の検討	20.06.10	中央普及センター	農業研究センター
	集落型経営体研究会	20.11.19	花巻農協	花巻農協
	江刺集落営農連絡協議会研修会	20.12.17	江刺担い手センター	江刺市
	集落営農に係る情報交換会	20.12.09	北上支局農林部	花巻総合支局
小川 勝弘	集落営農リーダー研修会	20.05.29	農業振興課	志戸平温泉
阿部 直行	平成20年度普及指導員専門技術向上研修(果樹Ⅰ) (りんご特別栽培の取り組み実態及び経営的評価について)	20.05.23	中央農業改良普 及センター	農業研究センター
須藤 勇人 豊坂 光弘	平成20年度農業研究センター（農業土木部門）の試験 研究成果発表会	21.03.23	農村計画課	県庁5階会議 室
<b>技術部</b>				
<b>作物</b>				
佐々木 力	農業大学校 講師（作物増殖）	20.10.10 20.11.21	農業大学校 〃	農業大学校 〃
	平成20年度岩手県農業管理使用アドバイザー養成研修 講師「各論1 雑草概論」	21.01.16	農業普及技術課	盛岡市マリオ ス
	ピッコリーノ主宰パン教室小麦試験視察研修	20.06.21	東日本産業株式 会社	農業研究センター
	えさ米栽培視察研修	20.07.18	JA新いわて玉山 中央支所	農業研究センター
	どんぴしゃり栽培視察研修	20.07.30	いわい東農業協 同組合	農業研究センター
	水稻研究技術研修	20.10.28	新岩手農業協同 組合二戸中央支 所	農業研究センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
	試験研究概況学習（総合学習）	20.12.17	岩手県立花巻農業高等学校	農業研究センター
	水稲関係試験研究成果研修	21.03.18	JA岩手ふるさと	農業研究センター
	水稲品種育成研修	21.03.27	秋田県平賀地域振興局農林企画課	農業研究センター
林尻 雄大	平成20年度種子審査員研修会講師	20.08.01	農産園芸課	農業研究センター
	平成20年度第2回「どんぴしゃり」栽培研究会	20.12.11	農産園芸課	花巻農業協同組合石鳥谷支
及川 あや	平成20年度第1回「どんぴしゃり」栽培研究会	20.08.20	農産園芸課	農業大学校
菅原 浩視	平成20年度飼料用米研修会講師	20.09.18	岩手県・岩手県水田農業改革推進協議会	農業研究センター、金ヶ崎町現地圃場
阿部 陽	農業大学校 講師（事例研究）	20.06.09	農業大学校	農業研究センター
高草木 雅人	農業大学校 講師（水稲育種技術全般）①	20.07.17 20.09.25	農業大学校 "	農業研究センター "
小綿 寿志	平成20年度種子審査員研修会講師	20.08.01	農産園芸課	農業研究センター
伊藤 信二	損害評価研修会講師	20.10.09	岩手県農業共済組合連合会	農業研究センター
<b>園芸</b>				
田村 博明	第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手県本部	農研センター
	第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手県本部	農研センター
	農業大学校応用昆虫学現場講義	20.08.22	農業大学校	農研センター
	「黄香」収穫指導会	20.09.17	農産園芸課	二戸市
	「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター
	純情りんごコンテスト審査（1期）	20.10.28	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査（2期）	20.11.26 ～27	全農岩手県本部	農研センター
	盛岡市認定農業者協議会果樹部会研修	21.01.23	盛岡市認定農業者協議会	農研センター
	冬期講習会	21.01.18	岩手県果樹協会	花巻市花巻温
	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター
高橋 司	第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手県本部	農研センター
	第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手県本部	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所	
小野 浩司	「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター	
	岩手大学農学部植物生産学講座園芸実験	20.10.17	岩手大学農学部	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（1期）	20.10.28	全農岩手県本部	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（2期）	20.11.26 ～27	全農岩手県本部	農研センター	
	冬期講習会	21.01.19	岩手県果樹協会	農研センター	
	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター	
	第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手県本部	農研センター	
	ぶどう栽培流通研修会	20.06.05	全農岩手県本部	花巻市大迫町 葡萄が丘農業 研究所	
	第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手県本部	農研センター	
	「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（1期）	20.10.28	全農岩手県本部	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（2期）	20.11.26 ～27	全農岩手県本部	農研センター	
	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター	
	大粒ぶどう剪定指導会	21.02.25	岩手中央農業協	紫波町	
大野 浩	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター	
	第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手県本部	農研センター	
	ぶどう栽培流通研修会	20.06.05	全農岩手県本部	花巻市大迫町 葡萄が丘農業 研究所	
	第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手県本部	農研センター	
	「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（1期）	20.10.28	全農岩手県本部	農研センター	
	純情りんごコンテスト審査（2期）	20.11.26 ～27	全農岩手県本部	農研センター	
	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター	
	第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手県本部	農研センター	
	第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手県本部	農研センター	
	「黄香」収穫指導会	20.09.17	農産園芸課	二戸市	
	「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター	
	畠山 隆幸	「黄香」収穫指導会	20.09.17	農産園芸課	二戸市
		「黄香」収穫指導会	20.09.18	農産園芸課	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
漆原 昌二	純情りんごコンテスト審査（1期）	20.10.28	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査（2期）	20.11.26 ～27	全農岩手県本部	農研センター
	農業大学校 講師（作物増殖・果樹）	20.11.28	農業大学校	農業大学校
	いわて純情りんごセミナー	21.02.24	全農岩手県本部	農研センター
	野菜普及員技術向上研修	20.05.09 20.08.28	中央農業改良普及センター	農研センター
	野菜普及員専門技術基本研修	20.05.12 ～ 05.16 20.06.16 ～ 06.18	中央農業改良普及センター	農研センター
	日射制御型拍動自動かん水装置現地実証に係る相互巡回	20.07.15	中央農業改良普及センター	岩手町、奥州市、農研センター
	野菜収益性向上対策チームピーマン主産地連絡会議	20.08.08	農産園芸課	岩手町
	日射制御型拍動自動かん水装置を用いたピーマン栽培検討会	20.10.16	農産園芸課	農研センター
	高橋 拓也	野菜普及員技術向上研修	20.05.09 20.08.28	中央農業改良普及センター
野菜普及員専門技術基本研修		20.05.12 ～ 05.16 20.06.16 ～ 06.18	中央農業改良普及センター	農研センター
宮古地方ピーマン整枝法指導会		20.06.03	宮古農業改良普及センター	宮古市、岩泉
パブリカ研修会		20.07.17 20.08.26 20.09.25 21.02.04 21.03.26	全農岩手県本部	農研センター、JA いわて中央
トマト抑制作型現地実証に係る相互巡回		20.07.18	中央農業改良普及センター	奥州市、一関市、農研センター
野菜収益性向上対策チームトマト主産地連絡会議		20.08.19	農産園芸課	一関市
農業大学校応用昆虫学現場講義		20.08.22	農業大学校	農研センター
岩手大学農学部植物生産学講座園芸実験		20.10.17	岩手大学農学部	農研センター
野菜普及員技術向上研修		20.05.09 20.08.28	中央農業改良普及センター	農研センター
野菜普及員専門技術基本研修		20.05.12 ～ 05.16 20.06.16 ～ 06.18	中央農業改良普及センター	農研センター
山口 貴之				

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
川村 浩美	イチゴ栽培研修会	20.07.15	JAいわて中央	盛岡市
	ふれあい農業研究センター	20.08.06	農業研究センター	陸前高田市
	促成アスパラガステーブルリサーチ	20.12.05	東北農業研究センター	盛岡市「アイーナ」
	第2回 岩手県園芸育種研究会 品種登録の特性表作成について	20.06.13	農産園芸課	農研センター
	西和賀花き共進会 審査員	20.08.28	JAいわて花巻	西和賀町
	県北農業研究所参観デー公開セミナー	20.08.29	県北農業研究所	県北農業研究
	いわてフラワーコンテスト2008 審査員	20.09.05	全農岩手	JAいわて花巻
	岩手県園芸育種研究会 りんどう部会第1回技術目揃い 会 ～農研センターにおけるリンドウの育種状況につ	20.09.09	農産園芸課	農研センター
	平成20年度東北地域花き研究会	20.09.09	東北農業研究セ	秋田県湯沢市
	岩手大学農学部植物生産学講座園芸実験	20.10.17	岩手大学農学部	農研センター
千葉 賢一	りんどう採種技術指導	20.07.09	種苗センター	種苗センター
		20.07.14		農研センター
		20.09.02		種苗センター
		20.12.17		農研センター
		21.01.21		農研センター
赤坂 志保	JA新しいわてりんどう圃場巡回指導	20.07.01	JA新しいわて	八幡平市
	農業大学校応用昆虫学現場講義	20.08.22	農業大学校	農研センター
	花き産地拡大研修	21.02.12	農産園芸課	盛岡市
中里 崇	JA新しいわてりんどう圃場巡回指導	20.07.01	JA新しいわて	八幡平市
南部園芸	平成20年度東北地域花き研究会りんどう小集会	20.07.01	東北農業研究セ	秋田県湯沢市
	農業大学校 講師（作物増殖・花き）	20.11.28	農業大学校	農業大学校
	北上鉢りんどう生産部会現地巡回指導	20.08.27	JAいわて花巻	北上市
	北上鉢りんどう生産部会実績検討会	20.12.18	JAいわて花巻	北上市
佐藤 弘 高橋 豊 藤尾 拓也	陸前高田市営農指導センター研修生への野菜基礎講座	5月～3月 (隔週火曜日)	陸前高田市総合 営農指導センター	陸前高田市総合 営農指導センター
佐藤 弘 藤尾 拓也	いちごモデル農家技術指導	20.05.13 ～14	農産園芸課	岩泉町、田野畑村、釜石市、陸前高田
佐藤 弘	きゅうり初心者セミナー	20.05.26	大船渡普及センター	陸前高田市総合 営農指導センター
		20.06.30	〃	南部園芸研究



担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
佐藤 弘 藤尾 拓也	沿岸圏域夏秋いちご栽培研修会	21.07.25	農産園芸課	南部園芸研究室
佐藤 弘 藤尾 拓也	野菜づくり何でも相談会	20.08.27	陸前高田市総合 営農指導センター	陸前高田市総合 営農指導センター
佐藤 弘 藤尾 拓也	普及員専門技術向上研修（野菜第Ⅳ期）	20.09.10 ～12	中央農業改良普及 センター	南部園芸研究室 陸前高田市、
藤尾 拓也	いちごモデル農家技術指導	20.09.17	農産園芸課	岩泉町、田野 畑村、釜石 市、陸前高田
佐藤 弘 藤尾 拓也	いちご定植指導会	20.09.12	J A おおふなと	南部園芸研究室
佐藤 弘 藤尾 拓也	夏秋いちごモデル農家実績検討会	21.01.14	農産園芸課	南部園芸研究室
佐藤 弘 藤尾 拓也	いわて四季成りイチゴ研究会 第4回研修会	21.02.06	いわて四季成り イチゴ研究会	農業研究センター
佐藤 弘	公設試験研究機関合同研究事例発表会	21.02.24	科学ものづくり 課	県庁
<b>環境部</b>				
<b>生産環境</b>				
小菅 裕明 鈴木 良則 大友 英嗣	稲作における肥料価格高騰対策会議	20.08.06	農業普及技術課	農業研究センター
鈴木 良則	土づくり研究会	20.09.18 ～19	全農全国本部	盛岡市「ニューカー ナ」
葉上 恒寿	平成20年度新技術普及活動検討会（花き部門）	21.01.19	中央農業改良普及 センター	農業研究センター
小菅 裕明 葉上 恒寿	施肥の効率化に関する検討会	20.12.16	中央農業改良普及 センター	農業研究センター
大友 英嗣 葉上 恒寿	普及員技術向上研修 土壌診断	20.11.11	中央農業改良普及 センター	農業研究センター
氏橋 明子	農業大学校 （選択実験） " （農産加工概論）	20.12.03 20.12.12	農業大学校	ふれあ公園（加 工工房）
<b>病理昆虫</b>				
猫塚 修一 羽田 厚	第1回全農りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農いわて	農業研究セン ター
羽田 厚	全農ぶどう研修会	20.06.05	全農いわて	花巻市大迫
猫塚 修一 羽田 厚	第2回全農りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農いわて	農業研究セン ター
羽田 厚	東北地区農薬技術者協議会研修会	20.07.29	全農いわて	盛岡市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
鈴木 敏男 猫塚 修一	りんどう高収益栽培研修会	20.11.20	盛岡地方農業農村振興協議会 八幡平市農業振興支援センター	八幡平市
鈴木 敏男 横田 啓	岩手県植物防疫関係者研修会	20.11.27	岩手県植物防疫協会	花巻市
鈴木 敏男	北部地域花き生産部会病害虫研修会	21.02.25	新岩手農協北部地域花き生産部会	県北研究所
鈴木 敏男	相双地方農薬適正使用推進	21.02.25		
羽田 厚	太田西部果樹防除組合 リンゴづくり講演会	21.02.26	JAいわて中央	盛岡市太田
猫塚 修一 羽田 厚	小菊栽培研修会「小菊の主要病害虫の防除について」	20.01.15	北上市小菊生産振興協議会	JAいわて花巻西部営農セン
猫塚 修一	リンドウ講演会「りんどうの病害発生生態と防除について」	21.03.06	JAいわてふるさと園芸部会	花巻温泉
佐々木 直子	新規種子消毒剤「シードラック」の使用方法和防除効果について	20.06.26	岩手県種苗センター	花巻市
佐々木 直子	水稻種子消毒技術研修会	21.01.28	東北農政局	盛岡市
佐々木 直子	岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生	21.02.06	北陸農業センター	新潟県上越市
<b>病害虫防除部</b>				
<b>病害虫防除課</b>				
菅 広和	水稻カメムシ防除研修会	20.04.05	JA新しいわて青年	八幡平市
	NOSA I 事業推進員研修会	20.06.05 ～06	NOSAIいわて	花巻市
	JAいわて中央水稻生産部会紫波支部 役員研修会	20.06.17	JAいわて中央水稻生産部会紫波支部	農業研究センター
	JAいわて中央水稻生産部会古館・日詰支部 役員研修会	20.06.20	JAいわて中央水稻生産部会古館・日詰支部	農業研究センター
	JA岩手ふるさと水稻部会 研修会	20.08.22	JA岩手ふるさと水稻部会	農業研究センター
	盛岡市認定農業者協議会 水稻・果樹部会合同研修会(農研センター、1/19)	21.01.19	盛岡市認定農業者協議会	農業研究センター
佐藤 由美子	JAいわて中央りんご部会 病害虫発生予察講習会	20.04.09	JAいわて中央りんご部会	盛岡市
	全農岩手 第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手	農業研究センター
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」 第1回指導会	20.06.04	滝沢村	滝沢村
	全農岩手 第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手	農業研究センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
佐藤 美和子 藤田 章宏	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」 第3回指導会	20.08.04	滝沢村	滝沢村
	盛岡地方りんご病害虫防除対策検討会	20.12.19	盛岡農業改良普及センター	盛岡市
	JAいわて中央 平成21年度りんご防除暦作成および生産・販売体制説明会	21.01.15	JAいわて中央	紫波町
	花巻・北上地域合同りんご防除計画検討会	21.02.03	中央普及センター	花巻市
	平成20年度花き指導者研修会	20.01.19	中央普及センター	農業研究センター
	全農岩手 第1回りんご病害虫防除研修会	20.05.29	全農岩手	農業研究センター
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」 第1回指導会	20.06.04	滝沢村	滝沢村
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」 第2回指導会	20.07.02	滝沢村	滝沢村
	全農岩手 第2回りんご病害虫防除研修会	20.07.11	全農岩手	農業研究センター
	盛岡地方りんご病害虫防除対策検討会	20.12.19	盛岡農業改良普及センター	盛岡市
	一関地方りんご病害虫防除暦編成会議	21.01.09	一関地方リンゴ生産協議会	一関市
	盛岡市認定農業者協議会 水稲・果樹部会合同研修会	21.01.19	盛岡市認定農業者協議会	農業研究センター
江刺りんご栽培暦作成検討会	20.01.26	JA江刺りんご部会	奥州市	
<b>畜産研究所</b> <b>家畜飼養・飼料</b>				
平久保 友美	「トウモロコシの不耕起栽培」現地実証	20.05.09	八幡平普及センター	八幡平市
	「トウモロコシの不耕起栽培」現地実証	20.05.23	岩泉普及サブセンター	岩泉町
	「トウモロコシの不耕起栽培」現地実証	20.05.27	奥州普及センター	花巻市
尾張 利行	ふれあい農研センター	21.02.04	二戸振興局畜産課	一戸町
	「飼料用イネ湛水直は栽培」現地実証	20.05.02	盛岡普及センター	紫波町
	ふれあい農研センター	21.02.04	二戸振興局畜産課	一戸町
堀間 久己	細断型RBの基本性能及び導入条件について	21.02.10	二戸振興局畜産課	畜産研究所
	破砕処理トウモロコシサイレージ及び多給技術	20.09.25		畜産研究所

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>家畜育種</b>				
小松 繁樹 吉田 力 安田 潤平	二戸地域日本短角種振興懇話会	20.05.27	二戸地方振興局	二戸市
細川 泰子	供卵牛・受卵牛の飼養管理	20.06.02	農業大学校	農業大学校
佐藤 直人	南部かしわ飼養管理について	20.06.11	二戸地方振興局	二戸市
小松 繁樹 安田 潤平	安代短角牛共進会審査員	20.07.10	八幡平市	八幡平市安代
佐藤 洋一	DNA解析とその応用	20.08.20	農業大学校	農業大学校
小松 繁樹	県畜産共進会日本短角種の部審査員	20.09.05	岩手県畜産協会	中央家畜市場
安田 潤平	家畜飼養管理「肉用牛」	20.10.08	農業大学校	農業大学校
吉田 力	県畜産共進会肉牛の部審査員	20.11.01	岩手県畜産協会	岩手畜産流通センター
細川 泰子	家畜人工授精講習会	20.11.06	県畜産課	農業大学校
米澤 智恵美	家畜人工授精講習会	20.11.07	県畜産課	農業大学校
吉田 力 安田 潤平	二戸市短角牛共進会審査員	20.11.08	二戸市	二戸市浄法寺町
吉田 力	J A新しいわて西部地域短角研究会	20.11.21	J A新しいわて	八幡平市安代
佐々木 直	岩手大学獣医学科臨床繁殖学実習	20.12.15	岩手大学農学部	畜産研究所
細川 泰子	岩手中央農協和牛専門部会志和分会講習会 「飼料給与プログラムによる繁殖率向上」	20.12.24	岩手中央農協	岩手中央農協志和支所
細川 泰子	家畜体内受精卵移植講習会	21.02.05 21.02.19 21.02.20 21.02.23	県畜産課	農業大学校
米澤 智恵美	家畜体内受精卵移植講習会	21.02.03 21.02.04 21.02.19 21.02.20 21.02.23	県畜産課	農業大学校
佐々木 直	INS研究会	21.02.19	岩手大学	岩手大学
吉田 力	岩手県畜産技術連盟第3回研究会(広域)	21.03.06	岩手県畜産技術連盟	盛岡市
安田 潤平	盛岡市短角飼養研修会	21.03.19	JA新しいわて	畜産研究所
<b>外山畜産</b>				
砂子田 哲	本県の肉用牛の放牧管理について	20.10.07	農業大学校	金ヶ崎町

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>県北農業研究所</b> <b>作物（県北）</b>				
仲條 眞介	雑穀研究会シンポジウム	20.08.27	雑穀研究会	軽米町、県北 農業研究所
仲條 眞介	イーハトーブひみこの会第3回研究会 講師	21.02.05	県南広域振興局 花巻総合支局農 業	花巻市
荻内 謙吾	軽米町雑穀栽培講習会 講師	21.02.10	軽米町	軽米町
荻内 謙吾	雑穀栽培セミナー 講師	21.02.27	一戸町安全安心 農産物生産流通 研究会 外	一戸町

### 3 視察者、見学者の受け入れ状況

区分	公式来場者数	非公式来場者数	合計	備考
本部	1,316人	5,355人	6,671人	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月～平成21年3月</li> <li>本部、畜産研究所の非公式来所者数には、春季一般公開及び参観デー来所者を含む。</li> </ul>
畜産研究所	397人	1,600人	1,997人	
県北農業研究所	511人	390人	901人	
計	人	7,348人	9,569人	

### 4 春季一般公開及び参観デー

名称	開催期日	開催場所	参集人員
農業研究センター 春季一般公開	20.04.15～20	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	169名
農業研究センター 参観デー（本部）	20.09.05～06	農業研究センター本部	5,355名
〃（畜産研究所）	20.08.22～24	岩手県産業文化センター「アピオ」他	1,600名
〃（県北農業研究所）	20.08.29	県北農業研究所	390名

### 5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開催場所	主な内容	参集人員
20.08.28	八幡平市 八幡平農民研修センター	効率的な水田栽培の取組み～飼料米の低コスト生産と耕畜連携の強化に向けて～	51名
20.09.09	久慈市 本波林業センター	土壌消毒効果の向上によるホウレンソウ夏期安定生産	58名
20.11.13	陸前高田市 陸前高田市総合営農指導センター	きゅうり産地の元気アップに向けて	44名
21.02.04	一戸町 JA新しいわて奥中山中央支所・団地センターホール	地域資源を活用した畜産振興方策について	82名

### 6 一日子供農業研究員

名称	開催期日	内容	参集人員
一日子供農業研究員 ～夏休み 蚕の研究～	20.08.01	小学5年生を対象とした蚕の研究 (蚕の観察、飼育体験) 講師：繭と糸の会	33名

### 7 加工体験

項目	人数(件数)	
加工実習・講習	126人 (9件)	※H16年度から特産品試作の項目は加工実習に含めた。

## 8 農業科学博物館・農業ふれあい公園

項 目		主 な 内 容	参集人数
農業科学博物館	入館者数	通常入館者 農業研究センター春季一般公開 農業研究センター参観デー	4,340名
	企画展	収蔵品を「企画テーマ」に合わせて年4回展示紹介 第36回「蚕の飼育・製糸用具と絹製品」 20.03.05～05.31 第37回「穀物を食する」 20.06.07～08.30 第38回「自給衣料と織物」 20.09.04～11.30 第39回「岩手の稲作技術と農機具の変遷」 20.12.07～21.03.27	—
農業ふれあい公園	利用状況	利用期間4月～11月 ゲートボール、グラウンドゴルフなど	7,026名 (248件)
	棚田	田んぼアート「棚田でお絵かき 3rd season」 担当：技術部作物研究室 絵・・・純鬼(じゅんき)くん、りんご、ぶどう、ほうれんそう、り んどう 字・・・「13」*、技術部の「技」、「いわて」 * (財) 穀物検定協会による食味ランキングで岩手県南ひとめぼれが最高位「特A」 を獲得した回数	—

## 9 研修生の受け入れ

### (1) 海外研修

※H20受け入れ無し

### (2) 北東北3県連携にかかる人事交流（研修）

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
片平 光彦	秋田県農林総合技術センター	水田麦大豆の湿害回避技術の開発研究	プロジェクト推進室 (水田農業)	20.06.02～ 07.18

### (3) 短期研修生

※H20受け入れ無し

### (4) 体験学習の受け入れ

ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの

所属	研修内容	人数	受け入れ研究室等	期日
北上市立上野中学校 2年生	職場体験学習  概要説明・圃場案内 水稲・大豆生育調査等 果樹・野菜栽培管理 特別栽培・有機栽培試験調査 水稲直播・農業機械 病害虫の見分け方 農産物への農薬残留 IS014001について ウイルス病と野菜バイオテクについて	1名	—	20.08.05～07
			研究企画室	20.08.05
			作物研究室	〃
			園芸研究室	20.08.06
			プロジェクト推進室 (特裁・有機)	〃
			プロジェクト推進室 (水田農業)	〃
			病理昆虫研究室	20.08.07
			生産環境研究室	〃
			総務課	〃
			研究企画室	〃
北上市立飯豊中学校	「ちょボラ」体験学習	5名	園芸研究室	20.10.10
横田小学校	野菜（トマト・ピーマン）収穫 体験学習	50名	南部園芸研究室	20.10.06
花巻養護高等学校	リンゴジュース製造体験学習	46名	生産環境研究室	20.11.20
盛岡農業高等学校	地域産業担い手育成プロジェクト事業	10名	外山畜産研究室	20.09.02
			家畜飼養・飼料研究室	20.09.29～30
			家畜育種研究室	20.10.06～07
			種山畜産研究室	20.10.14
			家畜飼養・飼料研究室	20.11.10～11
外山小学校	畜産研究所の仕事内容	21名(延べ)	外山畜産研究室	20.05-11
藪川中学校	地域の職場見学	5名	外山畜産研究室	20.05.30



イ インターシップ等に対応したもの

No.	所属	人数	研 修 内 容	受入研究室等	期 日
1	山形大学農学部 (生物生産学科)	1	雑穀育種について ※ただし、園芸・作物全般を研修	県北農業研究所 作物 園芸	20. 08. 25～29
2	平成20年度岩手県職員採用 内定者	1	畜産研究の概要	畜産研究所 家畜育種 家畜飼養・飼料	20. 11. 18～20
3	平成20年度岩手県職員採用 内定者	2	作物研究の概要、水稲分解調 査、米成分分析、大豆分解調査 園芸研究の概要、リンゴ品質調 査等	技術部 作物 園芸	20. 11. 20～21

## 10 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手農林研究協議会 (AFR)	副会長	岩手大学農学部	所長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	企画経営情報部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	技術部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	生産環境部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	病害虫部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	畜産研究所長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	県北農業研究所長
岩手農林研究協議会 (AFR) 幹事会	幹事	岩手大学農学部	技術部長
岩手県施肥合理化協議会	参与	全農岩手県本部	環境部長
岩手県施肥合理化協議会	参与	全農岩手県本部	畜産研究所長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	プロジェクト推進室長 (特栽・有機)
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	作物研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	園芸研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	生産環境研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	県北研次長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・水稲)	部会長	NOSA I 岩手	病害虫防除課長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・水稲)	委員	NOSA I 岩手	作物研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・水稲)	委員	NOSA I 岩手	病理昆虫研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (果 樹)	部会長	NOSA I 岩手	園芸研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (果 樹)	委員	NOSA I 岩手	主査 (病害虫防除課)
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・災害収入)	委員	NOSA I 岩手	作物研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (畑作物)	委員	NOSA I 岩手	作物研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (畑作物)	委員	NOSA I 岩手	主任主査 (病害虫防除課)
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (園芸施設)	委員	NOSA I 岩手	南部園芸研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (畑作物・蚕繭)	委員	NOSA I 岩手	園芸(県北)研究室長
岩手県植物防疫協会	運営幹事	(社)植物防疫協会	病害虫防除部長
岩手県植物防疫協会	運営幹事	(社)植物防疫協会	技術部長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	作物研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	園芸研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	病理昆虫研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	病害虫防除課長
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員	日本植物調節剤研究協会東北支部	作物研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県農業気象協議会	委員	農業普及技術課	企画管理部長
岩手県農業気象協議会	委員	農業普及技術課	病害虫防除所長 (病害虫防除部長)
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	作物研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	園芸研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	生産環境研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	作物(県北)研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	病害虫防除所主査
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長	農村計画課	副所長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	技術部長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	県北農業研究所長
土地改良事業営農推進対策委員会	中央幹事	農村計画課	家畜飼養・飼料研究室長
土地改良事業営農推進対策委員会	中央幹事	農村計画課	園芸研究室長
岩手県農作業安全対策協議会	委員	農産園芸課	副所長
岩手県農作業安全対策協議会	委員	農産園芸課	畜産研究所長
日本農業経営学会	理事	(独)中央農業総合研究センター	農業経営研究室長
東北農業経済学会	評議員	東北大学農学部	農業経営研究室長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長	農産園芸課	県北農業研究所長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員	農産園芸課	農業経営研究室長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員	農産園芸課	作物(県北)研究室長
岩手県果樹産地づくりコンクール	審査委員	農産園芸課	農業経営研究室長
岩手県農業農村整備事業地区担い手育成協議会	委員	農村建設課	農業経営研究室長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	農業経営研究室長
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	全農岩手県本部	技術部長
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員	(社)農産物改良種苗センター	作物研究室長
岩手県農業共済保険審査委員会	委員	団体指導課	技術部長
いわて純情米需要拡大推進協議会	幹事	流通課	技術部長
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産園芸課	技術部長
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	上席専門研究員 (プロジェクト推進室 水田農業)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (農業経営)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (農業経営)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	技能員

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	北上市	技術部長
マーケットイン産地育成会議	構成員	農産園芸課	園芸研究室長
2008いわて純情りんごコンテスト	審査委員長	全農岩手県本部	技術部長
2008いわて純情りんごコンテスト	審査員	全農岩手県本部	園芸研究室長
2008いわて純情りんごコンテスト	審査員	全農岩手県本部	園芸研究室果樹担当
第56回全国リンゴ研究大会実行委員会	委員	岩手県果樹協会	技術部長
第56回全国リンゴ研究大会実行委員会	事務局員	岩手県果樹協会	園芸研究室長
いわてフラワーコンテスト2008	審査委員長	花の国づくり岩手県協議会	技術部長
いわてフラワーコンテスト2008	審査委員	花の国づくり岩手県協議会	園芸研究室花き担当
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会	委員	農産園芸課	技術部長
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会 事務局員	事務局員	農産園芸課	作物研究室長
いわての大豆普及推進協議会	委員	流通課	技術部長
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員	農産物改良種苗センター	作物研究室長
岩手県麦民間流通地方協議会	構成員	全農岩手県本部	作物研究室長
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員長	農産園芸課	技術部長
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物研究室長
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物(県北)研究室長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員長	農産園芸課	技術部長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物研究室長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物(県北)研究室長
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員長	農産園芸課	県北研究所長
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物研究室長
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員	農産園芸課	作物(県北)研究室長
東北土地利用型作物安定生産推進協議会	構成員	東北農政局	プロジェクト推進室長(水田農業)
麦・大豆収益性向上対策チーム	構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長(水田農業) 作物研究室長
飼料用米生産拡大プロジェクトチーム	構成員	畜産課	農業経営研究室長 プロジェクト推進室長(水田農業) 家畜育種研究室長
県産米食味向上プロジェクトチーム	構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長(水田農業) プロジェクト推進室長(特栽・有機) 作物研究室長 生産環境研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
野菜収益性向上対策チーム	構成員	農産園芸課	園芸研究室長
大船渡地方農業振興協議会	構成員	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地方農林水産振興連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地区行政連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局企画総務部	南部園芸研究室長
陸前高田市総合農政推進協議会	委員	陸前高田市	南部園芸研究室長
住田町農業振興協議会	構成員	住田町	南部園芸研究室長
岩手県農薬管理使用アドバイザー認定委員会	委員	農業普及技術課	病害虫防除部長
岩手県農薬管理使用アドバイザー認定委員会	委員	農業普及技術課	環境部長
岩手県産業用無人ヘリコプター推進協議会	幹事	NOSA I いわて	病害虫防除課長
岩手県埋設農薬適正管理専門家会議	委員	農業普及技術課	環境部長
岩手県獣医師会学術広報委員会	副委員長	岩手県獣医師会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県農協大型酪農経営連絡協議会	委員	全農岩手県本部	畜産研究所長
ミルクシステム診断事業推進委員会	委員	(社) 岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県乳用牛群検定推進協議会	幹事	(社) 岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
自動搾乳データ分析検討会	委員	(社) 家畜改良事業団	専門研究員 (家畜飼養・飼料研究室)
県南和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員 (種山畜産研究室)
中央和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員 (種山畜産研究室)
第10回全国和牛能力共進会出品対策委員会	委員	畜産課、全農岩手県本部	種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
全国和牛登録協会登録委員産肉能力検定委員会	委員	全国和牛登録協会	専門研究員 (種山畜産研究室)
和牛改良専門委員会	委員	全国和牛登録協会岩手県支部	種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
日本短角種集団育種推進協議会	委員	日本短角種集団育種推進協議会畜産課	家畜育種研究室長
いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会	委員	畜産課	種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
日本短角種研究会	評議員	日本短角種研究会	家畜育種研究室長
盛岡市牧野運営協議会委員	委員	盛岡市	外山畜産研究室長
日本短角種集団育種推進事業協議会	委員	畜産課	外山畜産研究室長
東北草地研究会	幹事	東北大学農学部	飼料生産研究室長
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	畜産課	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県畜産技術連盟	世話人	畜産研究所	畜産研究所長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産研究所	水田作研究室長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産研究所	家畜飼養・飼料研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員幹事	新農業機械実用促進(株)	家畜飼養・飼料研究室長
岩手農林統計協会二戸支部	会員	東北農政局二戸統計情報センター	県北農業研究所長
雑穀栽培用農業機械の開発研究会	共同研究者	岩手大学農学部	農業経営研究室長 主任専門研究員（農業経営研究室）

## VI 職員研修





## 1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 濱戸 もえぎ	畜産研究所 外山畜産研究室	環境負荷軽減のための地力評価に基づく施肥法の確立	岩手大学大学院 連合農学研究科	H15年度 ～H20年度
専門研究員 平久保 友美	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	大規模飼料用トウモロコシ栽培を想定した不耕起栽培と発酵TMR調製に関する研究	岩手大学大学院 連合農学研究科	H20年度～
主任専門研究員 猫塚 修一	病害虫部 病理昆虫研究室	リンドウ褐斑病の発生生態の解明	岩手大学大学院 連合農学研究科	H19年度～
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	水稻の重要形質に関与するQTL遺伝子の単離・同定および機能解析	岩手大学大学院 連合農学研究科	H19年度～

## 2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
専門研究員 宍戸 貴洋 主任専門研究員 川村 浩美	環境部 生産環境研究室 技術部 園芸研究室	りんどう海外輸出に係る鮮度保持調査	香港	20.10.20 ～23

## 3 国内研修への派遣

### (1) 依頼研究員

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 松浦 貞彦	企画管理部 農業経営研究室	農業技術体系評価DBを活用した意志決定手法	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター	20.09.29 ～12.26
主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 園芸研究室	省力的で高品質・多収生産を可能とするトマト低段密植栽培に関する研究	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	20.09.30 ～12.26

### (2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 渡邊 麻由子	プロジェクト推進室	短期集合研修「農業生産における技術と経営の評価方法」	農林水産技術会議事務局筑波事務所	20.07.14 ～18
主任専門研究員 昆野 善孝	企画経営情報部 農業経営研究室	農業生産における技術と経営の評価方法	農林水産技術会議事務局筑波事務所	20.07.14 ～18
専門研究員 葉上 恒寿	環境部 生産環境研究室	農業生産における技術と経営の評価方法	農林水産技術会議事務局筑波事務所	20.07.14 ～18

### (3) 農林水産関係中堅研究者研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 日影 勝幸	プロジェクト推進室	平成20年度農林水産関係中堅研究者研修	農林水産技術会議事務局筑波事務所	20.12.03 ～12.05

(4) 農林水産研究高度化人材育成セミナー (H20該当なし)

(5) その他

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 日影 勝幸	プロジェクト推進室	新予報技術講習コース	(財) 気象業務支援センター	20.06.18
主任専門研究員 渡邊 麻由子	プロジェクト推進室	都道府県農業関係研究員等専門研修『耕地雑草の生態と防除研究に関する研修』	中央農業研究センター	20.08.19 ～21
主任専門研究員 細川 健 専門研究員 洞口 博昭	プロジェクト推進室	生物多様性調査方法研修	福島県	20.08.21 ～22
主任専門研究員 細川 健 専門研究員 洞口 博昭	プロジェクト推進室	生物多様性調査方法研修	(独) 果樹研究所	20.10.16 ～17
技能員兼運転技士 技能員 中軽米 徳典	プロジェクト推進室	特定農業機械研修	生研センター	21.03.19 ～20
専門研究員 及川 あや	技術部 作物研究室	非構造化炭水化物分析調査法の研修	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所	20.12.14 ～19
上席専門研究員 佐藤 直人	畜産研究所 家畜育種	中央畜産技術研修 養鶏	(独) 家畜改良センター	20.07.22 ～25
専門研究員 佐々木 直	畜産研究所 家畜育種	中央畜産技術研修 畜産統計処理(基礎)	(独) 家畜改良センター	20.07.28 ～08.07
主任専門研究員 吉田 宏	県北農業研究所 作物研究室	雑草管理担当者研修	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農研センター大仙研究拠点	20.04.24 ～25

#### 4 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
[本 部]			
	21. 03. 06	“すみれ”を通してみた生物の多様性 ～遺伝的多様性から里地里山の多様性まで～ ○武田 眞一(所長)	76名
	20. 06. 27	(所内連携セミナー) プロベナゾールなど抵抗性誘導剤の最新情報 ○岩田 道顕(岩手大学農学部非常勤講師)	10名
	21. 01. 21	知的財産権セミナー(公設試向け) 研究成果の権利化について ○楠 修二(アートの特許商標事務所弁理士)	23名
[プロジェクト推進室]			
プロジェクト推進室ゼミ	20. 04. 15	On farm trialのすすめ 実規模実証試験の意義と研究手法 ○及川 一也(プロジェクト推進室長)	12名
	20. 05. 27	農薬取締法改正からポジティブリスト制度施行を経て ○細川 健(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	9名
	20. 06. 27	高度化事業の取り組み エダマメ収穫調製作業の省力化 ○片平 光彦(秋田県農林水産技術センター 主任研究員)	14名
	20. 06. 27	農業大学校の現状と農業の担い手育成 ○伊藤 勝浩(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	〃
	20. 06. 27	温湯浸漬処理した種子消毒の長期保存条件 ○洞口 博昭(プロジェクト推進室 専門研究員)	〃
	20. 07. 25	土壌断面調査法 ○多田 勝郎(プロジェクト推進室長)	12名
	20. 09. 26	無農薬を前提とした雑穀栽培技術の開発 ○高橋 昭喜(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	11名
	20. 10. 23	水稻・麦・大豆等の難防除雑草の同定技術 ○渡邊 麻由子(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	16名
	21. 02. 12	天気について ○日影 勝幸(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	12名
	21. 02. 12	農業簿記ってなに? ○白井 智彦(プロジェクト推進室 専門研究員)	〃
	21. 03. 30	農業研究センターの再編整備 ○宮下 慶一郎(副所長)	12名
直播栽培講習会(技術公開・指導 プロジェクト推進室)	20. 05. 01	直播栽培米研究会講習会	80名
水田輪作研究会(技術公開・検討 プロジェクト推進室)	20. 09. 05	直播栽培現地巡回 直播技術の安定化をはかるための現場課題とその対応 水田輪作の確立に向けた営農技術の方向	45名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
水田農業・作物関係試験圃場検討会（プロジェクト推進室・技術部）	20.04.30	水田農業関係試験、作物研究室関係試験圃場の紹介、巡回検討会	16名
[技術部] 技術部ゼミ	20.04.28	果樹園地の効果的除草法 生研センターで新開発した火炎除草機の機能確認	15名
	20.05.08	水稻育苗・麦類出穂目揃会 水稻育苗生育状況並びに麦類生育状況確認と意見交換	8名
	20.05.30	作物関係試験圃場研修会 作物研およびプロジェクト推進室の研究実施圃場の状況確認	30名
	20.06.12	園芸関係試験圃場研修会 園芸研究室の研究実施圃場の状況確認	15名
	20.06.20	東北農業試験研究事前発表会 東北農業試験研究発表会の発表課題の内容紹介	20名
	21.03.25	私と農業機械と研究と ○鶴田 正明（技術部長）	
[環境部] 環境部ゼミ	20.06.17	寒締めほうれんそうに含まれる糖含量と簡易測定法 ○宍戸 貴洋（生産環境研究室 専門研究員） 有機配合肥料及び豚ふん堆肥を用いたピーマン、トマトの化学肥料削減技術 ○鈴木 良則（生産環境研究室 上席専門研究員）	12名
	20.06.27	（前出：所内連携セミナー共催） プロベナゾールなど抵抗性誘導剤の最新情報 ○岩田 道顕（岩手大学農学部非常勤講師）	10名
	20.07.25	（プロジェクト推進室ゼミ共催） 土壌断面調査法 ○多田 勝郎（プロジェクト推進室 室長） ○鈴木 良則（生産環境研究室 上席専門研究員） ○葉上 恒寿（生産環境研究室 専門研究員）	12名
	20.09.03	リンドウ株養成時の省力的な施肥法の開発 ○葉上 恒寿（生産環境研究室 専門研究員） フラットベッドスキャナを用いた土壌中全炭素・全窒素含量推定キットの開発 ○大友 英嗣（生産環境研究室 専門研究員）	14名
	20.11.18	疫学研究手法を用いたリンゴ斑点落葉病の多発生要因の解析 ○猫塚 修一（病理昆虫研究室 主任専門研究員） リンドウ香港輸出試験調査報告 ○宍戸 貴洋（生産環境研究室 専門研究員）	15名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
	21. 02. 10	籾殻から水稻苗への胞子飛散によるMBI-D剤耐性もち病菌の伝染経路の検討 ○佐々木 直子 (病理昆虫研究室 専門研究員) クロルピクリン錠剤の減量施用によるハウレンソウ萎凋病防除法の検討 ○岩館 康哉 (病理昆虫研究室 専門研究員) アカスジカスミカメに対する地域一斉防除が有効となる防除時期 ○横田 啓 (病理昆虫研究室 専門研究員)	14名
	21. 03. 12	各種粉体化技術による玄米粉の加工適性の評価 ○氏橋 明子 (生産環境研究室 専門研究員) 10年間川をみていた ○中野 亜弓 (生産環境研究室 主任専門研究員)	14名
	21. 03. 24	寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜 ○羽田 厚 (病理昆虫研究室 専門研究員) 岩手県におけるウコンノメイガの発消長 ○横田 啓 (病理昆虫研究室 専門研究員) 簡易施肥設計シート ○大友 英嗣 (生産環境研究室 専門研究員)	10名
<b>[県北農業研究所]</b>			
県北農業研究所参観デーシンポジウム 「公開技術セミナー」及び「ほ場公開」	20. 08. 29	東北地域におけるキクの開花および品質の不安定条件となる温度条件の解明研究について ○長菅 香織 (東北農業研究センター 主任研究員) 県北地域における小ぎくの省力安定生産技術 ○川戸 善徳 (園芸研究室 主任専門研究員) 岩手県におけるりんどう育種の成果と方向 ○川村 浩美 (技術部園芸研究室 主任専門研究員)	70名
「公開技術セミナー」及び「ほ場公開」	20. 08. 29	キビ・アワの除草及び収穫技術 ○荻内 謙吾 (作物研究室 主任専門研究員) ヒエ短桿・半もち育成系統の機械化栽培適正試験 ○仲條 眞介 (作物研究室 主任専門研究員)	70名
所内ゼミ (個人発表)	20. 04. 23	食卓の向こう側 (食料自給率と食育の考察) ○佐藤 正昭 (園芸研究室長)	13名
公開技術セミナー (試験状況公開)	20. 06. 24	ヒエの短かん半もち育成系統についての説明・圃場視察及び意見交換 ○仲條 眞介 (作物研究室 主任専門研究員)	23名
「東北農業試験研究発表会事前発表会」	20. 06. 25	アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期 ○吉田 樹史 (作物研究室 専門研究員) 促成アスパラガスの根株への低温遭遇条件と若茎収量 ○佐藤 正昭 (園芸研究室長)	12名
公開技術セミナー	20. 06. 26	ハウレンソウケナガコナダニの被害軽減技術 ○藤沢 巧 (園芸研究室 主任専門研究員) 本県産ほうれんそうの競争的ポジショニングと振興方向 ○小川 勝弘 (企画管理部 農業経営研究室長)	35名
所内ほ場巡回説明会	20. 08. 08	所内ほ場の巡回と研究員による試験進捗状況の相互説明会	12名
研究課題設計検討会	20. 11. 12	研究課題・研究成果の中間 (骨子) 検討	12名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
所内ゼミ（個人発表）	21.02.10	岩手県におけるりんご害虫の防除体系と今後の課題 ○藤沢 巧（園芸研究室 主任専門研究員） 水稻における温暖化の影響と非主食用品種の概要について ○吉田 宏（作物研究室 主任専門研究員）	14名
所内ゼミ（個人発表）	21.03.09	葉たばこ研究等に関する歴史の概要 ○大清 水保見（作物研究室長） ほうれんそう課題解決プロジェクト（平成元年作成）の概要 ○高橋 修（次長）	12名
所内ゼミ（個人発表）	21.03.23	農業を取り巻く情勢と新しい農政推進方針について ○武藤 和夫（所長） 二戸・軽米地方の残したい日本の風景 ○作山 匠（主幹兼総務課長） 女帝登場の背景 ○阿部 君男（総務課 主査）	12名

## VII 試験研究以外の業務概要





## 1 作物の原々種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産

種類	品 種	面 積 (a)	採種量 (kg)	備考 (採種場所等)
水稲 (うるち)	ひとめぼれ	10.3	167	農業研究センター
	いわてっこ	3.0	80	〃
	吟ぎんが	3.0	84	〃
	カグヤモチ	3.0	28	〃
小麦	ナンブコムギ	30.0	311	〃
大豆	コスズ	2.0	16	〃
	青丸くん	5.0	49	〃

### (2) その他原々種種子の生産

種類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
小豆	ベニダイナゴン	1.0(a)	4.5(kg)	農業研究センター
りんどう	A Z系	—	20ml	〃
	北海道系	—	10ml	〃
	矢巾系	—	20ml	〃
	白系	—	5ml	〃
	ササ系	—	25ml	〃
	その他	—	20ml	〃

## 2 作物の原種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産

種類	品 種	面 積 (a)	採種量 (kg)	備考 (採種場所等)
水稲うるち	いわてっこ	60	1,960	農業研究センター
	あきたこまち	158	6,320	〃
	ひとめぼれ	297	12,620	〃
	吟ぎんが	10	232	〃
水稲もち	ヒメノモチ	50	1,318	農業研究センター
	カグヤモチ	25	420	〃
小麦	ナンブコムギ	350 <sup>注)</sup>	4,950	農業研究センター 注) うち農業大学校200a
	ゆきちから	80	3,240	農業研究センター
大豆	ナンブシロメ	50	545	農業研究センター
	スズカリ	50	700	〃
	コスズ	20	76	〃

(一部選別中)

(2) その他原種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
小豆	ベニダイナゴン	4(a)	22(kg)	農業研究センター
	岩手大納言	4(a)	5(kg)	〃
小ぎく	アイマムアーリーイエロー	-	20 株	農業研究センター
	アイマムホワイト	-	20 株	〃
	アイマムホワイトビーチ	-	20 株	〃
	アイマムピンク	-	20 株	〃
	アイマムイエロー	-	20 株	〃
	アイマムレモンイエロー	-	20 株	〃
	アイマムオータムホワイト	-	20 株	〃
	アイマムパープルレッド	-	20 株	〃
	アイマムアーリーホワイト	-	20 株	〃
	アイマムオレンジ	-	20 株	〃
	アイマムレッド	-	20 株	〃
りんどう	ENG		10ml	農業研究センター
	AZ系		25ml	〃
	IHO		20ml	〃
	HO2・1・4		20ml	〃
	えぞ早生		20ml	〃
	Sen2		20ml	〃
	Y5・1・4		20ml	〃
	I AW		5ml	〃
	Y5・3・1		20ml	〃
	OK100		10ml	〃
	TO2S		10ml	〃

### 3 種苗等の配布

#### (1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
水稲うるち原種 (21年採種圃用)	あきたこまち	3,120(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	どんびしゃり	560(kg)	〃
	ひとめぼれ	11,180(kg)	〃
	いわてっこ	1,580(kg)	〃
	かけはし	640(kg)	〃
	ササニシキ <sup>注)</sup>	280(kg)	〃
	吟ぎんが	80(kg)	〃
	ぎんおとめ	30(kg)	〃
水稲もち原種 (21年採種圃用)	ヒメノモチ	1,200(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	カグヤモチ	140(kg)	〃
	もち美人	120(kg)	〃
小麦原種 20年採種圃播種用	ナンブコムギ	4,110(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ゆきちから	1,620(kg)	〃
	ネバリゴシ	240(kg)	〃
大豆原種 20年採種圃播種用	ナンブシロメ	650(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	スズカリ	460(kg)	〃
	青丸くん	29(kg)	〃
	すずほのか	10(kg)	〃
	ユキホマレ	10(kg)	〃
	コスズ	8(kg)	〃

注) 秋田県産

(2) その他種苗の配布

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
小豆原種	岩手大納言	12(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ベニダイナゴン	6(kg)	〃
えだまめ原種			配付実績無し
りんどう	採種母株		(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ENG	15 株	
	IHO	25	
	えぞ早生	37	
	HO2・1・4	15	
	Sen2	59	
	I AW	8	
	Y5・3・1	18	
	採種母株用苗		
	ENG	320 株	
	IHO	200	
	えぞ早生	200	
	HO2・1・4	200	
	Y5・1・4	160	
TO	50		
新晩生系統	720		

#### 4 県有種雄牛の精液の供給

(畜産研究所種山畜産研究室：平成21年3月31日現在)

##### (1) 黒毛和種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第3原茂							50			5			55
菊安舞鶴	1,560	1,403	1,462	1,306	1,178	966	1,049	887	865	971	979	958	13,584
金菊徳	183	205	145	162	355	143	155	151	268	259	175	85	2,286
糸安菊	15			10	35	45	35	13	30	22	19	5	229
菊福秀	70	16	10	39	44	40	25	108	205	313	573	760	2,203
房平茂	75		20	7	3	10		10	3		2	10	140
城乃神	40	10		10		5		5	10		5		85
来待招福	124	75	10	65	20	20	30	5	30	95	409	567	1,450
平福国1	95	10	45	62	25	20	22	10	20	20	20		349
安勝利		25				50			50			50	175
糸景平		101		10		5				25	5		146
平北勝1	75	198	95	58	17	40	73	27	30	55	5	45	718
岩城57	70	5	30					30	20	5		20	180
北真鶴	507	325	213	175	125	145	93	58	53	157	65	75	1,991
第5八雲	5	10			5			5		10			35
飛良美継	5				10	5	10	20		50	50	50	200
安福菊				49				10					59
桜忠陸	20	20	20	80			3						143
雪乃花								33	75	50	50	50	258
桜銀次											20	20	40
その他	5	10		55	5	3		15	10	20	15	20	
計	2,849	2,413	2,050	2,088	1,822	1,500	1,554	1,387	1,669	2,052	2,392	2,715	24,497

##### (2) 日本短角種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
勝富	20			10			5		10	10		25	80
良川	35	9		6									50
高福	10	12	20				5					20	67
木川12		23	20	3									46
辰錦			25							3		20	48
その他	10	20		1			2					20	64
計	75	64	65	20			12		10	13	10	85	355

## 5 種豚、種鶏等の配布

(畜産研究所家畜種研究室：平成21年3月31日現在)

### (1) 銘柄鶏の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌(羽)	雄(羽)	計	
南部かしわ雛(羽)	6,337	645	7,182	岩手しずくいし南部かしわ生産組合他
軍鶏×ロード種卵(個)			10,000	

### (2) 種豚の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌	雄	計	
L(頭)	17	1	18	県内養豚農場
B(頭)	4	3	7	県内養豚農場
LW(頭)	8		8	県内養豚農場
計	29	4	33	

## 6 寄託放牧

(畜産研究所外山畜産研究室：平成21年3月31日現在)

### (1) 牛

品 種	種 類			計(頭)
	成牛雌(頭)	成牛雄(頭)	子牛(頭)	
日本短角種	74	0	63	137

### (2) 馬

品 種	種 類			計(頭)
	成馬雌(頭)	成馬雄(頭)	子馬(頭)	
ブル系等	21	1	4	26

## VIII 人事、予算、財産





1 岩手県農業研究センター予算（H20・2月補正現計）

（単位：千円）

区 分	（内 訳）	予 算 額
<b>【農業費】</b>		
人件費（本部・県北）		830,547
庁舎管理費（本部）		138,439
庁舎管理費（施設整備費）		16,213
ほ場管理費（本部）		56,800
ふれあい公園管理運営費		19,092
庁舎管理費（県北）		27,436
ほ場管理費（県北）		4,691
試験研究費（国庫、委託試験等）		100,098
（1）植物防疫研究費	12,424	
（2）土壌対策研究費	4,305	
（3）農業関係試験研究委託事業費	57,920	
（4）民間委託試験研究費	25,449	
高生産性農業新技術開発促進研究費（県単研究費）		26,375
主要農作物採種管理費		15,079
令達事業（本部）		26,746
令達事業（県北）		4,436
合 計		1,265,952
<b>【畜産業費】</b>		
人件費（畜産）		460,419
庁舎管理費		158,131
飼育管理費		103,219
種山畜産研究室管理費		137,983
試験研究費（国庫、委託試験等）		13,101
農業関係試験研究委託事業	13,101	
高生産性畜産新技術開発促進研究費（県単研究費）		21,722
令達事業		39,290
合 計		933,865
<b>全 体 計</b>		
		2,199,817

2 建物・用地の面積及び飼養家畜数 (H21.3.31 現在)

(1) 建物・用地の面積

	用 地 (ha)							建物 (m <sup>2</sup> )		
	耕 地					林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地	小 計					
本 部	30.2	28.0	21.3		79.5	15.6	22.8	117.9	79	29,676
北 上	25.8	18.0	21.3		65.1		18.4	83.5	32	19,198
主な施設面積 (内数)										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園						15.6	1.5	17.1	13	3,431
南部園芸研究室		1.3			1.3		0.4	1.7	6	1,522
旧銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	25	4,684
その他		8.0			8.0		0.3	8.3	3	841
畜産研究所		136.0		1,534.6	1,670.6	399.4	37.8	2,107.8	181	36,427
滝沢		67.7		14.2	81.9	50.1	32.9	164.9	124	23,299
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	42	6,676
種山畜産研究室		62.5		49.7	112.2	108.0	0.4	220.6	15	6,452
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
合 計	31.2	174.7	21.6	1,534.6	1,762.1	415.0	68.8	2,245.9	261	62,508

(2) 飼養家畜頭数

(単位：頭・羽)

種別性別		雄	雌	計	品種別頭羽数
乳 用 牛	経産牛		60	60	ホルスタイン種 96
	育成牛 (子牛含む)		36	36	
肉 用 牛	(滝沢)	90	47	137	黒毛和種 55、日本短角種 72、交雑種 10
	(外山)	14 (♂7 去7)	128	142	黒毛和種 82 日本短角種 59、交雑種 1
	(種山)	96	61	157	黒毛和種 142、交雑種 15
牛 計		178	354	532	
豚	種豚	12	34	46	【種豚の内訳】パークシャー種 16、ランドレース種(イワテハヤチネ L2)13、大ヨークシャー種 2、デュロック種 2、雑種 13
	子豚	120	121	241	
計		132	155	287	
鶏	種鶏	230	1,290	1,520	岩手地鶏 200、岩手大型ロード 350、基礎鶏 250、ホワイトロックロード 500、軍鶏 200、ホワイトロック 20
	南部かしわ雛		480	480	
計		230	1,770	2,000	

### 3 種苗登録、特許等

#### (1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544号	S59. 3.19
りんどう	ジョバンニ	第 1,101号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第 2,517号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第 2,516号	H 2.12. 5
りんどう	アルビレオ	第 2,553号	H 2.12. 5
りんどう	マシリィ	第 3,073号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第 3,074号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第 3,947号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第 4,085号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第 4,410号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第 4,411号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	第 7,713号	H12. 2.22
りんどう	ももこりん	第 7,714号	H12. 2.22
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715号	H12. 2.22
大豆	星めぐり	第 7,756号	H12. 2.22
稲	吟ぎんが	第10,471号	H14. 9. 4
スターチス	アイスター モーブ	第10,673号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ラベンダー	第10,674号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラックブルー	第10,675号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ロージーピンク	第10,676号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラック	第10,677号	H14. 9.30
稲	ぎんおとめ	第10,963号	H15. 2.20
大豆	ちゃげ丸	第11,099号	H15. 3.17
大豆	ぷっくらこ	第11,100号	H15. 3.17
稲	いわてっこ	第12,177号	H16. 8.18
きく	アイمامアーリーイエロー	第13,034号	H17. 3.23
きく	アイمامホワイト	第13,035号	H17. 3.23
きく	アイمامピンク	第13,036号	H17. 3.23
きく	アイمامイエロー	第13,037号	H17. 3.23
きく	アイمامホワイトピーチ	第13,038号	H17. 3.23
稲	もち美人	第13,295号	H17. 9.13
りんご	黄香	第13,771号	H18. 2.27
きく	アイمامレモンイエロー	第13,800号	H18. 2.27
きく	アイمامオータムホワイト	第13,801号	H18. 2.27
きく	アイمامパープルレッド	第13,802号	H18. 2.27
きく	アイمامアーリーホワイト	第13,803号	H18. 2.27
きく	アイمامオレンジ	第15,952号	H19.12.18
きく	アイمامレッド	第15,953号	H19.12.18
稲	どんびしゃり	第16,604号	H20. 3.17
りんどう	マジエル	第16,725号	H20. 3.17
りんどう	キュースト	第16,726号	H20. 3.17
スターチス	アイスター ソフトピンク	出願番号第18,507号	出願 (H17. 7. 8)
きく	アイمامオータムイエロー	第17,727号	H21. 3. 6
きく	アイمامオータムレッド	第17,728号	H21. 3. 6
きく	アイمامピュアホワイト	第17,968号	H21. 3.19
りんご	岩手7号	出願番号第22,294号	出願 (H20. 3.14)

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
稲	あけのむらさき	出願番号第 22,432 号	出願 (H20. 4. 2)
稲	吟さやか	出願番号第 22,433 号	出願 (H20. 4. 2)
稲	ゆきおとめ	出願番号第 22,434 号	出願 (H20. 4. 2)
稲	かぐやの舞	出願番号第 22,435 号	出願 (H20. 4. 2)
稲	つづみ星	出願番号第 22,436 号	出願 (H20. 4. 2)
りんどう	いわて VEB6 号	出願番号第 23,382 号	出願 (H21. 1.16)
ひえ	ねばりっこ 1 号	出願番号第 23,655 号	出願 (H21. 3.31)
ひえ	ねばりっこ 2 号	出願番号第 23,656 号	出願 (H21. 3.31)
ひえ	ねばりっこ 3 号	出願番号第 23,657 号	出願 (H21. 3.31)

## (2) 特許、実用新案

名 称	出願・公開番号 (年月日)	登録番号 (年月日)
米を原料とした飲料の製造方法	特開平 03-272671 (H 3.12. 4)	1990534(H 7.11. 8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	特開平 10-276514 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
マクロシードペレットの散布装置	特開平 10-276516 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
遺伝子導入りんご及びその作出法	特開 2000-270700 (H12.10. 3)	(公開・拒絶査定)
果樹の育成状態評価方法	特開 2004-147539 (H16. 5.27)	4026684(H19.10.19)
土壌用有機成分の推定装置	特開 2005-017115 (H17. 1.20)	3902160(H19. 1.12)
ハトムギ食品の製造方法	特開 2005-040104 (H17. 2.17)	3842253(H18. 8.18)
家畜用胚移植器	特開 2006-181078 (H18. 7.13)	4111523(H20. 4.18)
降霜予測装置	特開 2006-189403 (H18. 7.20)	4053544(H19.12.14)
有機肥料の製造方法及び有機肥料	特開 2006-265027 (H18.10. 5)	4240492(H21. 1. 9)
物質の成分推定方法及び物質の成分推定装置	特開 2007-187486 (H19. 7.26)	4258780(H21. 2.20)
水田作業機の排水溝形成装置	特願 2008-304112(H20.11.28)	(出願・審査請求中)
りんどうの鮮度保持用包装袋及びりんどうの保存方法	特願 2009-008551(H21. 1.19)	(出願中)
高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培方法	特願 2009-078260(H21. 3.27)	(出願・審査請求中)

## (3) 一般に公開しているプログラム等

名 称	公開 (年月日)	バージョン	開発研究室 (担当)
「生産技術体系」及び「営農計画作成支援シート」	平成 18 年 2 月 22 日	Ver. 1.2	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
集落営農組織化効果試算シート	平成 18 年 6 月 9 日	Ver. 0.1	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
作業可能日数率算出支援シート	平成 19 年 3 月 30 日	Ver. 1.0	生産工学研究室 (主任専門研究員 大里達朗)
里地里山の生き物紹介	平成 20 年 7 月 9 日	Ver. 1.0	プロジェクト推進室 (専門研究員 佐藤千穂子)

#### 4 表彰

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
畜産研究功労者表彰（全国畜産関係場所長会）	畜産研究所次長 小松 繁樹	永年畜産の研究に従事し顕著な業績をあげ、畜産の発展に貢献	20.06.17
園芸学会東北支部賞（普及部門賞）（園芸学会東北支部）	南部園芸研究室長 佐藤 弘 主任専門研究員 細川 健	岩手県におけるピーマン PMMoV 抵抗性（L <sup>3</sup> ）打破ウイルス監視体制の構築による生産安定	20.08.20
実績顕著者表彰（岩手県）	プロジェクト推進室長 及川 一也 作物研究室長 佐々木 力 主任専門研究員 高橋 昭喜 主任専門研究員 渡邊 麻由子 技能員 小黒澤 清人	大豆小畦立て播種栽培技術の開発・普及	20.10.29
北日本病害虫研究会賞（北日本病害虫研究会）	技師 菅 広和 技師 田中 誉志美	アカスジカスミカメの生態に関する2,3の知見	21.02.16
（農林水産部長表彰） 平成20年度第2回農林水産部長表彰	専門研究員 大友 英嗣	肥料価格の高騰に対応した「岩手型の肥料コスト低減対策」の構築	21.03.16
平成20年度第2回農林水産部長表彰	家畜育種研究室長 吉田 力 専門研究員 安田 潤平	自給粗飼料を主体とした日本短各種の肥育技術の確立と普及・拡大	21.03.16
（内部表彰） 平成20年度第1回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員 前山 薫 専門研究員 阿部 直行 専門研究員 松浦 貞彦 農業経営研究室長 小川 勝弘 主任専門研究員 昆野 善孝 主査 照井 博幸 主任専門研究員 林尻 雄大 主任専門研究員 日影 勝幸 技能員 西野 哲仁 専門研究員 畠山 隆幸 主任専門研究員 高橋 司 主任農業普及員 小野 浩司 専門研究員 大野 浩 園芸研究室長 田村 博明 専門研究員 岩舘 康哉 専門研究員 安田 潤平 家畜育種研究室長 吉田 力 次長 小松 繁樹 専門研究員 田代 勇樹 主任専門研究員 川戸 善徳 園芸研究室長 佐藤 正昭 専門研究員 吉田 樹史	集落営農組織育成に向けた体系的な研究と行政支援活動 ISO14001 更新審査事務等において抜群の努力 水稻原種・原々種生産マニュアル作成による業務改善とリスク低減 りんごオリジナル品種「岩手7号」の育成 コムギ赤かび病の防除適期 自給飼料を主体とした日本短角種の肥育技術の確立 レタス腐敗性病害の耕種的防除法	20.07.30

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
平成20年度第2回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員 日影 勝幸	水稲湛水直播栽培の生育予測による収穫適期の算定	20. 12. 01
	主任専門研究員 高橋 正樹	プロジェクト研究を活かした試験研究推進システムの改善	
	専門研究員 阿部 直行 農業経営研究室長 小川 勝弘	稲作コスト低減技術情報ナビの作成	
	主任専門研究員 川村 浩美 主任専門研究員 千葉 賢一 専門研究員 中里 崇	りんどうオリジナル品種「極々早生6」の育成	
	専門研究員 藤尾 拓也 南部園芸研究室長 佐藤 弘	いちご促成前進作型における年内収量向上技術の開発	
	主任 阿部 亜希子 主査 熊谷 拓哉 技師 佐藤 美和子	病害虫診断の定着までの一体的取組	
	主任技能員 岩崎 春見	研究調査業務の補佐に長年に従事し、試験研究の円滑な推進及び若手の育成に貢献	
	専門研究員 平久保 友美	飼料用トウモロコシの不耕起栽培による省力栽培技術の確立	
平成20年度第3回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員 伊藤 勝浩 主任専門研究員 日影 勝幸 プロジェクト推進室長 及川 一也 技術部長 鶴田 正明	水稲湛水直播における作溝同時直播装置の開発及び特許出願	20. 02. 25
	専門研究員 白井 智彦 主任専門研究員 伊藤 勝浩	水稲における固定式タイン型除草機の除草効果	
	主任専門研究員 鈴木 元	競争型資金確保に向けた環境改善	
	農業経営研究室長 小川 勝弘	特定課題調査検討チームへの積極的参画	
	主査 小野 演彦 主事 須賀 美奈子 主事 古舘 奈奈	生産物販売収入の増収について	
	上席専門研究員 菅原 浩視 専門研究員 阿部 陽 専門研究員 高草木 雅人 主任専門研究員 仲條 眞介 主任専門研究員 吉田 宏 専門研究員 及川 あや 作物研究室長 佐々木 力	非主食用米多収品種「岩南29号」、「岩手85号」の育成およびその「施肥法」	

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
	専門研究員 伊藤 信二 作物研究室長 大清水 保見	研究成果「納豆用大豆『すずほのか』の播種適期及び好適栽植密度」の提案	
	上席専門研究員 鈴木 良則 専門研究員 葉上 恒寿	資材費（肥料費）高騰に対応した肥料費低減のための試験研究成果	
	主任専門研究員 猫塚 修一 主任専門研究員 川村 浩美 主任専門研究員 川戸 善徳	リンドウの育苗中に発生する苗腐敗症の防除対策の確立	
	技師 菅 広和 専門研究員 横田 啓 病気昆虫研究室長 鈴木 敏男 技師 小川 真理子	斑点米カメムシの耕種的防除及び農薬の効果的使用法に係る研究開発と技術定着までの一体的取組	
	専門研究員 佐々木 直 家畜育種研究室長 吉田 力	肥育豚への地域資源の飼料利用技術の確立	
	主任専門研究員 川戸 善徳 専門研究員 成田 恵美 園芸研究室長 佐藤 正昭 技能員 清水 賢一	県北地域における9～10月出荷用小ぎくの栽培体系	

## 5 職員名簿

(平成21年3月31日現在)

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	
所長	武田 眞一	専門研究員	伊藤 信二	技師	佐藤 由美子	
副所長	宮下 慶一郎	専門研究員	及川 あや	技師	佐藤 美和子	
プロジェクト推進室長	及川 一也	専門研究員	高草木 雅人	技師	藤田 章宏	
主任専門研究員	伊藤 勝浩	技能員	菊地 徳章	技師	小川 真理子	
主任専門研究員	高橋 昭喜	園芸研究室長	田村 博明	技師	菅 広和	
主任専門研究員	日影 勝幸	主任専門研究員	川村 浩美	畜産研究所所長	三浦 牧夫	
主任専門研究員	渡邊 麻由子	主任専門研究員	漆原 昌二		次長	小沢 幸雄
プロジェクト推進室長	多田 勝郎	主任専門研究員	千葉 賢一		次長	小松 繁樹
主任専門研究員	細川 健	主任専門研究員	高橋 司		次長	山田 和明
専門研究員	臼井 智彦	主任専門研究員	小野 浩司		主幹兼総務課長	陣場 秀信
専門研究員	佐藤 千穂子	主任専門研究員	星 伸枝		主任主査	柳本 登
専門研究員	洞口 博昭	主任専門研究員	赤坂 志保		主任	吉田 由美子
技能員兼運転技士	佐藤 広昭	主任専門研究員	高橋 拓也		主任	西山 富士子
技能員	中軽米 徳典	専門研究員	大野 浩		運転技士兼技能員	吉田 正弘
企画管理部長	古川 勉	専門研究員	中里 崇		主任技能員	関村 武志
研究企画室長	小田原 和弘	専門研究員	山口 貴之	主任技能員	小笠原 幸一郎	
主任専門研究員	稲田 聖児	専門研究員	畠山 隆幸	主任技能員	岩崎 春見	
主任専門研究員	鈴木 元	技能員	西野 哲仁	主任技能員	石川 勝美	
主任専門研究員	伊勢 智宏	技能員	小黒澤 清人	主任技能員	小林 雄二	
主任専門研究員	高橋 正樹	南部園芸研究室長	佐藤 弘	主任技能員	米沢 健治	
専門研究員	阿部 弘	主任専門研究員	高橋 豊	主任技能員	右京 隆二	
農業経営研究室長	小川 勝弘	専門研究員	藤尾 拓也	主任技能員	工藤 明彦	
主任専門研究員	藤原 敏	環境部長	千葉 泰弘	主任技能員	荒木田 俊一	
主任専門研究員	須藤 勇人		生産環境室長	小菅 裕明	主任技能員	佐藤 洋貴
主任専門研究員	昆野 善孝		上席専門研究員	鈴木 良則	主任技能員	竹田 政則
主任専門研究員	前山 薫		主任専門研究員	中野 亜弓	技能員	菅原 薫
主任専門研究員	豊坂 光弘		専門研究員	大友 英嗣	技能員	永洞 俊司
専門研究員	松浦 貞彦		専門研究員	宍戸 貴洋	技能員	細野 貴樹
専門研究員	阿部 直行		専門研究員	氏橋 明子	技能員	鷺見 義信
技能員	菅野 輝彦		専門研究員	葉上 恒寿	技能員	畠山 博文
総務課長	小山 武彦		病理昆虫研究室長	鈴木 敏男	技能員	水澤 博征
主査	小野 演彦		主任専門研究員	猫塚 修一	技能員	上澤 賢輝
主査	照井 博幸	専門研究員	羽田 厚	技能員	谷地 館透	
主事	須賀 美奈子	専門研究員	横田 啓	技能員	荒屋 康之	
主事	古館 奈奈	専門研究員	佐々木 直子	技能員	西野 聖	
主事	小林 慶幸	専門研究員	岩 館 康哉	家畜育種研究室長	吉田 力	
技術部長	鶴田 正明	技能員兼運転技士	貉 澤 哲哉	上席専門研究員	佐藤 直人	
作物研究室長	佐々木 力	病虫害防除部長	赤坂 安盛	上席専門研究員	細川 泰子	
上席専門研究員	菅原 浩視		病虫害防除課長	阿部 武美	専門研究員	佐藤 洋一
主任専門研究員	小綿 寿志		主任主査	阿部 信治	専門研究員	安田 潤平
主任専門研究員	林 尻雄大		主査	熊谷 拓哉	専門研究員	佐々木 直
専門研究員	阿部 陽		主任	阿部 亜希子	技師	米澤 智恵美



職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
家畜飼養・飼料研究室長	菊池 雄				
主任専門研究員	堀間 久己				
主任専門研究員	茂呂 勇悦				
専門研究員	平久保 友美				
専門研究員	越川 志津				
専門研究員	尾張 利行				
外山畜産研究室長	砂子田 哲				
主任専門研究員	藤澤 牧人				
主任専門研究員	濱戸 もえぎ				
専門研究員	谷藤 直子				
主任技能員	藤原 時夫				
主任技能員	上野 由克				
技能員	鳴海 茂揮				
技能員	葉木澤 一也				
種山畜産研究室長(次長兼務)	山田 和明				
上席専門研究員	菊池 正				
上席専門研究員	熊谷 光洋				
専門研究員	渡辺 彩				
専門研究員	藤村 和哉				
主事	管野 潔				
主任技能員	斎藤 和一				
主任技能員	中村 健				
技能員	松本 徹				
技能員	後藤 克明				
<b>県北農業研究所長</b>	<b>武藤 和夫</b>				
次長	高橋 修				
主幹兼総務課長	作山 匠				
主査	阿部 君男				
運転技士兼技能員	日山 千代司				
技能員	清水 賢一				
技能員	藤根 寛道				
園芸研究室長	佐藤 正昭				
主任専門研究員	藤沢 巧				
主任専門研究員	川戸 善徳				
専門研究員	成田 恵美				
専門研究員	田代 勇樹				
作物研究室長	大清水 保見				
主任専門研究員	吉田 宏				
主任専門研究員	荻内 謙吾				
主任専門研究員	仲條 眞介				
専門研究員	吉田 樹史				

## 沿革

- 明治 31 年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治 34 年 農事試験場（3 部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。  
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治 35 年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治 36 年 農事試験場に園芸部（4 部制）を新設。
- 大正 2 年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現奥州市水沢区）に設置。
- 大正 8 年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現奥州市江刺区）に設置。
- 大正 11 年 原蚕種製造所を蚕業試験場（4 係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正 12 年 農事試験場に病虫害部（5 部制）を新設。  
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村（現盛岡市玉山区）に移転（滝沢は支場となる）。
- 昭和 2 年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現盛岡市玉山区）に設置。
- 昭和 5 年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。  
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和 10 年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村（現遠野市）に設置。
- 昭和 12 年 種畜場本場を滝沢村に移転、玉山は外山支場となる。  
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和 13 年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和 15 年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和 21 年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和 22 年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和 23 年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和 25 年 農事試験場を農業試験場（4 部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。  
農業試験場畜産部を種畜場と併設。  
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町（現花巻市大迫町）に設置。  
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び  
気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和 26 年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。  
農業試験場に遠野試験地が国から移管。  
農業試験場に農業経営研究部門設置。  
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和 28 年 蚕業試験場を水沢市（現奥州市水沢区）龍ヶ馬場に移転。
- 昭和 30 年 農業試験場本場機構改革（8 部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫害・経営・農機具・畜産）。  
蚕業試験場機構改革（4 部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）。
- 昭和 32 年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和 36 年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和 37 年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場（3 部制：庶務・果樹・蔬菜花  
卉）を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。  
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。  
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。  
農業試験場遠野試験地及び沿岸作物試験地を廃止。  
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和 38 年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和 39 年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和 41 年 農業試験場本場機構改革（4 部制：庶務 2 係・技術・環境・経営）。
- 昭和 44 年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和 46 年 農業試験場本場機構改革（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・土  
壤改良科・病虫害科、経営部：経営科・流通経済科）。  
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。  
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。  
園芸試験場に環境部を設置。  
園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。  
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。

- 昭和 47 年 園芸試験場南部分場を陸前高田市米崎町から同市高田町へ移転。
- 昭和 48 年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
- 昭和 51 年 農業試験場作業技術科を農業機械科に改称。
- 昭和 53 年 蚕業試験場六原試験地を廃止。  
蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
- 昭和 56 年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
- 昭和 57 年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和 58 年）。
- 平成 3 年 農業試験場に水稻育種科を設置。
- 平成 8 年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
- 平成 9 年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。  
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。  
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。  
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。  
畜産試験場を畜産研究所に改組。  
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。  
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成 10 年 園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置（繭検定所を廃止）。  
センター本部に専門技術員を配置。
- 平成 11 年 企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
- 平成 13 年 病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。  
銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室及び同研究室繭品質評価分室を廃止。  
南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。
- 平成 16 年 総務部管理課を同部総務課に統合。  
県北農業研究所にいわて雑穀遺伝資源センターを設置。  
企画経営情報部内にいわて農林水産知的財産相談センターを設置。
- 平成 17 年 病害虫防除課県北農業研究所駐在を廃止、病害虫防除所（本部）へ統合。  
専門技術員（県北農業研究所勤務）を専門技術員室（本部）へ勤務振り替え。
- 平成 18 年 専門技術員室を廃止（中央農業改良普及センターへ勤務振り替え）。
- 平成 20 年 センター本部が 2 プロジェクト推進室 4 部体制、畜産研究所が 1 課 4 研究室、県北農業研究所が 1 課 2 研究室に再編整備。

< 所 在 >

<u>岩手県農業研究センター</u>			
本部	〒024-0003	岩手県北上市成田 20-1	Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/">http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/</a> Email : CE0008@pref.iwate.jp (本部) Email : CE0001@pref.iwate.jp (病害虫防除所)
(南部園芸研究室)	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎 101	Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込 737-1	Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327 Email : CE0010@pref.iwate.jp
(外山畜産研究室)	〒028-2711	岩手県盛岡市玉山区藪川字大の平 40	Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(種山畜産研究室)	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字子飼沢 30	Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177 Email : CE0034@pref.iwate.jp
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1	Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011 Email : CE0009@pref.iwate.jp

**平成20年度 岩手県農業研究センター年報**

平成22年2月 発行

岩手県農業研究センター

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL (0197) 68-2331 FAX (0197) 68-2361

IWATE-AGRICULTURAL RESEARCH CENTER

20-1Narita,Kitakami Iwate 024-0003,Japan